駒　ヶ　根　都　市　計　画
基　礎　調　査　報　告　書

（概 要 版）

平成３１年３月

長野県　宮田村

駒ヶ根都市計画基礎調査
（宮田村）

目　　次

１．人　口

C0101-1　人口総数及び増加数 ―― 1

C0101-2　年齢･性別人口･ピラミッド ―― 2

C0103　将来人口 ―― 4

C0104　人口増減の内訳 ―― 6

C0105　通勤･通学移動 ―― 8

２．産　業

C0201-1　産業大分類別就業者数 ―― 12

■　産業大分類別人口の推計 ―― 16

C0201-2　職業大分類別就業者数 ―― 17

C0202-1　事業所数･従業者数･売上金額 ―― 19

C0202-2　産業中分類別工業出荷額 ―― 23

■　工業出荷額の推計(実質出荷額) ―― 30

C0202-3　産業中分類別商業販売額 ―― 31

■　商業販売額の推計(実質販売額) ―― 34

３．土地利用

C0302　土地利用現況 ―― 35

C0304　宅地開発状況 ―― 37

C0305　農地転用状況 ―― 38

C0307　新築動向 ―― 39

C0308　条例・協定 ―― 41

４．建　物

C0401-2　建物構造別現況 ―― 42

C0401-3　地区別建ぺい率現況 ―― 43

C0401-4　地区別容積率現況 ―― 44

C0401-5　地区別・用途別の建物延べ床面積現況 ―― 45

C0401-6　建物年齢別現況 ―― 46

C0402　大規模小売店舗等の立地状況 ―― 47

５．都市施設

C0501　都市施設の整備状況 ―――― 47

６．交　通

C0601　主要な幹線の断面交通量･混雑度･旅行速度 ―――― 48
C0603　鉄道・路面電車等の状況 ―――― 50
C0604　バスの状況 ―――― 50

７．地　価

C0701　地価の状況 ―――― 51

８．自然的環境等

C0802　気象状況 ―――― 52
C0803　緑の状況 ―――― 54

９．災害

C0901　災害の発生状況 ―――― 55
C0902　防災拠点・避難場所 ―――― 55

- 項目の番号については都市計画基礎調査実施要綱と同一の番号です。
- 数字の単位未満は、四捨五入を原則としました。したがって総数と内容の計が一致しない場合もあります。
- 表中の符号は、次のとおりです。
  （－）該当数字なし
  （χ）統計法により公表をひかえたもの
  （０）単位未満
  （△）マイナス

１．　人　　口

C0101-1　人口総数及び増加数

本村の平成27年の総人口は8,821人で、平成7年から平成27年までの5年毎の増加率はそれぞれ7.3%、3.2%、0.1%、△1.7%となっている。平成7年から平成22年にかけて人口は増加していたが、平成27年には153人(1.7%)の減少に転じている。

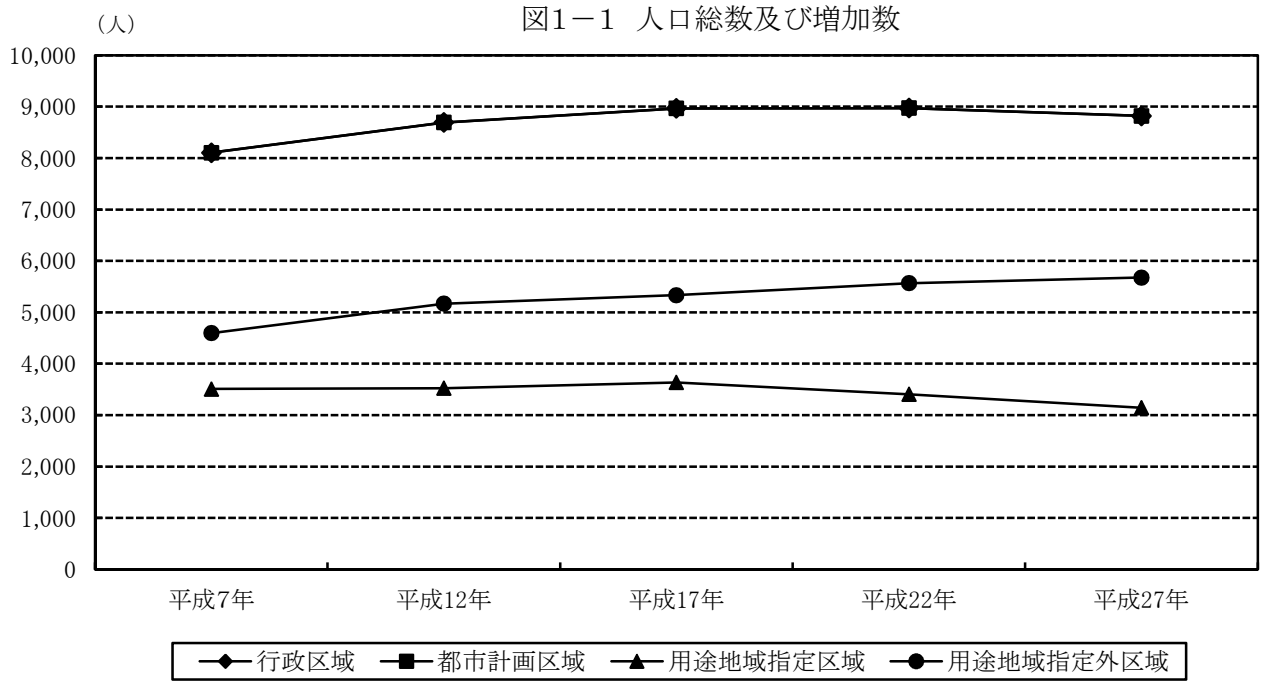
平成27年における区域別の人口構成をみると、用途地域指定区域の人口は3,145人(全人口の35.7%)、用途地域指定外区域の人口は5,676人(全人口の64.3%)である。用途地域指定区域の人口については、平成7年から平成17年にかけて増加していたが、平成22年以降減少に転じている。用途地域指定外区域については、平成7年以降連続して増加している。

表1－1　人口総数及び増加数

区　域	平成7年人口	7年～12年の増減		平成12年人口	12年～17年の増減		平成17年人口	17年～22年の増減		平成22年人口	22年～27年の増減		平成27年人口
		人口	率		人口	率		人口	率		人口	率	
	人	人	%	人	人	%	人	人	%	人	人	%	人
行政区域	8,103	589	7.3	8,692	276	3.2	8,968	6	0.1	8,974	△ 153	△ 1.7	8,821
都市計画区域	8,103	589	7.3	8,692	276	3.2	8,968	6	0.1	8,974	△ 153	△ 1.7	8,821
用途地域指定区域計	3,508	15	0.4	3,523	113	3.2	3,636	△ 230	△ 6.3	3,406	△ 261	△ 7.7	3,145
用途地域指定外区域	4,595	574	12.5	5,169	163	3.2	5,332	236	4.4	5,568	108	1.9	5,676

資料:国勢調査(各年10月1日)

図1－1　人口総数及び増加数



C0101-2　年齢・性別人口・ピラミッド

平成27年の年齢別人口は、年少人口(0～14歳)は1,339人、生産年齢人口(15～64歳)は4,983人、老年人口(65歳以上)は2,477人である。

年齢別に20年間の推移をみると、年少人口は52人増加(15年間では80人減少)、生産年齢人口は359人減少している。一方、老年人口は伸びており、20年間で1,003人増加している。

平成27年の年齢別人口の構成比は年少人口が15.2%、生産年齢人口が56.5%、老年人口が28.1%となっており、老年人口比は県平均(26.5%)と比べて高い割合となっている。

年齢構成指数では、平成7年から平成27年までの20年間で年少人口指数は2.8%の増加、老年人口指数は22.1%の増加となっている。老年化指数については平成7年の114.5%に対し、平成27年には70.5%増加の185.0%と高い値を示している。

表1－2　年齢階層別人口・構成比(行政区域)

(単位:人)

階層	平成7年			平成12年			平成17年			平成22年			平成27年			
	総計	男	女	総計	男	女	総計	男	女	総計	男	女	総計	男	女	
0～4	408	205	203	523	275	248	452	234	218	451	246	205	399	202	197	年少人口
5～9	383	201	182	487	235	252	553	270	283	480	243	237	455	245	210	
10～14	496	252	244	409	221	188	523	259	264	554	275	279	485	249	236	
年少人口	1,287	658	629	1,419	731	688	1,528	763	765	1,485	764	721	1,339	696	643	
15～19	482	228	254	447	227	220	373	202	171	428	221	207	468	239	229	生産年齢人口
20～24	480	232	248	403	192	211	361	152	209	329	162	167	301	153	148	
25～29	489	255	234	595	314	281	527	257	270	431	220	211	354	188	166	
30～34	501	267	234	581	297	284	665	342	323	525	256	269	439	215	224	
35～39	489	251	238	588	325	263	603	309	294	717	369	348	552	268	284	
40～44	568	296	272	536	273	263	596	321	275	607	303	304	720	361	359	
45～49	709	338	371	560	291	269	520	262	258	564	298	266	612	306	306	
50～54	604	298	306	702	334	368	556	291	265	489	246	243	552	285	267	
55～59	483	223	260	584	290	294	670	320	350	520	270	250	476	244	232	
60～64	537	261	276	482	217	265	585	282	303	667	305	362	509	259	250	
生産年齢人口	5,342	2,649	2,693	5,478	2,760	2,718	5,456	2,738	2,718	5,277	2,650	2,627	4,983	2,518	2,465	
65～69	517	240	277	517	252	265	491	216	275	579	273	306	648	299	349	老年人口
70～74	391	162	229	499	223	276	486	242	244	459	199	260	553	258	295	
75～79	261	104	157	346	128	218	450	192	258	459	218	241	425	183	242	
80～84	184	75	109	231	82	149	293	98	195	370	149	221	398	176	222	
85～90	91	30	61	146	49	97	166	53	113	212	66	146	294	98	196	
90～	30	14	16	56	17	39	96	23	73	124	31	93	159	42	117	
老年人口	1,474	625	849	1,795	751	1,044	1,982	824	1,158	2,203	936	1,267	2,477	1,056	1,421	
年齢不詳	0	0	0	0	0	0	2	0	2	9	7	2	22	15	7	
総計	8,103	3,932	4,171	8,692	4,242	4,450	8,968	4,325	4,643	8,974	4,357	4,617	8,821	4,285	4,536	年少人口＋老年人口＝従属人口

資料：国勢調査(各年10月1日)

図1－2　年齢･性別人口(行政区域)

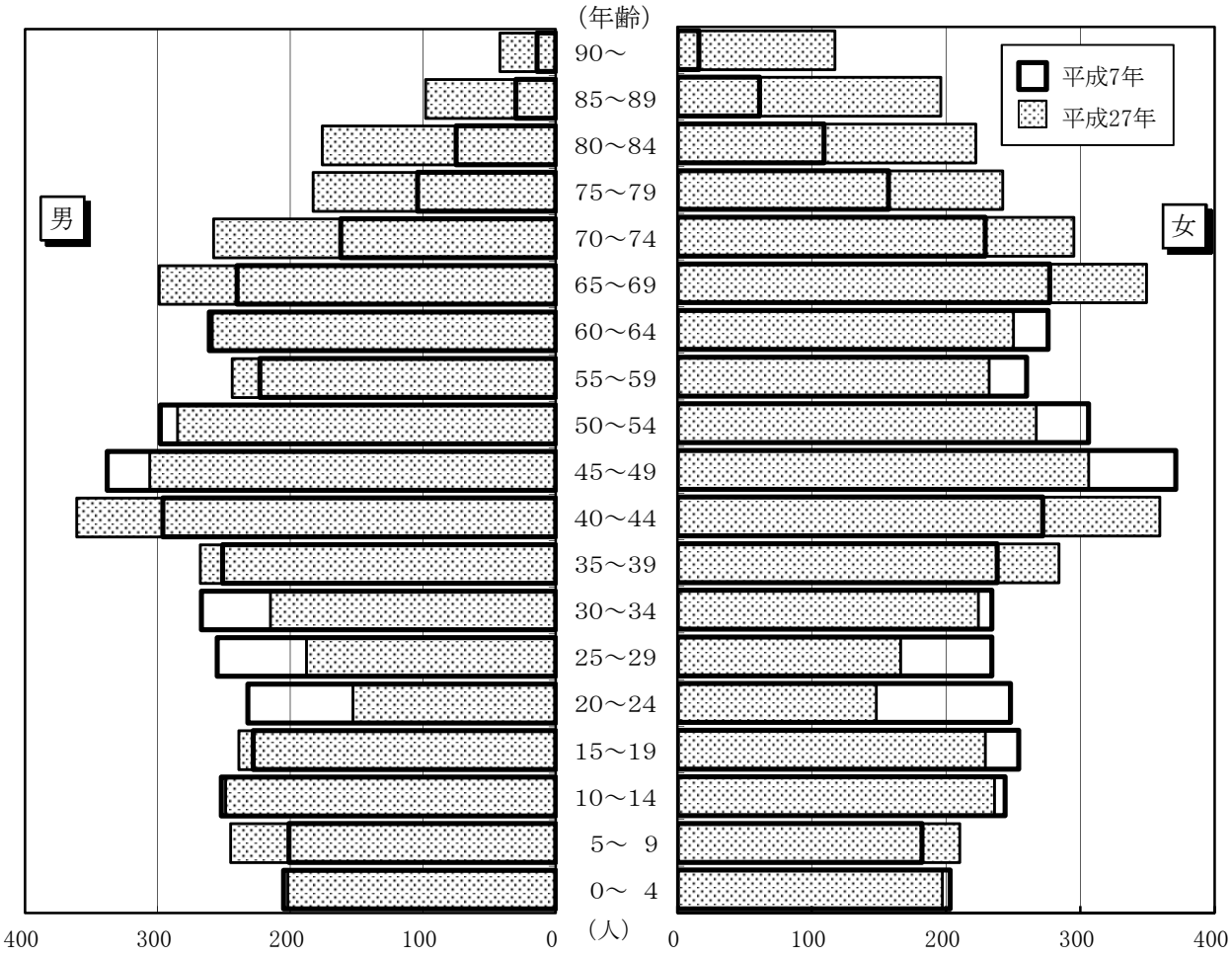


表1－3　年齢構成指数の推移　　(単位:%)

	年少人口指数	老年人口指数	従属人口指数	老年化指数
平成7年	24.1	27.6	51.7	114.5
平成12年	25.9	32.8	58.7	126.5
平成17年	28.0	36.3	64.3	129.7
平成22年	28.1	41.7	69.9	148.4
平成27年	26.9	49.7	76.6	185.0

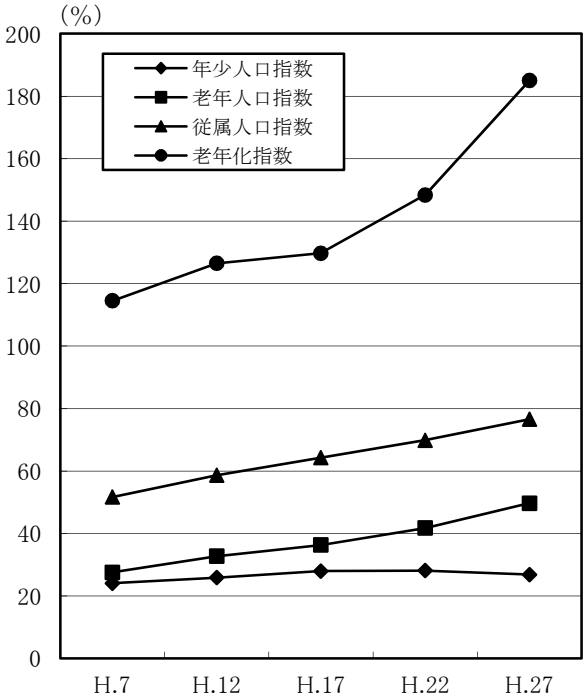
年少人口指数=年少人口/生産年齢人口×100

老年人口指数=老年人口/生産年齢人口×100

従属人口指数＝(年少人口＋老年人口)/生産年齢人口×100

老年化指数=老年人口/年少人口×100

図1－3　年齢構成指数の推移

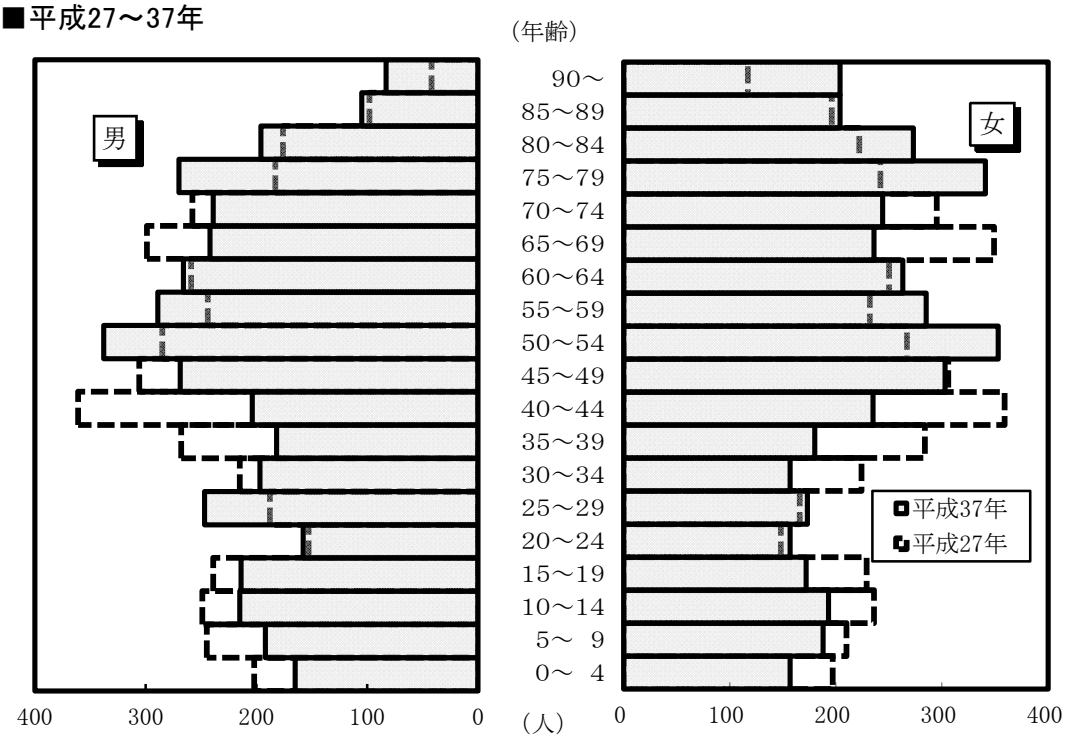


C0103 将来人口

平成22年と平成27年の5歳階級別年齢人口を基に行った、日本の市区町村別将来推計人口〔国立社会保障・人口問題研究所〕による10年後、20年後の推計結果は、平成37年8,389人、平成47年で7,708人と推計され、平成27年から平成47年までの増減率は、平成37年で-4.9％（432人減少）、平成47年で-12.6％（1,113人減少）である。

図1－4 年齢別人口の将来推計

■平成27～37年



■平成27～47年

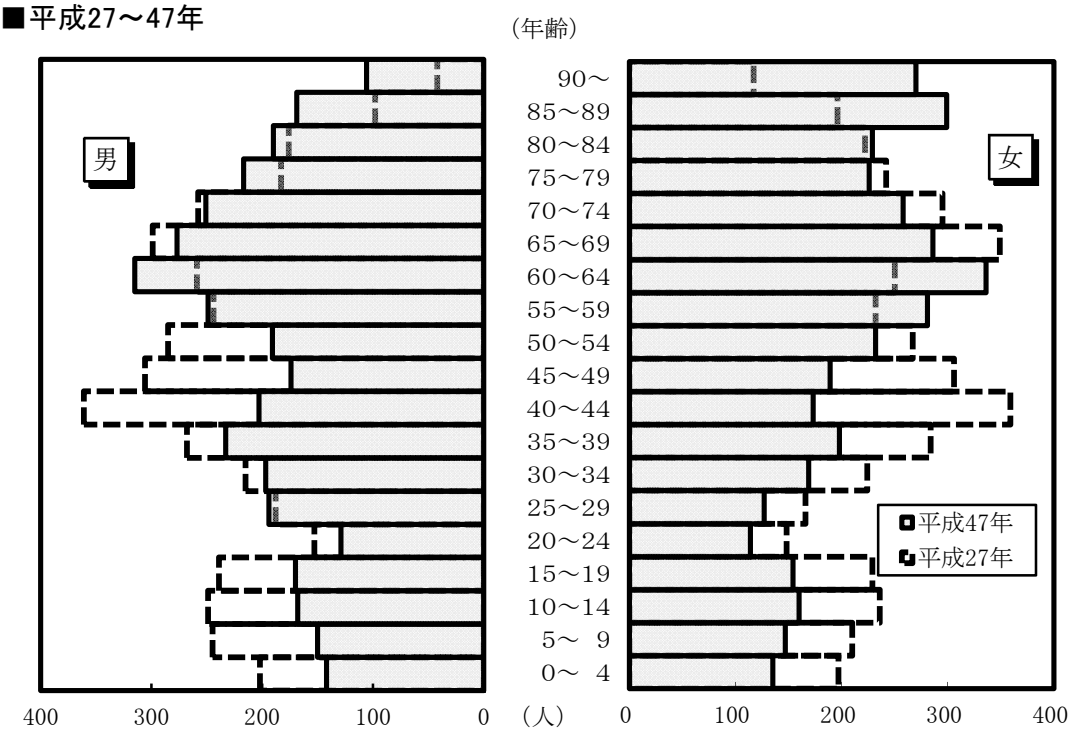


表1－4　年齢･性別将来人口

（単位：人）

年	実績			推計値																	
	平成２７年			平成３２年			平成３７年			平成４２年			平成４７年			平成５２年			平成５７年		
階層	総　数	男	女	総　数	男	女	総　数	男	女	総　数	男	女	総　数	男	女	総　数	男	女	総　数	男	女
0～ 4	399	202	197	377	193	184	322	165	157	293	150	143	277	142	135	260	133	127	242	124	118
5～ 9	455	245	210	404	210	194	380	192	188	325	164	161	297	150	147	280	141	139	264	133	131
10～14	485	249	236	458	248	210	408	215	193	383	196	187	328	168	160	299	153	146	283	145	138
15～19	468	239	229	453	229	224	386	214	172	344	185	159	324	170	154	277	145	132	252	132	120
20～24	301	153	148	384	205	179	315	158	157	272	148	124	243	129	114	228	118	110	195	101	94
25～29	354	188	166	350	204	146	420	247	173	363	206	157	321	194	127	290	174	116	272	160	112
30～34	439	215	224	344	174	170	354	197	157	415	229	186	366	197	169	323	186	137	293	168	125
35～39	552	268	284	434	207	227	362	182	180	371	205	166	431	233	198	385	205	180	339	193	146
40～44	720	361	359	577	277	300	439	204	235	367	180	187	376	203	173	435	230	205	389	202	187
45～49	612	306	306	715	351	364	572	269	303	436	198	238	363	174	189	372	197	175	431	223	208
50～54	552	285	267	599	301	298	691	338	353	553	259	294	423	191	232	352	168	184	361	190	171
55～59	476	244	232	538	274	264	574	289	285	662	324	338	530	249	281	406	184	222	338	162	176
60～64	509	259	250	481	246	235	529	266	263	564	280	284	651	315	336	522	242	280	401	179	222
65～69	648	299	349	501	250	251	478	242	236	527	262	265	563	277	286	650	312	338	524	241	283
70～74	553	258	295	640	290	350	483	239	244	461	231	230	509	251	258	545	266	279	630	300	330
75～79	425	183	242	521	234	287	611	270	341	461	223	238	443	217	226	488	235	253	526	251	275
80～84	398	176	222	377	148	229	469	196	273	557	230	327	419	190	229	404	186	218	450	204	246
85～89	294	98	196	317	120	197	309	105	204	388	141	247	468	169	299	350	140	210	342	139	203
90～	159	42	117	230	62	168	287	83	204	314	86	228	376	106	270	467	132	335	438	126	312
不　詳	22	15	7																		
総　計	8,821	4,285	4,536	8,700	4,223	4,477	8,389	4,071	4,318	8,056	3,897	4,159	7,708	3,725	3,983	7,333	3,547	3,786	6,970	3,373	3,597

資料：日本の市区町村別将来推計人口（平成30年推計、国立社会保障・人口問題研究所〕

C0104 人口増減の内訳

平成2年から平成29年までの人口増減の推移をみると、自然増は平成21年までは出生者数が死亡者数を概ね上回っていたが、平成22年以降は、死亡者数が出生者数を上回るようになり自然増は減少傾向である。

社会増では、平成18年以前では平成2年、平成6年、平成15年を除いて増加となっていたが、平成19年以降は、転出者が転入者を上回り減少傾向である。

表1－5 人口増減の内訳 （単位:人）

	年	H2年	H3年	H4年	H5年	H6年	H7年	H8年	H9年	H10年	H11年	H12年	H13年	H14年	H15年
行政区域・都市計画区域	出生数	85	75	78	68	88	75	96	93	107	89	123	109	118	79
	死亡者数	46	54	59	65	65	77	63	56	59	55	76	74	94	71
	自然増	39	21	19	3	23	△ 2	33	37	48	34	47	35	24	8
	転入者数	250	378	355	320	435	471	426	513	465	474	486	504	430	366
	転出者数	277	295	318	318	436	328	340	435	398	391	374	412	387	423
	社会増	△ 27	83	37	2	△ 1	143	86	78	67	83	112	92	43	△ 57
	その他の異動	3	1	7	3	3	3	8	△ 1	6	△ 7	△ 2	△ 2	△ 3	11
	人口増加数	15	105	63	8	25	144	127	114	121	110	157	125	64	△ 38
	累計		120	183	191	216	360	487	601	722	832	989	1114	1178	1140
用途地域指定区域	出生数	40	35	36	32	41	32	42	40	46	39	50	44	48	32
	死亡者数	21	25	28	30	30	33	27	24	26	24	31	30	38	29
	自然増	19	10	8	2	11	△ 1	15	16	20	15	19	14	10	3
	転入者数	117	177	166	150	203	204	184	222	201	205	197	204	174	148
	転出者数	129	138	149	149	204	142	147	188	172	169	152	167	157	171
	社会増	△ 12	39	17	1	△ 1	62	37	34	29	36	45	37	17	△ 23
	人口増加数	7	49	25	3	10	61	52	50	49	51	64	51	27	△ 20
	累計		56	81	84	94	155	207	257	306	357	421	472	499	479

	年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28	H29年
行政区域・都市計画区域	出生数	95	93	88	93	91	96	66	105	64	81	83	72	57	55
	死亡者数	66	68	58	70	83	95	77	77	84	80	83	71	86	98
	自然増	29	25	30	23	8	1	△ 11	28	△ 20	1	0	1	△ 29	△ 43
	転入者数	464	484	460	423	411	399	357	382	363	350	314	275	282	327
	転出者数	403	471	387	444	438	444	367	383	353	299	324	337	290	306
	社会増	61	13	73	△ 21	△ 27	△ 45	△ 10	△ 1	10	51	△ 10	△ 62	△ 8	21
	その他の異動	△ 5	3	△ 3	2	△ 10	7	3	2	△ 14	△ 34	△ 29	△ 32	△ 19	△ 18
	人口増加数	85	41	100	4	△ 29	△ 37	△ 18	29	△ 24	18	△ 39	△ 93	△ 56	△ 40
	累計	1225	1266	1366	1370	1341	1304	1286	1315	1291	1309	1270	1177	1121	1081
用途地域指定区域	出生数	39	38	36	38	37	39	25	40	24	31	32	26	20	20
	死亡者数	27	28	24	28	34	39	29	29	32	30	32	25	31	35
	自然増	12	10	12	10	3	0	△ 4	11	△ 8	1	0	1	△ 11	△ 15
	転入者数	188	196	187	172	167	162	135	145	138	133	119	98	101	117
	転出者数	163	191	157	180	178	180	139	145	134	113	123	120	103	109
	社会増	25	5	30	△ 8	△ 11	△ 18	△ 4	0	4	20	△ 4	△ 22	△ 2	8
	人口増加数	37	15	42	2	△ 8	△ 18	△ 8	11	△ 4	21	△ 4	△ 21	△ 13	△ 7
	累計	516	531	573	575	567	549	541	552	548	569	565	544	531	524

資料:毎月人口異動調査(各年10月1日)

図1－5　人口増減の累計

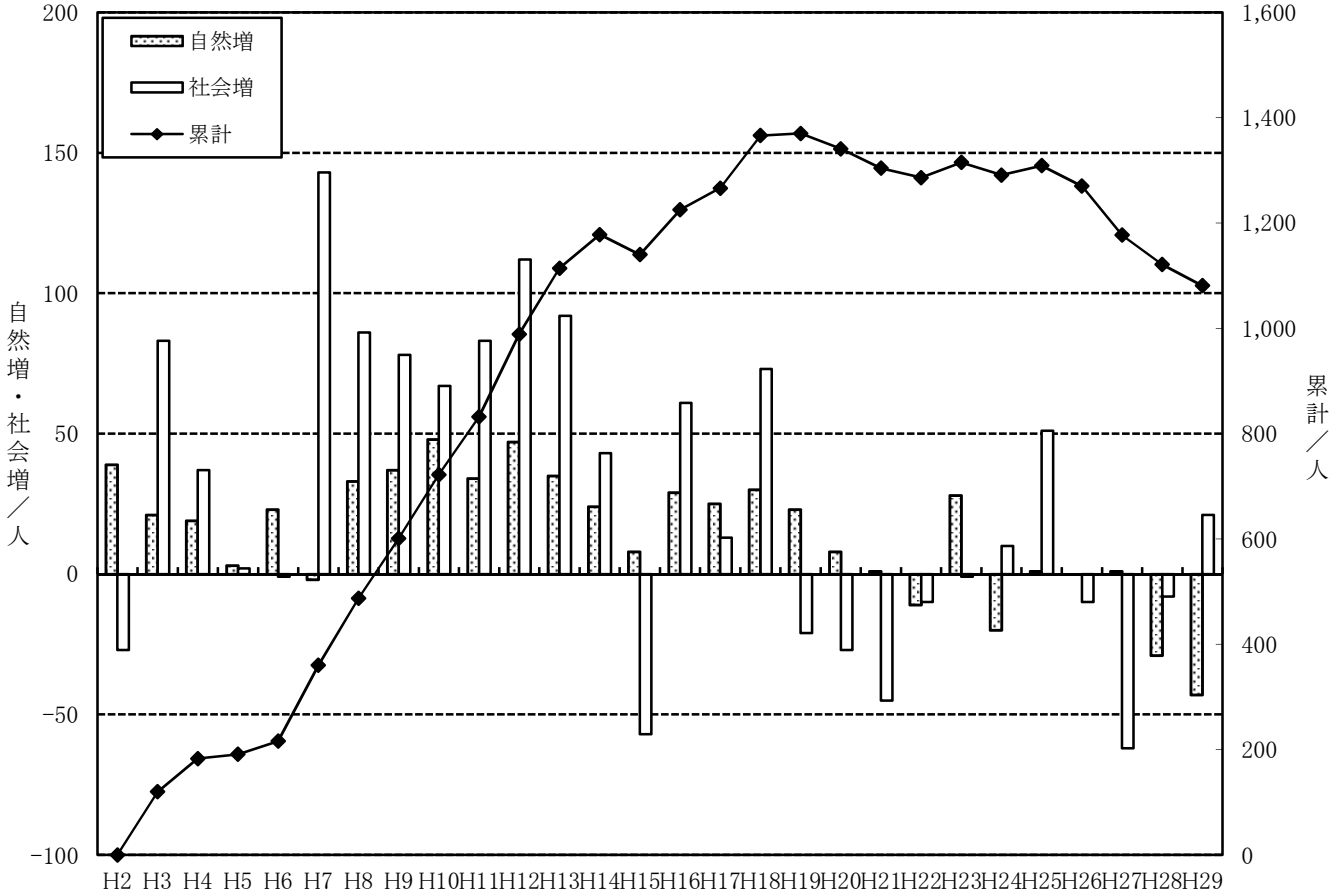
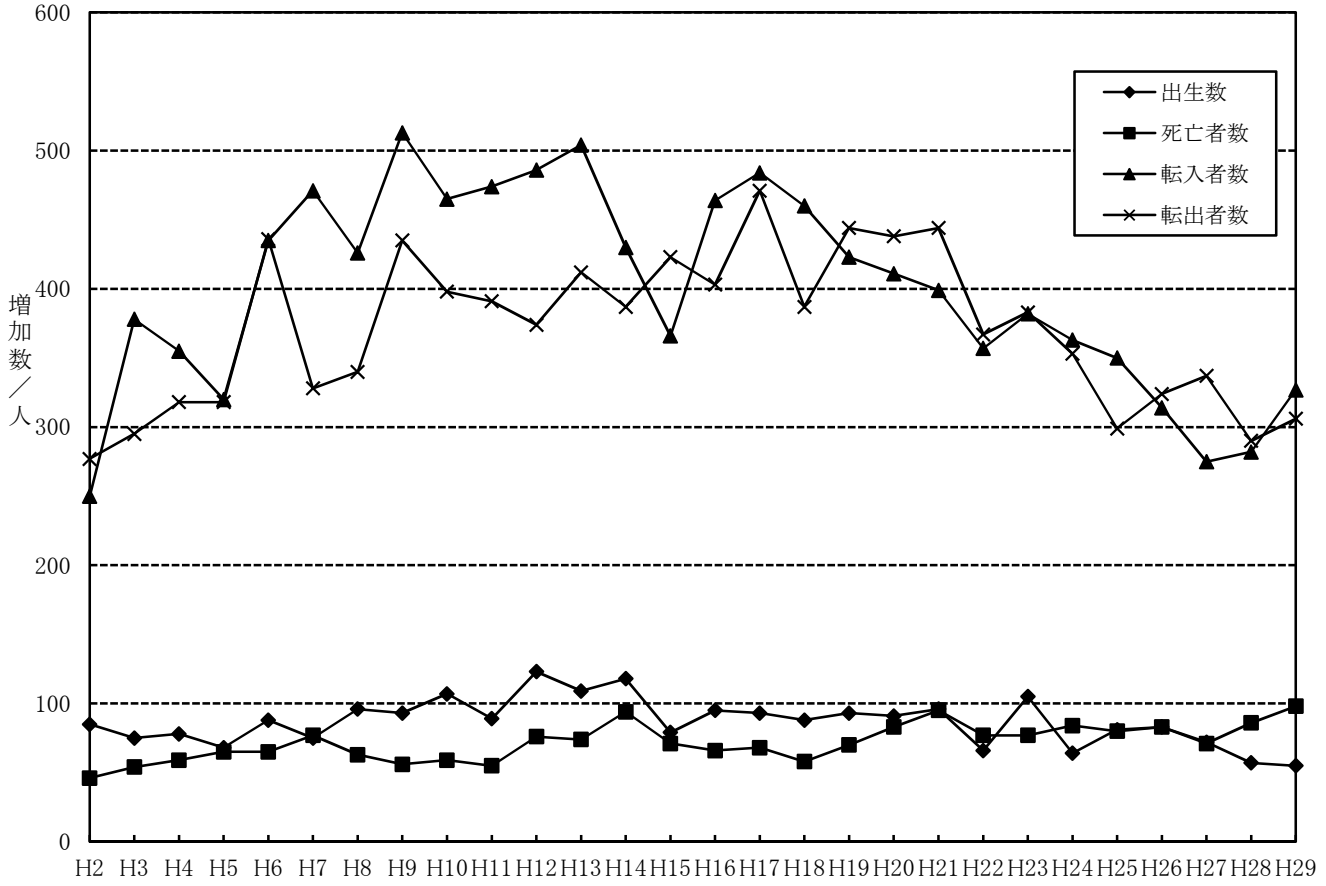


図1－6　人口増減の内訳



C0105 通勤・通学移動

平成27年の通勤者の流出・流入状況は、流出率56.2%、流入率55.9%、通学者は流出率76.2%、流入率24.7%となっており、いずれも流出数が流入数を上回っている。通勤者の流出先は駒ヶ根市が多く、流出人口の約27%を占めており、流入元は駒ヶ根市をはじめとする周辺市町村となっている。また、通学者は流出人口の約32.3%が伊那市、約21.0%が駒ヶ根市へ流出している。

表1－6 流出・流入別人口の推移(通勤者)

年	常住地による就業者数	流出		従業地による就業者数	流入		従／常 就業者比
		就業者数	流出率		就業者数	流入率	
	人	人	%	人	人	%	%
平成 7 年	4,682	1,943	41.5	4,843	2,104	43.4	103.4
平成 12 年	4,782	2,207	46.2	4,906	2,311	47.1	102.6
平成 17 年	4,770	2,380	49.9	4,908	2,518	51.3	102.9
平成 22 年	4,570	2,553	55.9	4,501	2,426	53.9	98.5
平成 27 年	4,524	2,542	56.2	4,501	2,515	55.9	99.5

表1－7 流出先・流入先別人口の推移(通勤者)

流出先															
年	流出率第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率
		人	%		人	%		人	%		人	%		人	%
平成 7 年	駒ヶ根市	927	19.8	伊那市	644	13.8	飯島町	88	1.9	南箕輪村	79	1.7	箕輪町	79	1.7
平成 12 年	〃	1,004	21.0	〃	690	14.4	〃	122	2.6	箕輪町	108	2.3	南箕輪村	85	1.8
平成 17 年	〃	1,156	24.2	〃	713	14.9	〃	114	2.4	〃	97	2.0	〃	89	1.9
平成 22 年	〃	1,248	27.3	〃	739	16.2	〃	122	2.7	〃	103	2.3	〃	99	2.2
平成 27 年	〃	1,220	27.0	〃	754	16.7	〃	140	3.1	〃	102	2.3	〃	93	2.1

流入先															
年	流入率第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率
		人	%		人	%		人	%		人	%		人	%
平成 7 年	駒ヶ根市	1,008	20.8	伊那市	696	14.4	飯島町	131	2.7	南箕輪村	82	1.7	箕輪町	61	1.3
平成 12 年	〃	1,068	21.8	〃	759	15.5	〃	155	3.2	〃	110	2.2	〃	63	1.3
平成 17 年	〃	1,108	22.6	〃	793	16.2	〃	196	4.0	〃	115	2.3	〃	89	1.8
平成 22 年	〃	1,065	23.7	〃	833	18.5	〃	164	3.6	〃	113	2.5	〃	96	2.1
平成 27 年	〃	1,084	24.1	〃	877	19.5	〃	170	3.8	〃	105	2.3	〃	105	2.3

資料：国勢調査(各年10月1日)

注1 常住地による就業者数とは、当該都市に常住する(夜間人口ベース)就業者をいう。
　　従業地による就業者数とは、当該都市に従業する(昼間人口ベース)就業者をいう。
注2 流出率＝流出就業者数／常住地による就業者数×100
　　流入率＝流入就業者数／従業地による就業者数×100
注3 (従／常)就業者比率＝従業地による就業者数／常住地による就業者数×100

C0105 通勤・通学移動（通学者）

表1－8 流出・流入別人口の推移（通学者）

年	常住地による就業者数	流出		従業地による就業者数	流入		従／常 就業者比
		就業者数	流出率		就業者数	流入率	
	人	人	%	人	人	%	%
平成 7 年	422	350	82.9	77	5	6.5	18.2
平成 12 年	367	315	85.8	55	3	5.5	15.0
平成 17 年	340	276	81.2	66	2	3.0	19.4
平成 22 年	401	338	84.3	93	2	2.2	23.2
平成 27 年	433	330	76.2	107	1	0.9	24.7

表1－9 流出先・流入先別人口の推移（通学者）

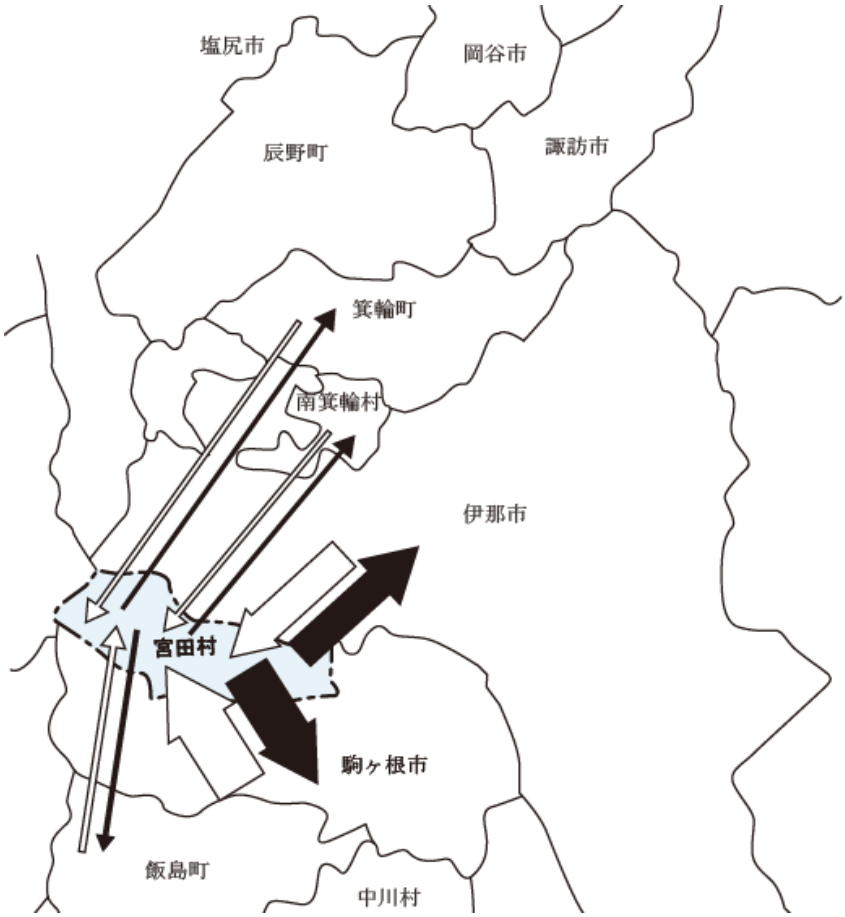
流出先															
年	流出率第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率
		人	%		人	%		人	%		人	%		人	%
平成 7 年	伊那市	161	38.2	駒ヶ根市	98	23.2	松本市	18	4.3	箕輪町	17	4.0	辰野町	13	3.1
平成 12 年	〃	132	36.0	〃	99	27.0	辰野町	25	6.8	松本市	17	4.6	箕輪町	12	3.3
平成 17 年	〃	111	32.6	〃	83	24.4	南箕輪村	16	4.7	箕輪町	13	3.8	松本市	9	2.6
平成 22 年	〃	145	36.2	〃	97	24.2	辰野町	21	5.2	〃	16	4.0	南箕輪村	14	3.5
平成 27 年	〃	140	32.3	〃	91	21.0	松本市	22	5.1	辰野町	12	2.8	箕輪町	14	3.2
流入先															
年	流入率第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率
		人	%		人	%		人	%		人	%		人	%
平成 7 年	伊那市	2	2.6	駒ヶ根市	1	1.3	箕輪町	1	1.3	南箕輪村	1	1.3	－	－	－
平成 12 年	〃	3	5.5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成 17 年	〃	1	1.5	南箕輪村	1	1.5	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成 22 年	駒ヶ根市	1	1.1	豊丘村	1	1.1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成 27 年	飯島町	1	0.9	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

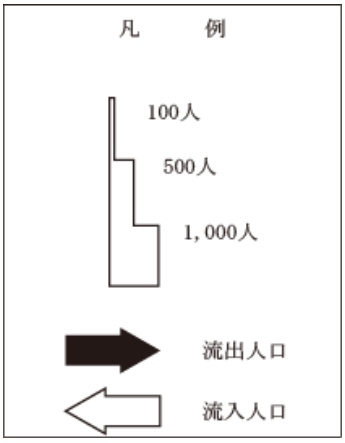
資料：国勢調査（各年10月1日）

注1 常住地による就業者数とは、当該都市に常住する(夜間人口ベース)就業者をいう。
　　従業地による就業者数とは、当該都市に従業する(昼間人口ベース)就業者をいう。
注2 流出率＝流出就業者数／常住地による就業者数×100
　　流入率＝流入就業者数／従業地による就業者数×100
注3 (従／常)就業者比率＝従業地による就業者数／常住地による就業者数×100

図1－7　流出・流入状況図（通勤者）

流出・流入状況図－1（平成22年）





流出・流入状況図－2　（平成27年）

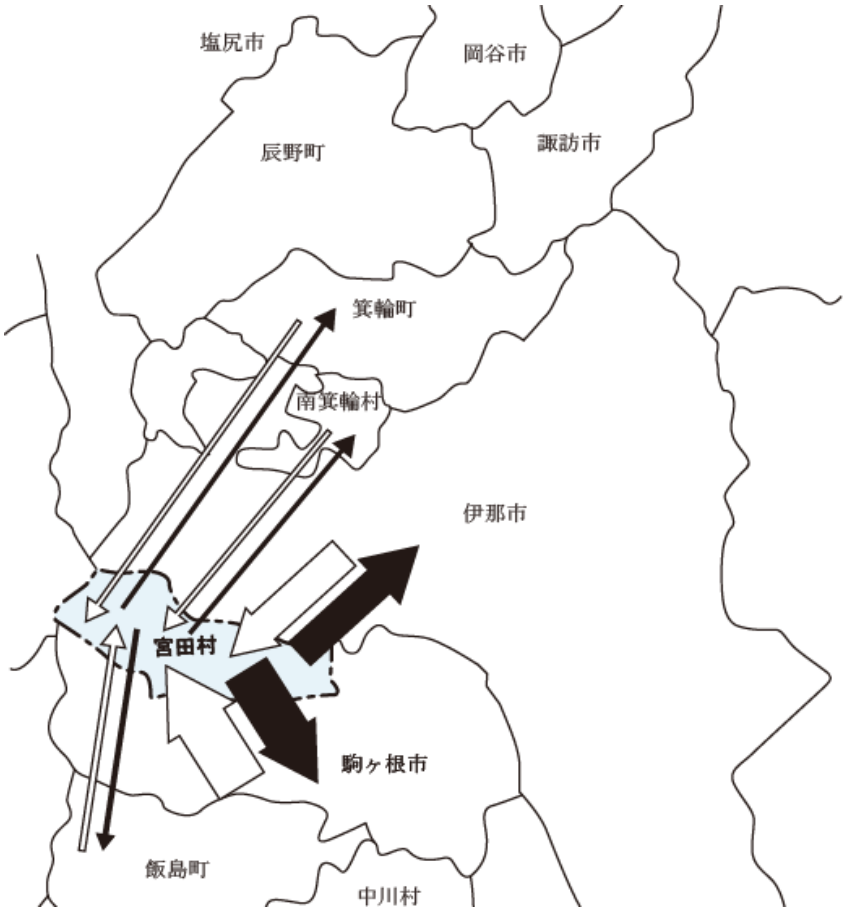
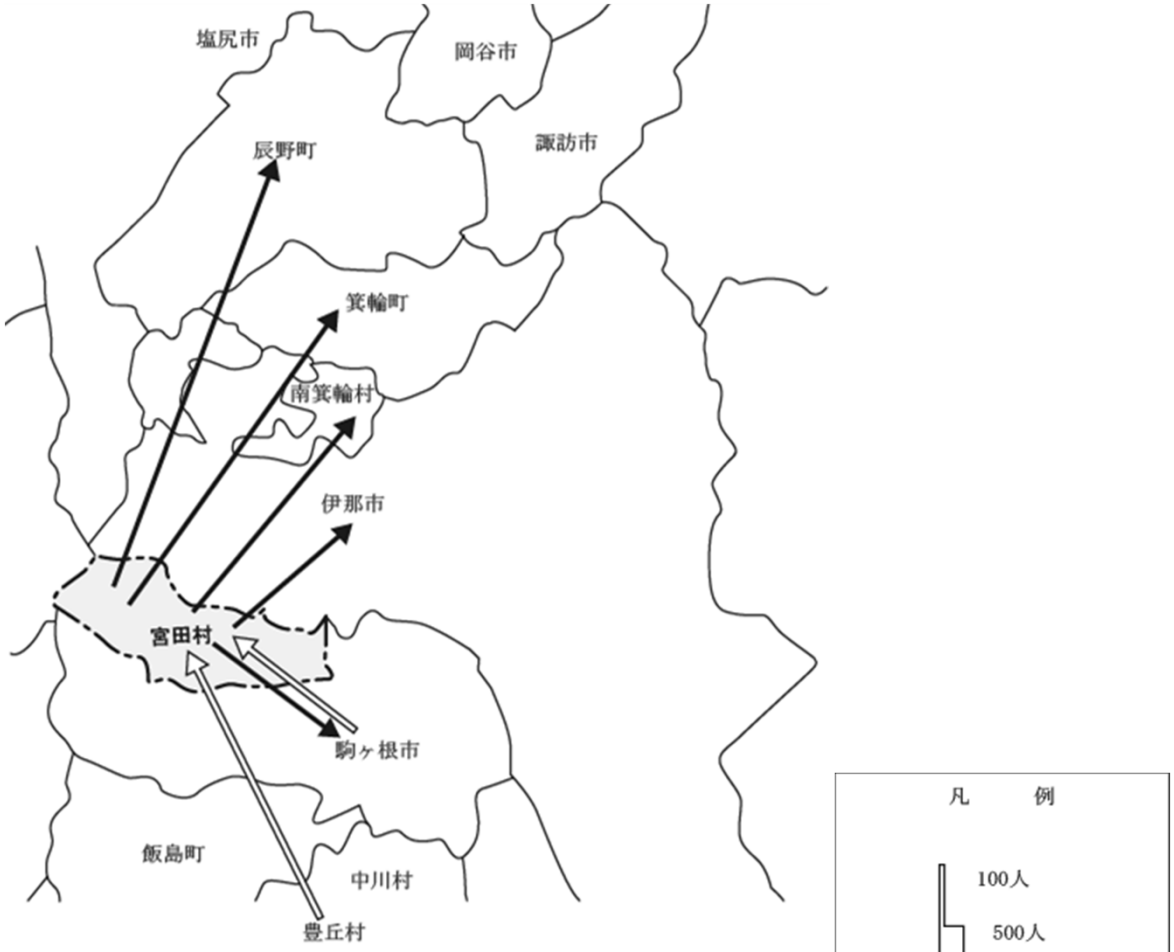
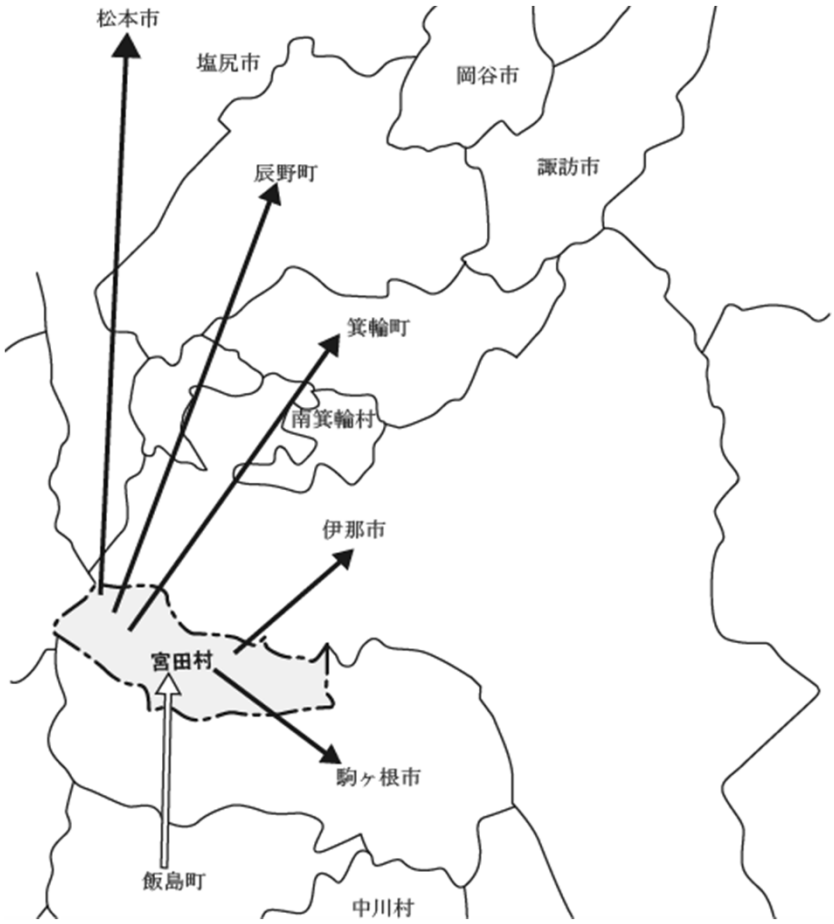


図1－8　流出・流入状況図（通学者）

流出・流入状況図－1（平成22年）



流出・流入状況図－2（平成27年）



2．産　　業

C0201-1 産業大分類別就業者数

平成27年の常住地における就業者数は4,524人で、総人口に対する就業率は51.3％である。産業別就業人口の構成比は、第1次産業7.3％、第2次産業42.1％、第3次産業49.8％で、第3次産業の就業者数の割合が最も高くなっている。

平成7年から平成27年にかけての産業別就業人口の推移を見ると、第1次産業は112人、構成比で2.1％減少、第2次産業は521人、構成比で9.7％減少、第3次産業は437人、構成比で11.1％の増加となっている。

平成27年の従業地における就業者数は4,501人で産業別就業人口の構成比は、第1次産業7.4％、第2次産業54.1％、第3次産業37.7％となっており、第2次産業の就業者数の割合が最も高くなっている。

表2－1－1 産業大分類別常住地・従業地別就業者数

■常住地

産業大分類	平成7年		平成12年		平成17年		平成22年		平成27年	
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
A. 農業，林業	438	9.4	390	8.2	423	8.9	304	6.7	327	7.2
うち農業	422	9.0	381	8.0	416	8.7	296	6.5	322	7.1
B. 漁業	2	0.0	3	0.1	2	0.0	0	0.0	1	0.0
第1次産業合計	**440**	**9.4**	**393**	**8.2**	**425**	**8.9**	**304**	**6.7**	**328**	**7.3**
C. 鉱業	4	0.1	2	0.0	2	0.0	0	0.0	2	0.0
D. 建設業	403	8.6	404	8.4	355	7.4	306	6.7	308	6.8
E. 製造業	2,018	43.1	1,943	40.6	1,753	36.8	1,665	36.4	1,594	35.2
第2次産業合計	**2,425**	**51.8**	**2,349**	**49.1**	**2,110**	**44.2**	**1,971**	**43.1**	**1,904**	**42.1**
F. 電気・ガス・熱供給・水道業	30	0.6	29	0.6	14	0.3	12	0.3	17	0.4
G. 情報通信業	155	3.3	145	3.0	22	0.5	30	0.7	38	0.8
H. 運輸業，郵便業					108	2.3	135	3.0	109	2.4
I. 卸売・小売業	663	14.2	679	14.2	549	11.5	521	11.4	533	11.8
J. 金融・保険業	62	1.3	62	1.3	65	1.4	78	1.7	76	1.7
K. 不動産業，物品賃貸業	6	0.1	13	0.3	9	0.2	23	0.5	23	0.5
L. 学術研究，専門・技術サービス業	789	16.9	999	20.9			78	1.7	87	1.9
M. 宿泊業，飲食サービス業					182	3.8	206	4.5	168	3.7
N. 生活関連サービス業，娯楽業							133	2.9	117	2.6
O. 教育，学習支援業					167	3.5	171	3.7	170	3.8
P. 医療，福祉					415	8.7	488	10.7	552	12.2
Q. 複合サービス事業					72	1.5	54	1.2	70	1.5
R. サービス業（他に分類されないもの）					525	11.0	156	3.4	182	4.0
S. 公務（他に分類されるものを除く）	109	2.3	113	2.4	98	2.1	113	2.5	109	2.4
第3次産業合計	**1,814**	**38.7**	**2,040**	**42.7**	**2,226**	**46.7**	**2,198**	**48.1**	**2,251**	**49.8**
T. 分類不能	3	0.1	0	0.0	9	0.2	97	2.1	41	0.9
合計	**4,682**	**100.0**	**4,782**	**100.0**	**4,770**	**100.0**	**4,570**	**100.0**	**4,524**	**100.0**

注：平成17年の/は、用いていない産業大分類　　資料：国勢調査（各年10月1日）

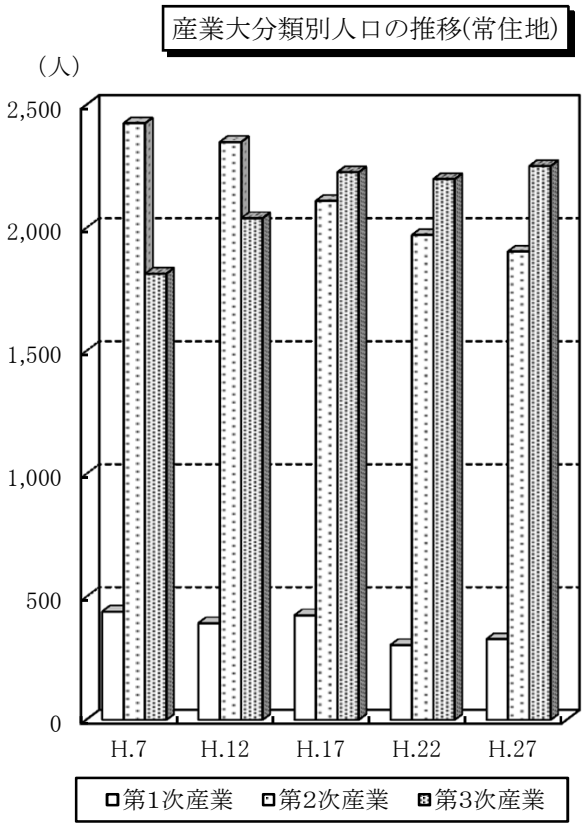
表2－1－2 産業大分類別常住地・従業地別就業者数

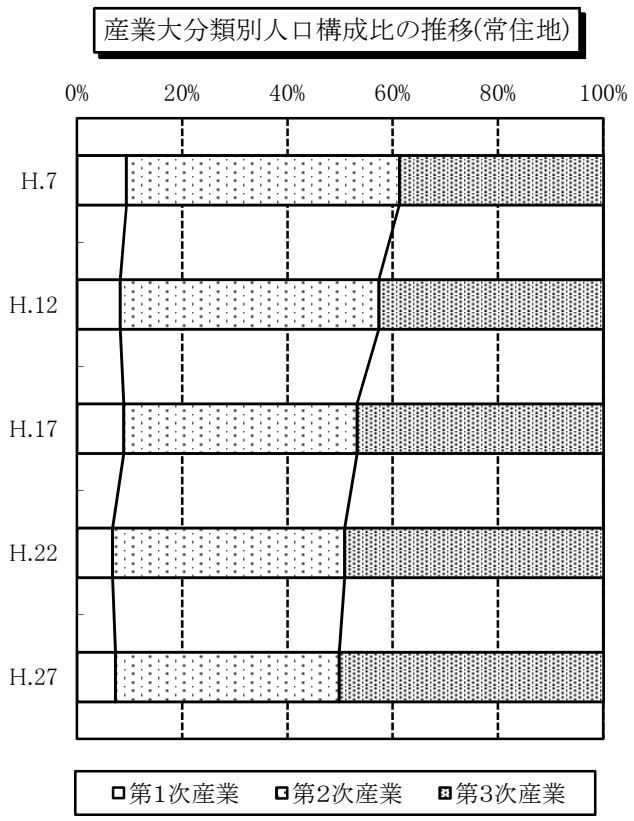
■従業地

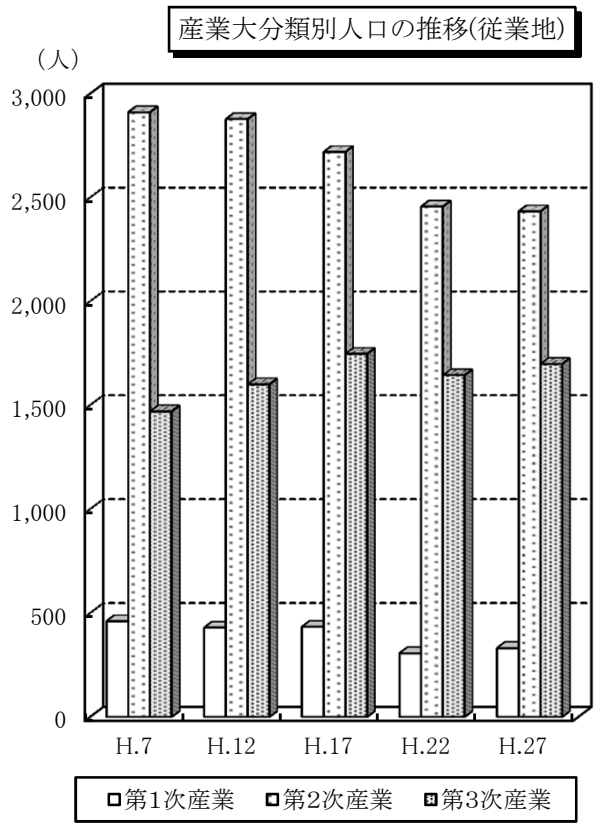
産業大分類	平成７年		平成１２年		平成１７年		平成２２年		平成２７年	
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
A. 農業，林業	456	9.4	425	8.7	430	8.8	306	6.8	330	7.3
うち農業	443	9.1	416	8.5	427	8.7	305	6.8	330	7.3
B. 漁業	4	0.1	4	0.1	3	0.1	0	0.0	1	0.0
第１次産業合計	**460**	**9.5**	**429**	**8.7**	**433**	**8.8**	**306**	**6.8**	**331**	**7.4**
C. 鉱業	0	0.0	7	0.1	1	0.0	0	0.0	1	0.0
D. 建設業	317	6.5	328	6.7	299	6.1	220	4.9	213	4.7
E. 製造業	2,593	53.5	2,542	51.8	2,419	49.3	2,236	49.7	2,219	49.3
第２次産業合計	**2,910**	**60.1**	**2,877**	**58.6**	**2,719**	**55.4**	**2,456**	**54.6**	**2,433**	**54.1**
F. 電気・ガス・熱供給・水道業	16	0.3	10	0.2	5	0.1	1	0.0	3	0.1
G. 情報通信業	73	1.5	67	1.4	19	0.4	21	0.5	30	0.7
H. 運輸業，郵便業					37	0.8	67	1.5	54	1.2
I. 卸売・小売業	550	11.4	581	11.8	467	9.5	448	10.0	410	9.1
J. 金融・保険業	30	0.6	25	0.5	30	0.6	32	0.7	26	0.6
K. 不動産業，物品賃貸業	5	0.1	11	0.2	7	0.1	16	0.4	18	0.4
L. 学術研究，専門・技術サービス業	710	14.7	824	16.8			96	2.1	89	2.0
M. 宿泊業，飲食サービス業					140	2.9	154	3.4	118	2.6
N. 生活関連サービス業，娯楽業							72	1.6	66	1.5
O. 教育，学習支援業					301	6.1	108	2.4	109	2.4
P. 医療，福祉					119	2.4	370	8.2	465	10.3
Q. 複合サービス事業					62	1.3	48	1.1	63	1.4
R. サービス業（他に分類されないもの）					490	10.0	121	2.7	152	3.4
S. 公務（他に分類されるものを除く）	86	1.8	82	1.7	70	1.4	90	2.0	95	2.1
第３次産業合計	**1,470**	**30.4**	**1,600**	**32.6**	**1,747**	**35.6**	**1,644**	**36.5**	**1,698**	**37.7**
T. 分類不能	3	0.1	0	0.0	9	0.2	95	2.1	39	0.9
合計	**4,843**	**100.0**	**4,906**	**100.0**	**4,908**	**100.0**	**4,501**	**100.0**	**4,501**	**100.0**

注：平成17年の/は、用いていない産業大分類　　資料：国勢調査（各年10月1日）

図2－1　産業大分類別常住地・従業地別就業者数







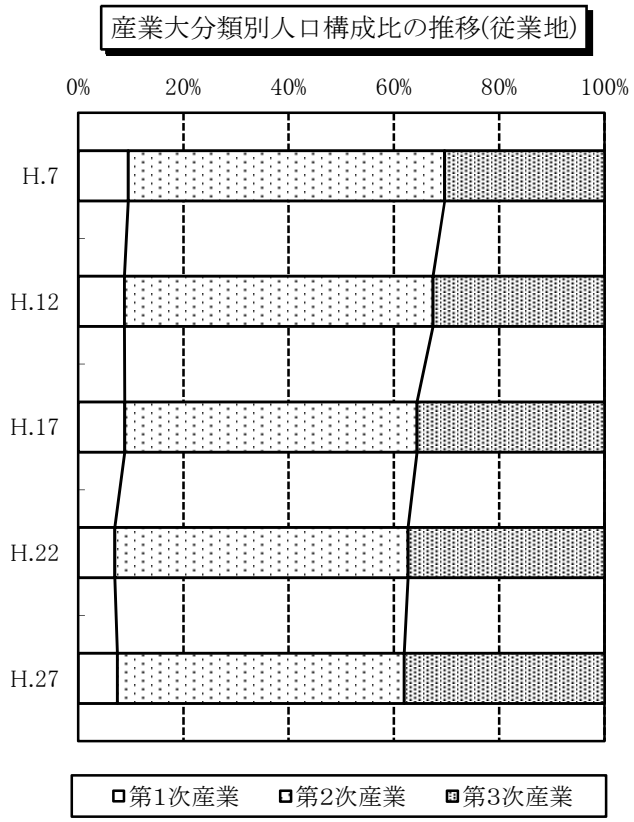


図2－2　平成27年産業大分類別人口構成比(常住地)

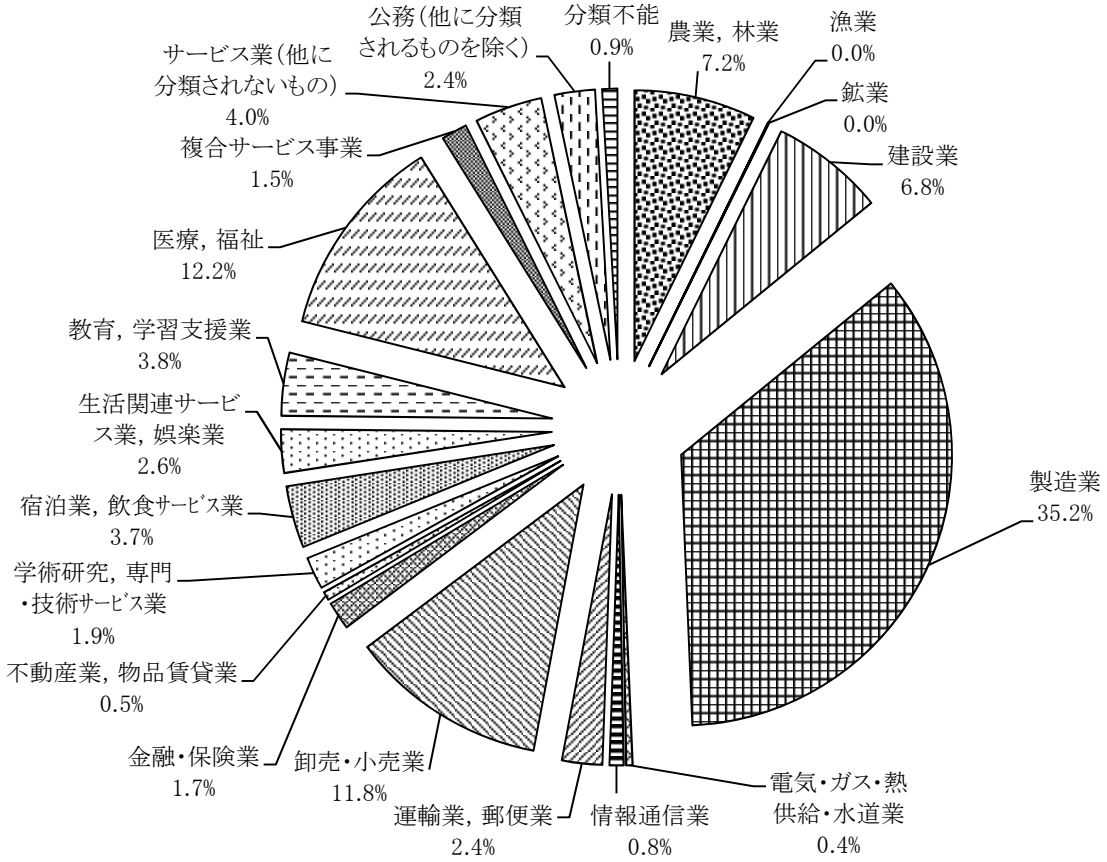
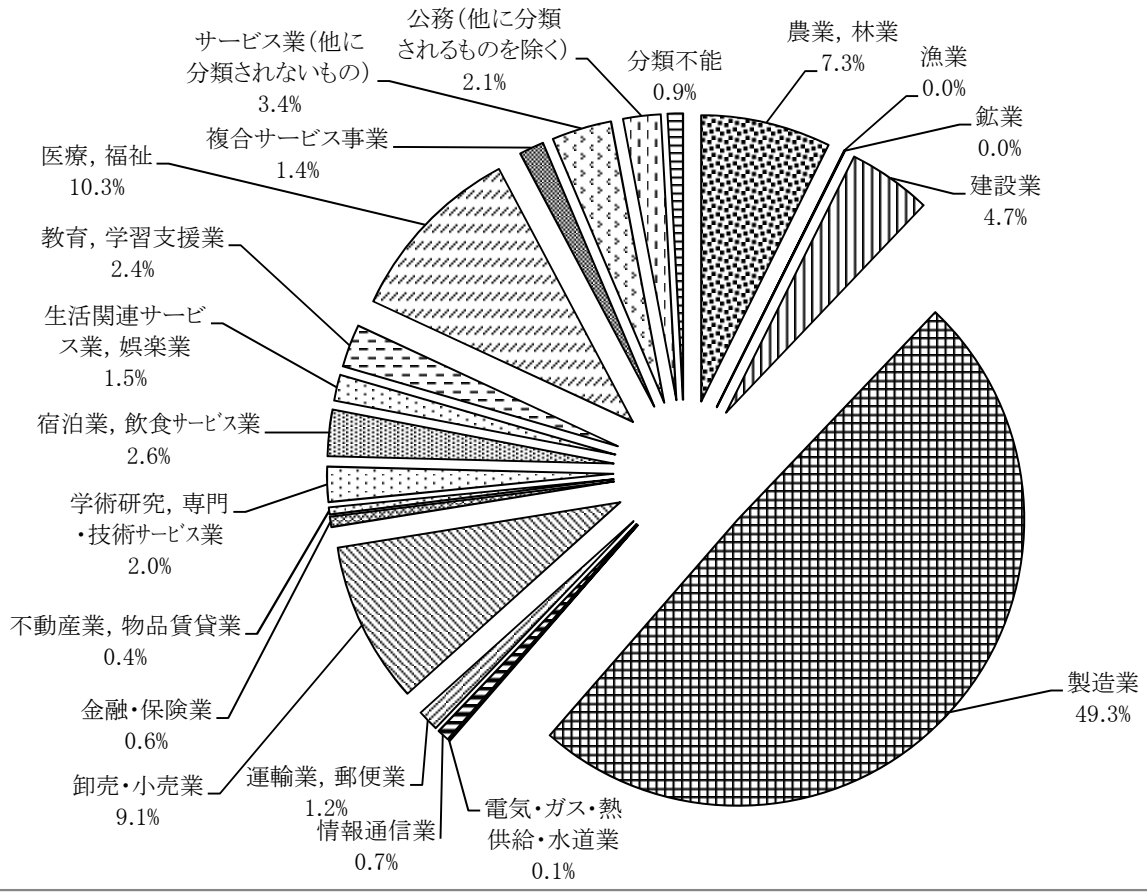


図2－3　平成27年産業大分類別人口構成比(従業地)



■ 産業大分類別人口の推計

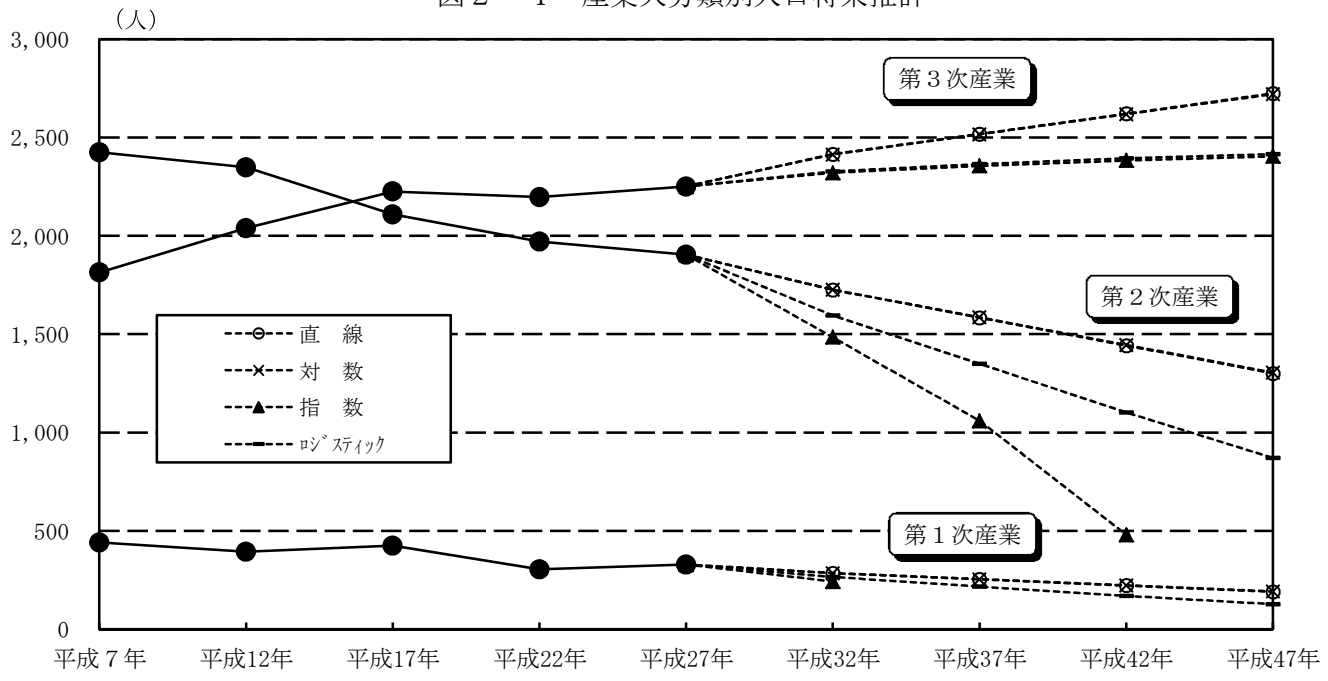
最小二乗法による平成27年を基準年とした産業大分類別人口の推計結果は、 第1次産業は今後も減少傾向で推移し、平成47年には127人から192人の幅で推計される。第2次産業も減少傾向で推移し、平成47年には871人から1,306人の幅で推計され、それに対し第3次産業については、今後も増加が予測され平成47年には2,405人から2,725人の幅で推計される。

表2－2 産業大分類別人口の推計 （単位:人）

	推計名	H.7	H.12	H.17	H.22	H.27	H.32	H.37	H.42	H.47	備考	
第1次産業	実数値	440	393	425	304	328						
	直線						284	253	222	190	y =-6.26*X＋12929.3	決定係数 0.6873
	対数						284	253	222	192	y =-12550.6276638601*logx＋95805.3560412176	決定係数 0.6872
	指数						242	151	25	－	y =484-(1.00413679263654E-54)*1.06637879158196^)X	決定係数 0.7021
	ロジスティック						264	215	168	127	y =484/(1＋(5.30962204365697E-72)*exp^--0.0811546847711055*X)	決定係数 0.7014
第2次産業	実数値	2,425	2,349	2,110	1,971	1,904					備考	
	直線						1,726	1,584	1,442	1,300	y =-28.4*X＋59093.8	決定係数 0.9631
	対数						1,727	1,586	1,446	1,306	y =-56947.3512543443*logx＋435144.898775525	決定係数 0.9633
	指数						1,485	1,059	480	－	y =2667.5-1.25345103915346E-51)*1.06345746858983^X	決定係数 0.9383
	ロジスティック						1,595	1,349	1,102	871	y =2667.5/(1＋(1.93728273431123E-66)*exp ^--0.0747093200063336*X)	決定係数 0.9464
第3次産業	実数値	1,814	2,040	2,226	2,198	2,251					備考	
	直線						2,415	2,519	2,622	2,725	y =20.64*X＋-39277.4	決定係数 0.7977
	対数						2,415	2,517	2,619	2,721	y =41410.8302264114*logx＋-312757.021670449	決定係数 0.7988
	指数						2,321	2,356	2,384	2,405	y =2476.1-8.78090828847187E+47)*0.949183924473185^X	決定係数 0.8385
	ロジスティック						2,328	2,366	2,394	2,416	y =2476.1/(1＋(2.7443878356633E+53)*exp^-0.0622782598046727*X)	決定係数 0.8327

注:・最小二乗法による推計値は、平成7年から平成27年の5年ごと20年間のデータを基に算出。
・備考欄には各々の式を示した。

図２－４ 産業大分類別人口将来推計



C0201-2 職業大分類別就業者数

平成27年の常住地における職業大分類別人口の構成比は、生産工程従事者が28.4%と最も高くなっており、次いで専門的・技術的職業従事者15.1%、事務従事者が14.7%、サービス職業従事者10.4%の順となっている。

平成27年の従業地における職業大分類別人口の構成比は、生産工程従事者が38.9%と最も高くなっており、次いで専門的・技術的職業従事者13.4%、事務従事者が12.5%、サービス職業従事者8.6%の順となっている。

図2－5 平成27年 職業大分類別就業者数(常住地)

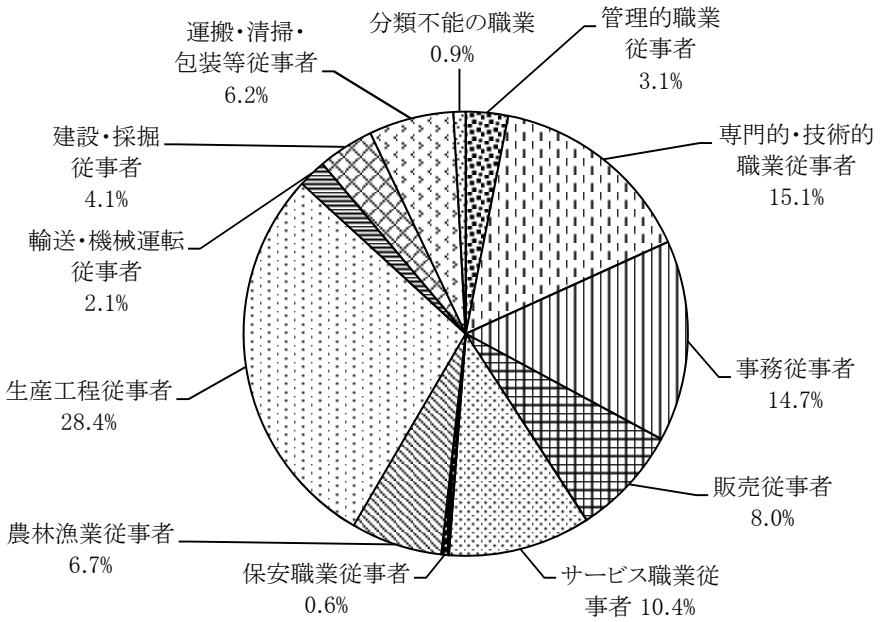


図2－6 平成27年 職業大分類別就業者数(従業地)

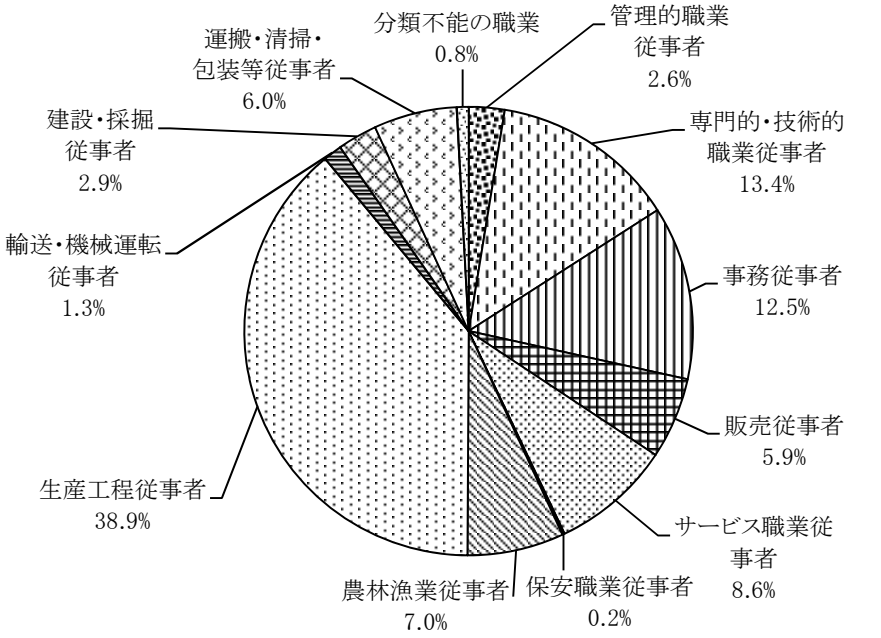


表2－3 職業大分類別常住地・従業地別就業者数

職業大分類	平成7年				平成12年				平成17年			
	常住地による		従業地による		常住地による		従業地による		常住地による		従業地による	
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
A.専門的・技術的職業従事者	446	9.5	422	8.7	533	11.1	453	9.2	551	11.6	478	9.7
B.管理的職業従事者	168	3.6	160	3.3	154	3.2	147	3.0	104	2.2	100	2.0
C.事務従事者	604	12.9	584	12.1	629	13.2	596	12.1	655	13.7	611	12.4
D.販売従事者	380	8.1	302	6.2	408	8.5	318	6.5	402	8.4	318	6.5
E.サービス職業従事者	281	6.0	223	4.6	334	7.0	283	5.8	424	8.9	350	7.1
F.保安職業従事者	18	0.4	6	0.1	27	0.6	9	0.2	26	0.5	15	0.3
G.農林漁業従事者	418	8.9	438	9.0	359	7.5	380	7.7	385	8.1	407	8.3
H.運輸・通信従事者	126	2.7	90	1.9	131	2.7	90	1.8	108	2.3	68	1.4
I.生産工程・労務作業者	2,238	47.8	2,615	54.0	2,207	46.2	2,630	53.6	2,107	44.2	2,551	52.0
J.分類不能の職業	3	0.1	3	0.1	0	0.0	0	0.0	8	0.2	10	0.2
合計	4,682	100.0	4,843	100.0	4,782	100.0	4,906	100.0	4,770	100.0	4,908	100.0

職業大分類（職業新大分類）	平成22年				平成27年			
	常住地による		従業地による		常住地による		従業地による	
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
	人	%	人	%	人	%	人	%
A.管理的職業従事者	117	2.6	109	2.4	139	3.1	116	2.6
B.専門的・技術的職業従事者	642	14.0	531	11.8	685	15.1	601	13.4
C.事務従事者	665	14.6	561	12.5	663	14.7	564	12.5
D.販売従事者	399	8.7	314	7.0	361	8.0	264	5.9
E.サービス職業従事者	468	10.2	366	8.1	469	10.4	389	8.6
F.保安職業従事者	27	0.6	11	0.2	25	0.6	7	0.2
G.農林漁業従事者	274	6.0	266	5.9	301	6.7	313	7.0
H.生産工程従事者	1,330	29.1	1,807	40.1	1,284	28.4	1,750	38.9
I.輸送・機械運転従事者	111	2.4	68	1.5	93	2.1	60	1.3
J.建設・採掘従事者	176	3.9	123	2.7	185	4.1	129	2.9
K.運搬・清掃・包装等従事者	266	5.8	251	5.6	279	6.2	270	6.0
L.分類不能の職業	95	2.1	94	2.1	40	0.9	38	0.8
合計	4,570	100.0	4,501	100.0	4,524	100.0	4,501	100.0

注：・構成比は、小数点第1位で四捨五入したため、合計と内容の計が一致しない場合もある。
・平成7年の職業大分類Ｉ生産工程・労務作業者には、採鉱・採石,技能工,採掘作業者を含む。

資料：国勢調査(各年10月1日)

C0202-1 事業所数・従業者数・売上金額

平成28年の事業所数は407事業所であり、そのうち製造業は88事業所で全事業所数の21.6%を占め、次いで卸売業・小売業が84事業所で20.6%、建設業が50事業所で12.3%、生活関連サービス業,娯楽業が42事業所で10.3%、宿泊業，飲食サービス業が41事業所で10.1%の順となっている。従業者数は4,143人であり、製造業が最も多く2,256人、次いで卸売業,小売業504人、医療,福祉500人、宿泊業，飲食サービス業209人、建設業181人の順となっている。従業者規模別では従業者数1～4人以下の小規模企業が全体の62.7%（民営）を占めている。

図2－7 事業所数及び従業者数の推移

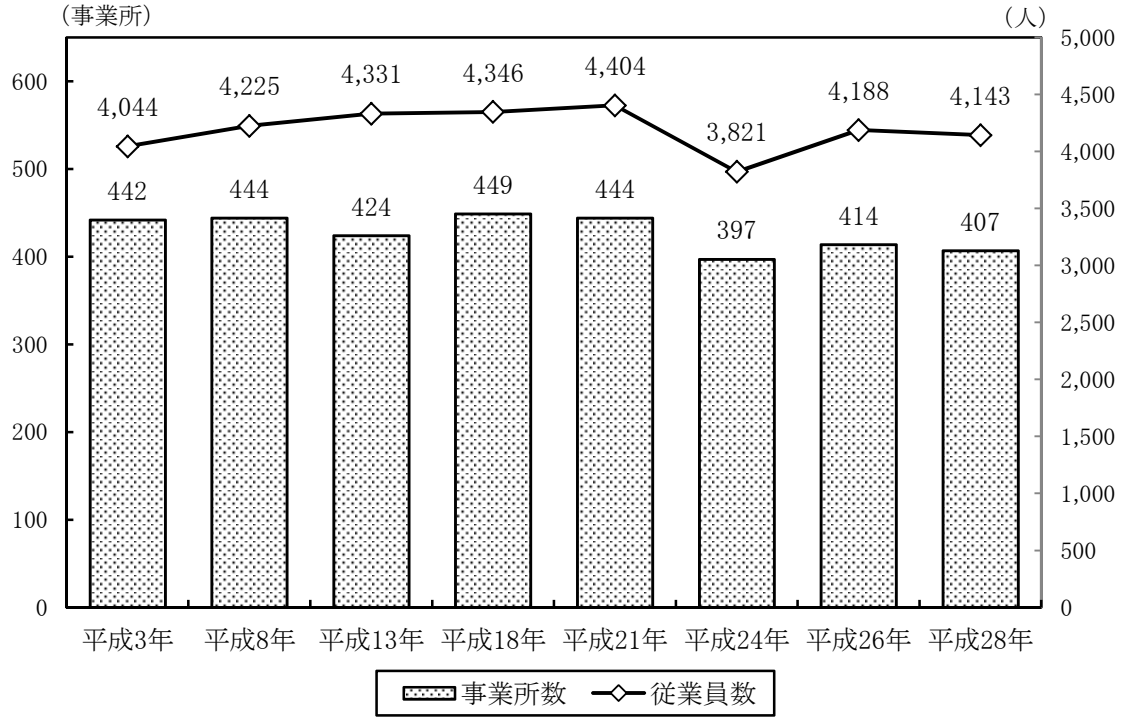


図2－8 事業所数の規模別構成比（民営）

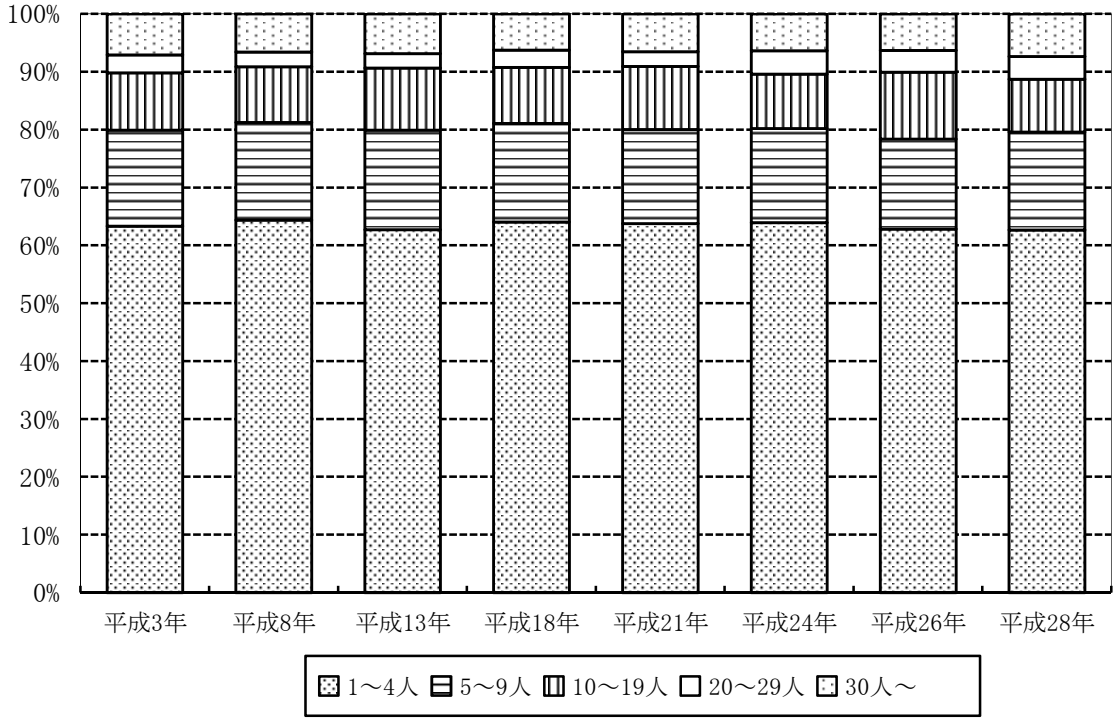


表2－4－1 産業大分類別事業所数・従業者数

産業大分類	平成3年								平成8年								平成13年								
	事業所数	従業者規模別事業所数(民営)					国・地方公共団体	従業者数	事業所数	従業者規模別事業所数(民営)					国・地方公共団体	従業者数	事業所数	従業者規模別事業所数(民営)					派遣従業者のみ	国・地方公共団体	従業者数
		1～4	5～9	10～19	20～29	30～				1～4	5～9	10～19	20～29	30～				1～4	5～9	10～19	20～29	30～			
A.B.C.農林漁業	4	1	1	－	－	－	2	26	6	2	2	－	－	1	1	109	5	2	－	1	－	1	－	1	97
D.鉱業	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
E.建設業	59	41	10	5	1	2	－	337	58	37	15	4	1	1	－	296	51	31	13	6	1	－	－	－	268
F.製造業	130	56	21	23	8	22	－	2,376	111	48	13	22	6	22	－	2,437	96	37	16	18	4	21	－	－	2,445
G.電気・ガス・熱供給・水道業	2	－	－	－	－	－	2	12	2	－	－	－	－	－	2	13	1	－	－	－	－	－	－	1	8
H.運輸・通信業	5	3	1	－	－	－	1	37	5	2	1	1	－	－	1	46	7	4	－	2	－	－	－	1	53
I.卸売・小売業	140	102	25	7	3	3	－	638	141	105	26	6	3	1	－	597	142	99	26	12	3	2	－	－	698
J.金融・保険業	2	－	－	2	－	－	－	31	3	1	－	2	－	－	－	26	3	－	1	2	－	－	－	－	31
K.不動産業	7	7	－	－	－	－	－	11	7	6	1	－	－	－	－	15	6	6	－	－	－	－	－	－	13
L.サービス業	88	58	12	5	1	3	9	507	107	74	14	6	1	3	9	618	109	77	14	3	2	4	－	9	648
M公務	5	－	－	－	－	－	5	69	4	－	－	－	－	－	4	68	4	－	－	－	－	－	－	4	70
N.分類不能の産業	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
合計	442	268	70	42	13	30	19	4,044	444	275	72	41	11	28	17	4,225	424	256	70	44	10	28	－	16	4,331

注1:平成8年までは、事業所数に派遣・下請従業者のみも含む。

資料:事業所・企業統計調査(各年10月1日)

表2－4－2 産業大分類別事業所数・従業者数

産業大分類	平成18年 事業所数	従業者規模別事業所数(民営) 1～4	5～9	10～19	20～29	30～	派遣従業者のみ	国・地方公共団体	従業者数	平成21年 事業所数	従業者規模別事業所数(民営) 1～4	5～9	10～19	20～29	30～	派遣従業者のみ	国・地方公共団体	従業者数
A～B農林水産業	4	3	－	－	－	1	－	－	79	4	2	1	－	－	1	－	－	93
C. 鉱業，採石業，砂利採取業	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
D. 建設業	66	46	15	4	1	－	－	－	260	64	48	11	4	1	－	－	－	247
E. 製造業	100	38	20	15	10	17	－	－	2,382	102	41	19	17	4	21	－	－	2,453
F. 電気・ガス・熱供給・水道業	1	－	－	－	－	－	－	1	7	1	－	－	－	－	－	－	1	6
G. 情報通信業	5	4	1	－	－	－	－	－	14	2	2	－	－	－	－	－	－	5
H. 運輸業，郵便業	6	4	2	－	－	－	－	－	19	8	3	2	2	1	－	－	－	72
I. 卸売業，小売業	90	65	12	9	1	3	－	－	480	91	62	14	11	2	2	－	－	494
J. 金融業，保険業	4	2	－	2	－	－	－	－	25	3	1	－	2	－	－	－	－	26
K. 不動産業，物品賃貸業	8	6	2	－	－	－	－	－	24	7	7	－	－	－	－	－	－	16
L. 学術研究，専門・技術サービス業	25	21	－	3	－	1	－	－	161	21	18	2	1	－	－	－	－	65
M. 宿泊業，飲食サービス業	42	26	11	4	－	1	－	－	242	41	24	12	4	－	1	－	－	232
N. 生活関連サービス業，娯楽業	36	29	5	1	－	－	－	1	96	34	31	3	－	－	－	－	－	72
O. 教育，学習支援業	11	7	－	－	－	－	－	4	95	11	6	1	－	－	－	－	4	89
P. 医療，福祉	24	14	2	1	－	3	－	4	266	25	14	2	2	－	3	－	4	297
Q. 複合サービス事業	4	2	－	－	1	1	－	－	54	4	2	－	1	1	－	－	－	48
R. サービス業（他に分類されないもの）	19	11	4	3	－	－	－	1	89	22	14	3	3	2	－	－	－	132
S. 公務（他に分類されるものを除く）	4	－	－	－	－	－	－	4	53	4	－	－	－	－	－	－	4	57
合計	449	278	74	42	13	27	－	15	4,346	444	275	70	47	11	28	－	13	4,404

資料：平成18年は事業所・企業統計調査(10月1日)
平成21年は経済センサス-基礎調査(7月1日)

表2－4－3 産業大分類別事業所数・従業者数・売上金額

産業大分類	平成24年 事業所数	従業者規模別事業所数(民営) 1～4	5～9	10～19	20～29	30～	派遣従業者のみ	国・地方公共団体	従業者数	売上金額	平成26年 事業所数	従業者規模別事業所数(民営) 1～4	5～9	10～19	20～29	30～	派遣従業者のみ	国・地方公共団体	従業者数	売上金額	平成28年 事業所数	従業者規模別事業所数(民営) 1～4	5～9	10～19	20～29	30～	派遣従業者のみ	国・地方公共団体	従業者数	売上金額
A～B農林水産業	4	2	1	－	－	1	－		88	606	4	1	2	－	－	1	－	－	90	614	4	1	2	－	－	1	－		72	719
C. 鉱業，採石業，砂利採取業	－	－	－	－	－	－	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	…	－	－	－	－	－	－	－		－	－
D. 建設業	54	41	7	3	2	－	1		209	…	49	41	4	3	1	－	－	－	171	2,473	50	38	9	2	1	－	－		181	…
E. 製造業	91	37	14	16	8	16	－		2,153	39,121	85	30	17	12	9	17	－	－	2,121	42,495	88	32	16	14	9	17	－		2,256	62,749
F. 電気・ガス・熱供給・水道業	－	－	－	－	－	－	－		－	…	1	－	－	－	－	－	－	1	6	…	－	－	－	－	－	－	－		－	…
G. 情報通信業	2	1	1	－	－	－	－		10	…	1	－	1	－	－	－	－	－	8	χ	1	－	－	1	－	－	－		11	…
H. 運輸業，郵便業	7	2	2	2	1	－	－		65	…	7	3	2	1	1	－	－	－	51	1,148	6	2	2	1	1	－	－		50	…
I. 卸売業，小売業	83	53	18	6	2	2	2		436	13,258	84	54	12	14	1	2	1	－	498	12,060	84	56	13	10	2	3	－		504	15,482
J. 金融業，保険業	3	1	－	2	－	－	－		27	…	4	2	－	2	－	－	－	－	27	467	4	2	－	2	－	－	－		26	…
K. 不動産業，物品賃貸業	7	6	1	－	－	－	－		18	167	7	7	－	－	－	－	－	－	13	187	9	8	－	1	－	－	－		28	139
L. 学術研究，専門・技術サービス業	19	18	－	1	－	－	－		43	374	17	14	2	1	－	－	－	－	49	149	20	18	1	－	1	－	－		63	339
M. 宿泊業，飲食サービス業	42	29	8	3	－	2	－		233	789	40	25	10	4	1	－	－	－	209	899	41	25	12	3	1	－	－		209	715
N. 生活関連サービス業，娯楽業	37	33	4	－	－	－	－		82	195	41	39	1	－	－	－	－	1	79	182	42	40	2	－	－	－	－		80	204
O. 教育，学習支援業	5	5	－	－	－	－	－		13	…	10	5	1	－	－	－	－	4	95	29	8	8	－	－	－	－	－		13	…
P. 医療，福祉	19	12	2	－	2	3	－		266	1,283	35	16	4	5	1	4	－	5	537	1,961	29	15	6	－	－	8	－		500	2,689
Q. 複合サービス事業	4	2	－	1	－	1	－		53	…	4	2	－	1	－	1	－	－	45	χ	2	－	1	－	－	1	－		41	…
R. サービス業（他に分類されないもの）	20	10	6	3	1	－	－		125	…	21	11	6	3	1	－	－	－	126	753	19	10	5	3	1	－	－		109	…
S. 公務（他に分類されるものを除く）											4	－	－	－	－	－	－	4	63											
合計	397	252	64	37	16	25	3		3,821	55,793	414	250	62	46	15	25	1	15	4,188	64,254	407	255	69	37	16	30	－		4,143	83,036

注）・事業所に関する集計における売上（収入）金額は、事業所単位の把握ができない一部の産業（ネットワーク型産業）※については「…」で表しています。
※ 「建設業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「通信業」、「放送業」、「映像・音声・文字情報制作業」、「運輸業，郵便業」、「金融業，保険業」、「学校教育」、「郵便局」、「政治・経済・文化団体」及び「宗教」
・χは秘密保持のための伏せ字

資料：平成24年は経済センサス-活動調査（7月1日）
平成26年は経済センサス-基礎調査（7月1日）
平成28年は経済センサス-活動調査（6月1日）

C0202-2 産業中分類別工業出荷額

工業出荷額（実質）の推移を見ると、平成15年までは概ね400億円から500億円の範囲で減少・増加を繰り返し、平成18年まで増加したが、以降平成24年まで減少している。平成25年以降は増加に転じ平成28年の工業出荷額は521億円となっている。

図２－９　工業出荷額の推移

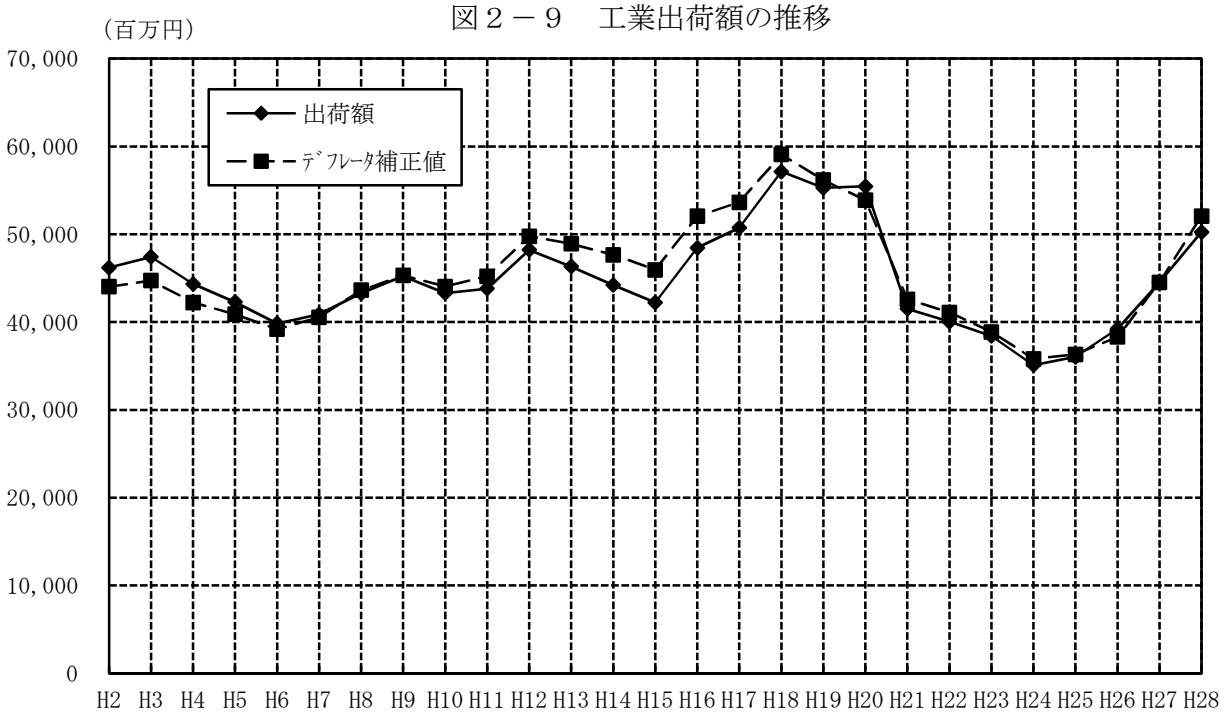


表2－5　工業出荷額の推移　（単位:百万円）

	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年
出　荷　額	46,193	47,414	44,340	42,279	39,848	40,884	43,277
ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	44,035	44,730	42,229	40,889	39,182	40,560	43,626

	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
出　荷　額	45,226	43,309	43,819	48,229	46,332	44,220	42,231
ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	45,317	44,058	45,221	49,772	48,925	47,651	45,953

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
出　荷　額	48,458	50,732	57,128	55,276	55,462	41,526	40,038
ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	52,049	53,628	59,078	56,175	53,899	42,591	41,107

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
出　荷　額	38,413	35,093	36,031	39,232	44,523	50,241
ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	38,880	35,809	36,322	38,313	44,523	52,063

注:・デフレータ補正値は、平成27年を100とした国内卸売物価指数で補正した数値。
　・平成14年以降は従業者4人以上の事業所

資料:工業統計調査、経済センサス-活動調査（各年12月31日）

表2－6－1 産業中分類別工業出荷額 (単位:百万円)

産業中分類	平成2年		平成3年		平成4年		平成5年		平成6年	
	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値
合計	46,193	44,035	47,414	44,730	44,340	42,229	42,279	40,889	39,848	39,182
12. 食料品(製造業)	67	64	74	70	χ	χ	853	825	867	853
13. 飲料・飼料・たばこ製造業	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
14. 繊維(工業)	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
15. 衣料その他の繊維製品	1,237	1,179	1,142	1,077	1,016	968	1,031	997	638	627
16. 木材・木製品	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
17. 家具・装備品	253	241	271	256	251	239	230	222	1,064	1,046
18. パルプ・紙・紙加工品	－	－	－	－	χ	χ	χ	χ	χ	χ
19. 出版・印刷・同関連	χ	χ	64	60	χ	χ	68	66	57	56
20. 化学	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
21. 石油製品・石炭製品	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
22. プラスチック	－	－	－	－	－	－	－	－	χ	χ
23. ゴム製品	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
24. なめし皮・同製品・毛皮	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
25. 窯業・土石製品	2,592	2,471	2,798	2,640	2,368	2,255	2,589	2,504	2,605	2,561
26. 鉄鋼	χ	χ	χ	χ	－	－	－	－	－	－
27. 非鉄金属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
28. 金属製品	22,414	21,367	22,576	21,298	21,385	20,367	20,009	19,351	19,285	18,963
29. 一般機械器具	4,009	3,822	4,125	3,892	2,390	2,276	2,169	2,098	χ	χ
30. 電気機械器具	2,558	2,439	2,996	2,826	2,633	2,508	2,183	2,111	2,905	2,856
31. 輸送用機械器具	2,625	2,502	3,022	2,851	3,344	3,185	3,193	3,088	2,891	2,843
32. 精密機械器具	5,344	5,094	5,869	5,537	4,826	4,596	4,370	4,226	4,173	4,103
33. 武器	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
34. その他	4,476	4,267	3,865	3,646	4,229	4,028	4,287	4,146	3,468	3,410

注:・デフレータ補正値は、平成27年を100とした国内卸売物価指数で補正した数値
・出荷額は100万円単位で四捨五入しているため合計、小計とは一致しないことがある。
・χは秘密保持のための伏せ字

資料:工業統計調査(各年12月31日)

表2－6－2 産業中分類別工業出荷額 (単位:百万円)

産業中分類	平成7年		平成8年		平成9年		平成10年		平成11年	
	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値
合計	40,884	40,560	43,277	43,626	45,226	45,317	43,309	44,058	43,819	45,221
12.食料品(製造業)	1,486	1,474	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
13.飲料・飼料・たばこ製造業	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
14.繊維(工業)	χ	χ	χ	χ	χ	χ	－	－	－	－
15.衣料その他の繊維製品	1,149	1,140	1,177	1,186	971	973	1,073	1,092	1,008	1,040
16.木材・木製品	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
17.家具・装備品	1,046	1,038	976	984	1,013	1,015	890	905	216	223
18.パルプ・紙・紙加工品	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
19.出版・印刷・同関連	55	55	61	61	59	59	40	41	χ	χ
20.化学	－	－	χ	χ	－	－	－	－	－	－
21.石油製品・石炭製品	－	－	χ	χ	χ	χ	χ	χ	－	－
22.プラスチック	χ	χ	406	409	χ	χ	χ	χ	χ	χ
23.ゴム製品	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
24.なめし皮・同製品・毛皮	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
25.窯業・土石製品	2,512	2,492	2,841	2,864	3,290	3,297	2,698	2,745	3,049	3,147
26.鉄鋼	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
27.非鉄金属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
28.金属製品	20,269	20,108	21,227	21,398	23,580	23,627	17,497	17,800	18,041	18,618
29.一般機械器具	707	701	839	846	1,393	1,396	1,203	1,224	912	941
30.電気機械器具	3,554	3,526	3,435	3,463	3,414	3,421	7,297	7,423	χ	χ
31.輸送用機械器具	2,367	2,348	2,558	2,579	2,740	2,745	3,250	3,306	3,648	3,765
32.精密機械器具	3,868	3,837	4,429	4,465	4,455	4,464	4,763	4,845	5,028	5,189
33.武器	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
34.その他	2,201	2,184	1,737	1,751	χ	χ	1,238	1,259	1,295	1,336

注:・デフレータ補正値は、平成27年を100とした国内卸売物価指数で補正した数値
・出荷額は100万円単位で四捨五入しているため合計、小計とは一致しないことがある。
・χは秘密保持のための伏せ字

資料:工業統計調査(各年12月31日)

表2－6－3 産業中分類別工業出荷額 (単位:百万円)

産業中分類	平成12年		平成13年		平成14年		平成15年		平成16年	
	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値
合計	48,229	49,772	46,332	48,925	44,220	47,651	42,231	45,953	48,458	52,049
09.食料品(製造業)	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
10.飲料・飼料・たばこ製造業	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
11.繊維(工業)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
12.衣料その他の繊維製品	660	681	504	532	568	612	605	658	856	919
13.木材・木製品	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
14.家具・装備品	172	178	χ	χ	χ	χ	179	195	χ	χ
15.パルプ・紙・紙加工品	χ	χ	－	－	－	－	χ	χ	χ	χ
16.出版・印刷・同関連	χ	χ	－	－	－	－	－	－	－	－
17.化学	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
18.石油製品・石炭製品	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
19.プラスチック	χ	χ	χ	－	χ	－	－	－	χ	－
20.ゴム製品	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
21.なめし皮・同製品・毛皮	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
22.窯業・土石製品	3,220	3,323	2,774	2,929	2,188	2,358	1,734	1,887	1,545	1,660
23.鉄鋼	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
24.非鉄金属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
25.金属製品	18,873	19,477	18,697	19,743	17,320	18,664	16,484	17,937	17,238	18,516
26.一般機械器具	1,324	1,366	2,495	2,635	χ	χ	χ	χ	χ	χ
27.電気機械器具	χ	χ	8,200	8,659	828	892	798	868	2,806	3,014
28.情報通信機械機器具					χ	χ	χ	χ	χ	χ
29.電子部品デバイス製造業					2,159	2,327	2,339	2,545	1,722	1,850
30.輸送用機械器具	4,490	4,634	4,286	4,526	4,391	4,732	3,616	3,935	3,288	3,532
31.精密機械器具	5,221	5,388	5,672	5,989	5,143	5,542	4,274	4,651	14,343	15,406
32.その他	1,141	1,178	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ

注:・デフレータ補正値は、平成27年を100とした国内卸売物価指数で補正した数値
・出荷額は100万円単位で四捨五入しているため合計、小計とは一致しないことがある。
・χは秘密保持のための伏せ字
・平成14年以降は従業者4人以上の事業所
・平成12年・13年の/は、用いていない産業中分類

資料:工業統計調査(各年12月31日)

表2－6－4 産業中分類別工業出荷額 (単位:百万円)

産業中分類	平成17年		平成18年		平成19年	
	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値
合計	50,732	53,628	57,128	59,078	55,276	56,175
09.食料品(製造業)	χ	χ	χ	χ	χ	χ
10.飲料・飼料・たばこ製造業	χ	χ	χ	χ	χ	χ
11.繊維(工業)	－	－	－	－	－	－
12.衣料その他の繊維製品	916	968	769	795	887	901
13.木材・木製品	－	－	－	－	－	－
14.家具・装備品	221	234	χ	χ	271	275
15.パルプ・紙・紙加工品	χ	χ	χ	χ	－	－
16.出版・印刷・同関連	－	－	－	－	－	－
17.化学	－	－	－	－	－	－
18.石油製品・石炭製品	－	－	－	－	－	－
19.プラスチック	χ	χ	χ	χ	χ	χ
20.ゴム製品	－	－	－	－	－	－
21.なめし皮・同製品・毛皮	－	－	－	－	－	－
22.窯業・土石製品	1,506	1,592	1,299	1,343	1,294	1,315
23.鉄鋼	－	－	－	－	－	－
24.非鉄金属	－	－	－	－	－	－
25.金属製品	17,986	19,013	19,691	20,363	20,150	20,478
26.一般機械器具	χ	χ	χ	χ	χ	χ
27.電気機械器具	2,358	2,493	3,068	3,173	χ	χ
28.情報通信機械機器具	χ	χ	χ	χ	χ	χ
29.電子部品デバイス製造業	χ	χ	χ	χ	704	715
30.輸送用機械器具	3,888	4,110	4,246	4,391	χ	χ
31.精密機械器具	17,433	18,428	21,136	21,857	18,219	18,515
32.その他	χ	χ	χ	χ	χ	χ

注:・デフレータ補正値は、平成27年を100とした国内卸売物価指数で補正した数値
・出荷額は100万円単位で四捨五入しているため合計、小計とは一致しないことがある。
・χは秘密保持のための伏せ字
・従業者4人以上の事業所 工業統計調査(各年12月31日)

表2－6－5 産業中分類別工業出荷額 (単位:百万円)

産業中分類	平成20年		平成21年		平成22年		平成23年		平成24年	
	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値
合計	55,462	53,899	41,526	42,591	40,038	41,107	38,413	38,880	35,093	35,809
09. 食料品	χ	χ	χ	χ	χ	χ	1,194	1,209	χ	χ
10. 飲料・たばこ・飼料	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
11. 繊維	985	957	1,007	1,033	980	1,006	1,340	1,356	1,260	1,286
12. 木材・木製品（家具を除く）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
13. 家具・装備品	152	148	149	153	127	130	168	170	191	195
14. パルプ・紙・紙加工品	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
15. 印刷・同関連	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
16. 化学	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
17. 石油製品・石炭製品	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
18. プラスチック製品（別掲を除く）	1,374	1,335	874	896	χ	χ	χ	χ	χ	χ
19. ゴム製品	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
20. なめし革・同製品・毛皮	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
21. 窯業・土石製品	1,206	1,172	1,161	1,191	1,183	1,215	χ	χ	χ	χ
22. 鉄鋼	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
23. 非鉄金属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
24. 金属製品	20,687	20,104	14,659	15,035	17,520	17,988	18,896	19,126	15,914	16,239
25. はん用機械器具	4,096	3,981	3,031	3,109	χ	χ	χ	χ	χ	χ
26. 生産用機械器具	χ	χ	χ	χ	χ	χ	1,129	1,143	800	816
27. 業務用機械器具	17,946	17,440	14,152	14,515	9,896	10,160	7,357	7,446	7,720	7,878
28. 電子部品・デバイス・電子回路	413	401	252	258	282	290	1,744	1,765	1,971	2,011
29. 電気機械器具	3,410	3,314	2,128	2,183	3,669	3,767	898	909	χ	χ
30. 情報通信機械器具	χ	χ	－	－	－	－	－	－	χ	χ
31. 輸送用機械器具	1,612	1,567	1,084	1,112	2,345	2,408	2,225	2,252	2,521	2,572
32. その他	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ

注:・デフレータ補正値は、平成27年を100とした国内卸売物価指数で補正した数値
・χは秘密保持のための伏せ字
・従業者4人以上の事業所

資料:工業統計調査(各年12月31日)

表2－6－6 産業中分類別工業出荷額 (単位:百万円)

産業中分類	平成25年		平成26年		平成27年		平成28年			
	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値	出荷額	デフレータ補正値		
合計	36,031	36,322	39,232	38,313	44,523	44,523	50,241	52,063		
09. 食料品	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ		
10. 飲料・たばこ・飼料	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ		
11. 繊維	χ	χ	χ	χ	χ	χ	1,057	1,095		
12. 木材・木製品（家具を除く）	－	－	－	－	－	－	－	－		
13. 家具・装備品	169	170	180	176	χ	χ	χ	χ		
14. パルプ・紙・紙加工品	χ	χ	χ	χ	－	－	χ	χ		
15. 印刷・同関連	－	－	－	－	－	－	－	－		
16. 化学	－	－	－	－	－	－	－	－		
17. 石油製品・石炭製品	－	－	－	－	－	－	－	－		
18. プラスチック製品（別掲を除く）	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ		
19. ゴム製品	－	－	－	－	－	－	－	－		
20. なめし革・同製品・毛皮	－	－	－	－	－	－	－	－		
21. 窯業・土石製品	936	944	1,063	1,038	χ	χ	946	980		
22. 鉄鋼	－	－	－	－	－	－	－	－		
23. 非鉄金属	－	－	－	－	－	－	－	－		
24. 金属製品	19,642	19,800	17,270	16,865	21,600	21,600	24,167	25,044		
25. はん用機械器具	2,421	2,441	2,623	2,562	χ	χ	χ	χ		
26. 生産用機械器具	χ	χ	χ	χ	1,625	1,625	χ	χ		
27. 業務用機械器具	3,841	3,872	6,979	6,815	5,946	5,946	10,737	11,126		
28. 電子部品・デバイス・電子回路	2,087	2,104	χ	χ	4,049	4,049	2,470	2,560		
29. 電気機械器具	942	950	1,367	1,335	χ	χ	χ	χ		
30. 情報通信機械器具	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ		
31. 輸送用機械器具	2,412	2,431	2,782	2,717	3,154	3,154	3,376	3,498		
32. その他	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ		

注:・デフレータ補正値は、平成27年を100とした国内卸売物価指数で補正した数値
・χは秘密保持のための伏せ字
・従業者4人以上の事業所

工業統計調査、平成27年は経済センサス-活動調査（各年12月31日）

■ 工業出荷額の推計(実質出荷額)

平成23年から平成28年までの工業出荷額を基に行った推計結果は、平成28年の工業出荷額 521億円が平成47年には572億円から988億円の幅で推計され、そのうち決定係数の一番高い回帰式によると988億円と推測される。

表2－7 工業出荷額将来推計

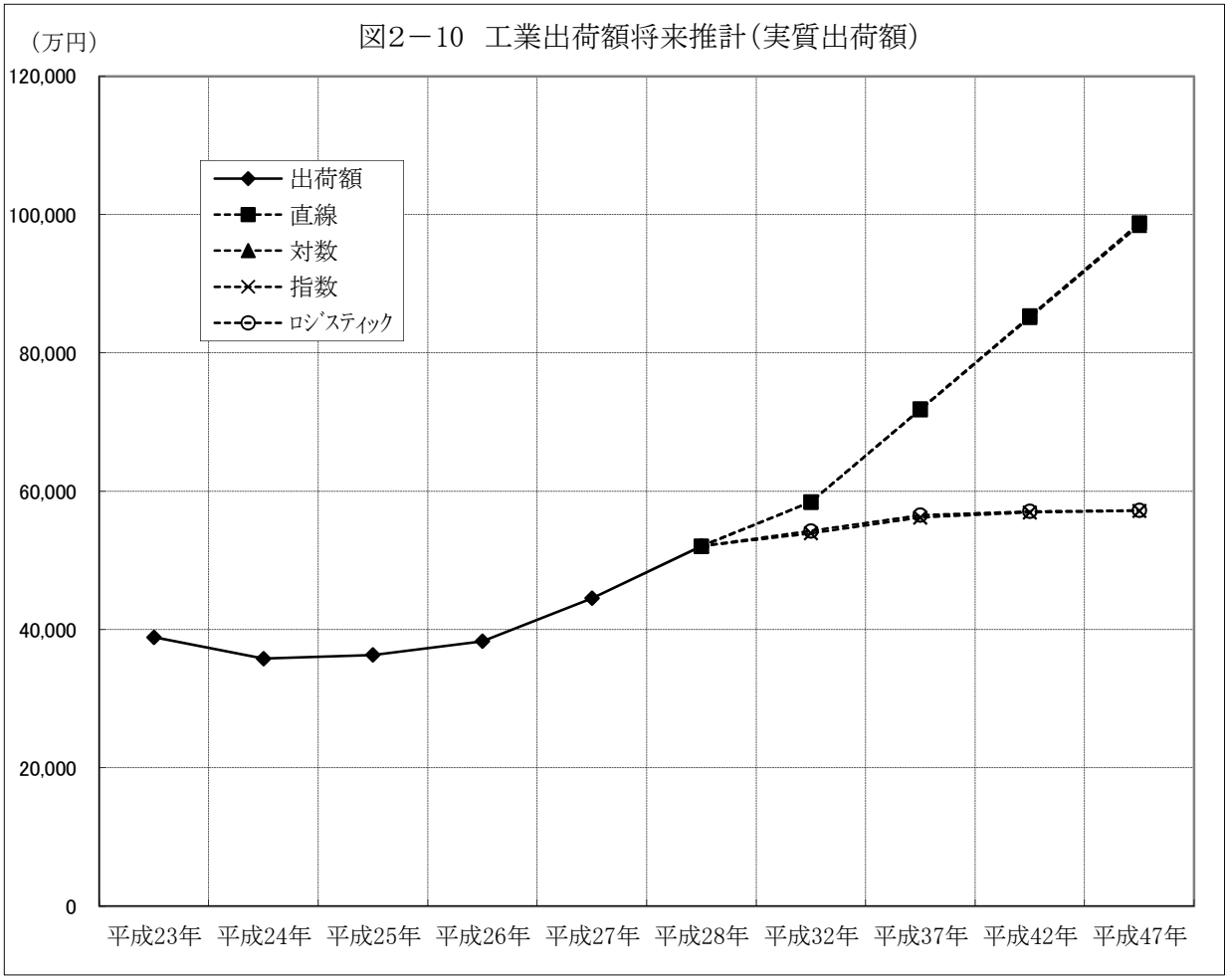
(単位:百万円)

推計方法	平成28年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
直線: y＝ax＋b	(実績値)	58,451	71,887	85,323	98,759
対数: y＝alogx＋b	52,063	58,421	71,793	85,132	98,439
指数: y＝K-ab^x		53,908	56,193	56,925	57,159
ﾛｼﾞｽﾃｨｯｸ:y＝k/(1+aexp^-bx)		54,267	56,535	57,095	57,228

推計式		
直線	y＝2687.16186559316x＋-5369615.57914762	決定係数=0.64684
対数	y＝5409152.76743598logx＋-41109844.8967359	決定係数=0.64650
指数	y＝57269.5336787565-2.2591862715809E+203*0.796297805133269^x	決定係数=0.61308
ロシ゛スティック	y＝57269.5336787565/(1+7.5732800936703E+252exp ^-0.289688302423242x)	決定係数=0.62489

注:平成23年～平成28年のデフレータ補正値データにより推計

図2－10 工業出荷額将来推計(実質出荷額)



C0202-3 産業中分類別商業販売額

平成28年の商業販売額（実質）は131億円で、そのうち卸売業が62.8％、小売業が37.2％の構成比となっている。商業販売額（実質）の推移を見ると、平成6年以降減少傾向にあったが、平成16年から平成19年にかけて一時増加したものの再び減少に転じたが、近年、平成26年から平成28年にかけては、卸売業の増加により21億円の増加となっている。

図２－11　商業販売額の推移

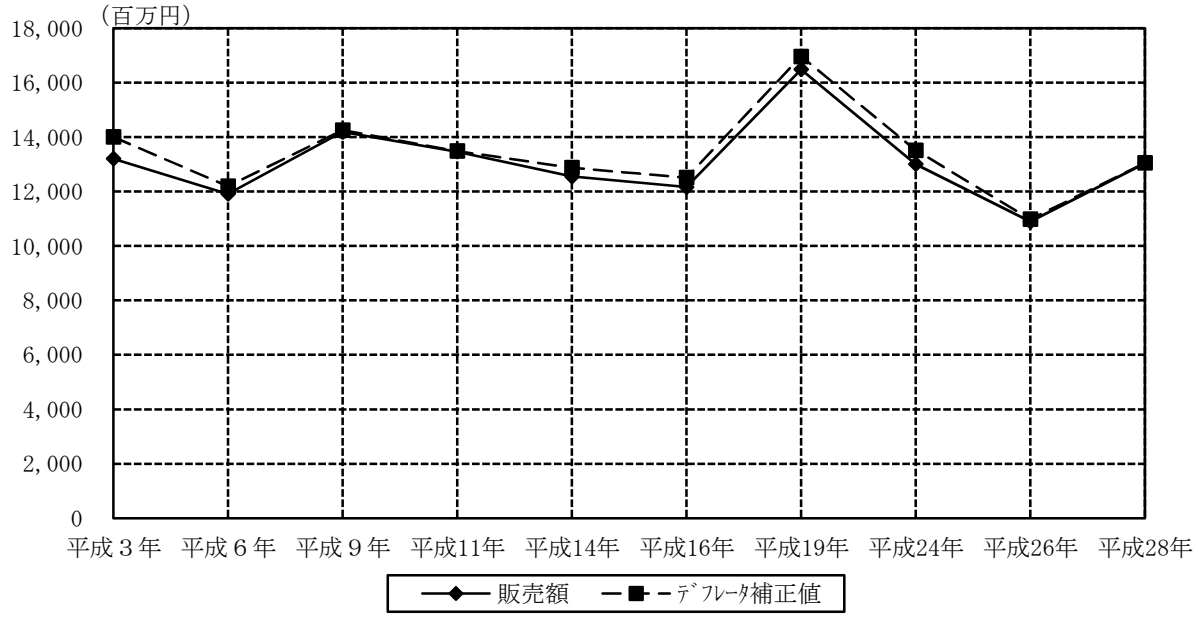


図2－12　業種別販売額の推移（ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値）

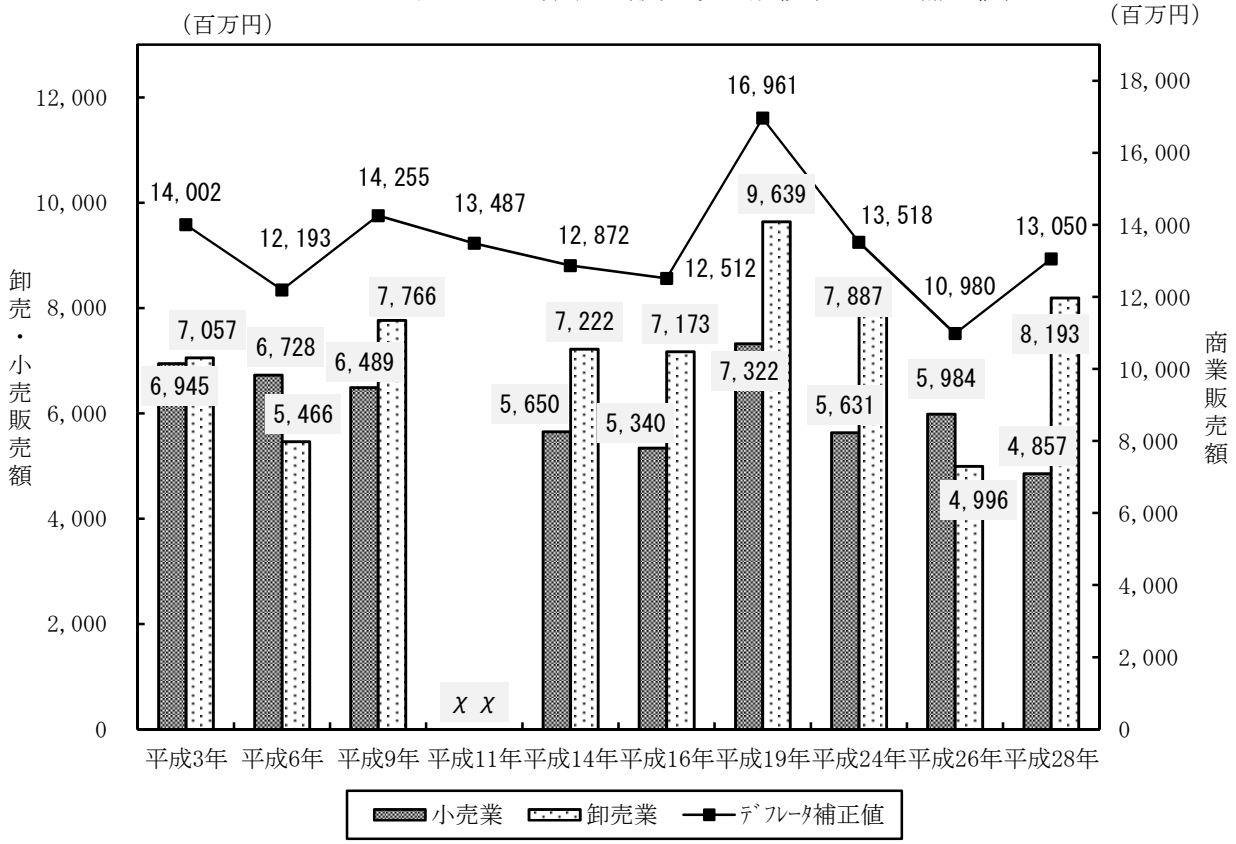


表2－8－1　産業中分類別商業販売額　　(単位:百万円)

産業中分類		平成3年		平成6年		平成9年		平成11年		平成14年	
		販売額	デフレータ補正値	販売額	デフレータ補正値	販売額	デフレータ補正値	販売額	デフレータ補正値	販売額	デフレータ補正値
合計		13,204	14,002	11,913	12,193	14,184	14,255	13,460	13,487	12,550	12,872
卸売業計		6,655	7,057	5,340	5,466	7,727	7,766	χ	χ	7,041	7,222
49	各種商品卸売業	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
50	織物・衣服等卸売業	6,655	7,057	－	－	－	－	－	－	χ	χ
51	飲食料品卸売業			χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
52	建築材料、鉱物金属等卸売業			704	721	χ	χ	1,337	1,340	1,514	1,553
53	機械器具卸売業			4,118	4,215	6,048	6,078	5,685	5,696	5,119	5,250
54	その他卸売業	－	－	χ	χ	χ	χ	χ	χ	354	363
小売業計		6,549	6,945	6,573	6,728	6,457	6,489	χ	χ	5,509	5,650
55	各種商品小売業	－	－	－	－	χ	χ	χ	χ	－	－
56	織物・衣服・身の回品小売り業	218	231	302	309	297	298	232	232	202	207
57	飲食料品小売業	3,296	3,495	3,265	3,342	2,975	2,990	2,911	2,917	2,507	2,571
58	自動車自転車小売業	836	887	873	894	χ	χ	630	631	528	542
59	家具・建具じゅう器等小売業	672	713	584	598	703	707	509	510	659	676
60	その他の小売業	1,527	1,619	1,549	1,585	1,896	1,906	χ	χ	1,613	1,654

注:・デフレータ補正値は、平成27年を100とした全国(総合)消費者物価指数で補正した数値
・χは秘密保持のための伏せ字

資料:商業統計調査(各年6月1日)

表2－8－2 産業中分類別商業販売額

(単位:百万円)

産業中分類		平成16年 販売額	平成16年 デフレータ補正値	平成19年 販売額	平成19年 デフレータ補正値	産業中分類		平成24年 販売額	平成24年 デフレータ補正値	平成26年 販売額	平成26年 デフレータ補正値	平成28年 販売額	平成28年 デフレータ補正値
合計		12,162	12,512	16,486	16,961	合計		13,004	13,518	10,892	10,980	13,037	13,050
卸売業計		6,972	7,173	9,369	9,639	卸売業計		7,587	7,887	4,956	4,996	8,185	8,193
49	各種商品卸売業	－	－	－	－	50	各種商品卸売業	－	－			－	－
50	織物・衣服等卸売業	－	－	－	－	51	繊維・衣服等卸売業	－	－			－	－
51	飲食料品卸売業	χ	χ	χ	χ	52	飲食料品卸売業	χ	χ			χ	χ
52	建築材料、鉱物金属等卸売業	4,545	4,676	6,626	6,817	53	建築材料、鉱物・金属材料等卸売業	4,936	5,078			5,443	5,448
53	機械器具卸売業	556	572	2,314	2,381	54	機械器具卸売業	χ	χ			χ	χ
54	その他卸売業	χ	χ	χ	χ	55	その他の卸売業	617	635			χ	χ
小売業計		5,190	5,340	7,117	7,322	小売業計		5,417	5,631	5,936	5,984	4,852	4,857
55	各種商品小売業	－	－	－	－	56	各種商品小売業	－	－	－	－	－	－
56	織物・衣服・身の回品小売り業	180	185	140	144	57	繊維・衣服・身の回品小売り業	37	38	33	33	22	22
57	飲食料品小売業	2,616	2,691	2,497	2,569	58	飲食料品小売業	1,121	1,165	1,170	1,179	1,076	1,077
58	自動車自転車小売業	693	713	885	910	59	機械器具小売業	695	722	1,017	1,025	1,169	1,170
59	家具・建具じゅう器等小売業	234	241	359	369	60	その他の小売業	3,362	3,495	2,382	2,401	2,453	2,455
60	その他の小売業	1,467	1,509	3,236	3,329	61	無店舗小売業	202	210	1,334	1,345	132	132

注:・デフレータ補正値は、平成27年を100とした全国(総合)消費者物価指数で補正した数値

・χは秘密保持のための伏せ字

・平成26年の産業中分類(卸売業50～55)の数値は、公表されていない。

資料:商業統計調査(各年6月1日、平成26年は7月1日)
平成24年は経済センサス-活動調査(平成24年2月)
平成28年経済センサス-活動調査(平成28年6月1日)

■ 商業販売額の推計(実質販売額)

平成14年から平成28年までの商業販売額を基に行った推計結果は、 卸売業においては平成28年の商業販売額82億円が平成47年には 63億円から74億円の幅で推計され、そのうち決定係数の最も高い回帰式によると 63億円と推測される。

小売業は、平成28年の商業販売額 49億円が平成47年には 46億円から65億円の幅で推計され、 そのうち決定係数の最も高い回帰式によると 49億円と推測される。

表2－9 商業販売額将来推計(合計)

(単位:百万円)

推計方法	平成28年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
直線: y＝ax＋b	(実績値)	12,411	11,987	11,562	11,138
対数: y＝alogx＋b	13,050	13,210	13,058	12,906	12,754
指数: y＝K-ab^x		12,926	12,422	11,871	12,038
ﾛｼﾞｽﾃｨｯｸ:y＝k/(1+aexp^-bx)		12,668	12,164	11,641	11,102

表2－10 商業販売額将来推計(卸売業)

(単位:百万円)

推計方法	平成28年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
直線: y＝ax＋b	(実績値)	7,010	6,768	6,527	6,286
対数: y＝alogx＋b	8,193	7,011	6,772	6,533	6,295
指数: y＝K-ab^x		7,429	7,191	6,936	7,429
ﾛｼﾞｽﾃｨｯｸ:y＝k/(1+aexp^-bx)		7,214	6,947	6,670	6,385

推計方法	推計式	
直線	y＝-48.2715247479116x＋104518.135004511	決定係数=0.0323
対数	y＝-96844.7709115587logx＋744082.7901198	決定係数=0.0323
指数	y＝10602.7777777778-6.8730423246567E-10*1.01454087563274^x	決定係数=0.0197
ロシ゛スティック	y＝10602.7777777778/(1+5.40107842050991E-21exp^--0.0227288077515982x)	決定係数=0.0268

表2－11 商業販売額将来推計(小売業)

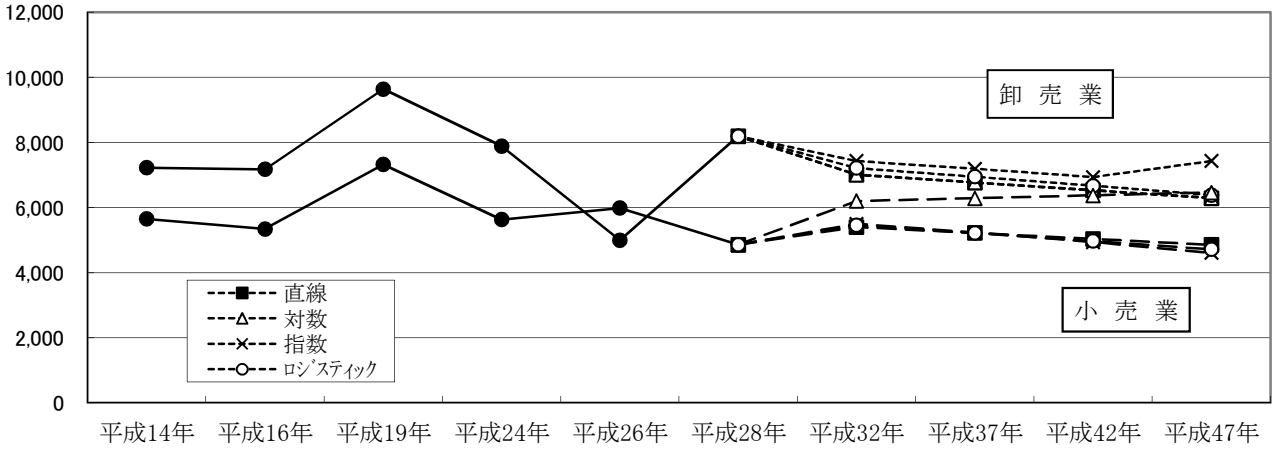
(単位:百万円)

推計方法	平成28年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
直線: y＝ax＋b	(実績値)	5,401	5,218	5,036	4,853
対数: y＝alogx＋b	4,857	6,199	6,286	6,373	6,459
指数: y＝K-ab^x		5,498	5,231	4,936	4,610
ﾛｼﾞｽﾃｨｯｸ:y＝k/(1+aexp^-bx)		5,454	5,217	4,971	4,717

推計方法	推計式	
直線	y＝-36.5615860814108x＋79255.5673684974	決定係数=0.0614
対数	y＝35211.2910255572logx＋-261789.228558026	決定係数=0.0611
指数	y＝8054.21810699589-9.30601147868418E-15*1.02007732215517^x	決定係数=0.0457
ロシ゛スティック	y＝8054.21810699589/(1+3.89319320100984E-24exp^--0.0263177657277907x)	決定係数=0.0510

注:平成14年～平成28年のデータにより推計

図2－13 商業販売額将来推計(実質販売額)



３．　土地利用及び土地利用条件

C0302　土地利用現況

土地利用の状況を土地利用区分別にみると、行政区域面積5,450haのうち山林80.3％、農地9.2％などとなっており、水面等を含めた自然的土地利用は90.9％である。残りの9.1％は宅地等の都市的土地利用である。

都市計画区域における土地利用の状況は、区域面積1,542haの70.0％が自然的土地利用で、残りの30.0％が都市的土地利用となっている。自然的土地利用の内訳は農地32.4％、山林34.7％などとなっており、山林の占める割合が多くなっている。

用途地域指定区域においては、面積134haのうち自然的土地利用は16.9％、都市的土地利用は83.1％であり、そのうち住宅用地が37.2％で最も多く、工業用地の11.8％、商業用地の3.6％を併せた宅地全体では52.6％を占めている。また、可住地面積は区域面積の63.5％にあたる85.1haである。

表3－1　土地利用別面積　（単位：ha）

区分		用途地域指定区域	用途地域指定外区域	都市計画区域	都市計画区域外	行政区域
自然的土地利用	田	8.4	351.6	360.0	0.0	360.0
	畑	9.0	130.6	139.6	0.0	139.6
	農地計	17.4	482.2	499.6	0.0	499.6
	山林	3.2	531.6	534.8	3,843.5	4,378.3
	水面	1.1	11.9	13.0	18.1	31.1
	その他自然地	1.0	30.4	31.4	16.1	47.5
	計	22.7	1,056.1	1,078.8	3,877.7	4,956.5
都市的土地利用	住宅用地	49.9	131.6	181.5	0.0	181.5
	商業用地	4.8	10.5	15.3	0.0	15.3
	工業用地	15.8	52.4	68.2	0.2	68.4
	宅地計	70.5	194.5	265.0	0.2	265.2
	公共・公益用地	12.0	38.9	50.9	8.9	59.8
	道路用地	21.7	99.2	120.9	19.9	140.8
	交通施設用地	1.2	2.6	3.8	0.1	3.9
	その他公的用地	－	－	－	－	－
	その他の空地	5.9	16.7	22.6	1.2	23.8
	計	111.3	351.9	463.2	30.3	493.5
合計		134.0	1,408.0	1,542.0	3,908.0	5,450.0
可住地		85.1	647.9	733.0	11.0	744.0
非可住地		48.9	760.1	809.0	3,897.0	4,706.0

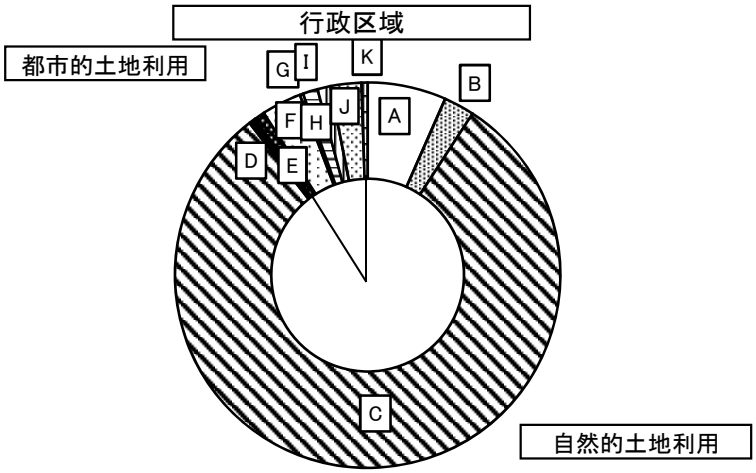
注・「公共・公益用地」は土地利用現況図の「公共施設用地」と「公共空地」の合計。　面積：都市計画基本図計測値
・非可住地は以下のとおりとする。
「山林」「水面」、「その他の自然地」、「公共・公益用地」、「道路用地」、「交通施設用地」、「その他の公的施設用地」の他、敷地面積1ha以上の「大規模商業用地」、「大規模工業用地」、土地利用に関係なくすべての工業専用地域。

図3－1　土地利用別面積

■土地利用別面積(行政区域)

利　用　区　分	行政区域	構成比
A－田	360.0	6.6
B－畑	139.6	2.6
C－山林	4,378.3	80.3
D－水面	31.1	0.6
E－その他自然地	47.5	0.9
F－住宅用地	181.5	3.3
G－商業用地	15.3	0.3
H－工業用地	68.4	1.3
I－公共・公益用地	59.8	1.1
J－道路用地	140.8	2.6
K－その他都市的土地利用	27.7	0.5
合　　計	5,450.0	100.0

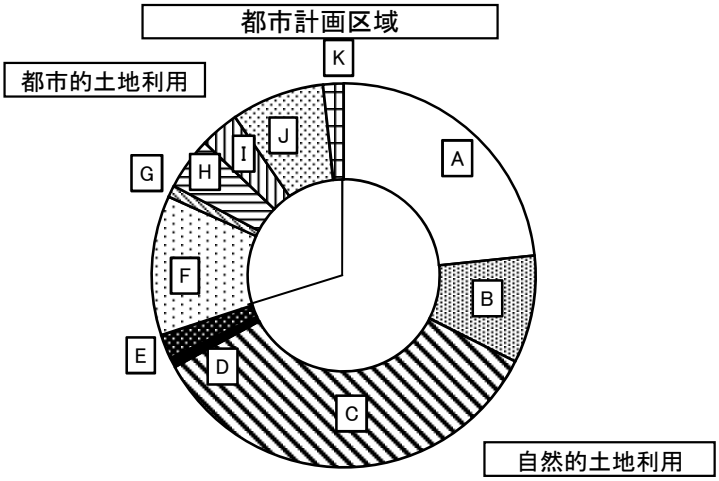
(単位:ha、%)



■土地利用別面積(都市計画区域)

利　用　区　分	都市計画区域	構成比
A－田	360.0	23.3
B－畑	139.6	9.1
C－山林	534.8	34.7
D－水面	13.0	0.8
E－その他自然地	31.4	2.0
F－住宅用地	181.5	11.8
G－商業用地	15.3	1.0
H－工業用地	68.2	4.4
I－公共・公益用地	50.9	3.3
J－道路用地	120.9	7.8
K－その他都市的土地利用	26.4	1.7
合　　計	1,542.0	100.0

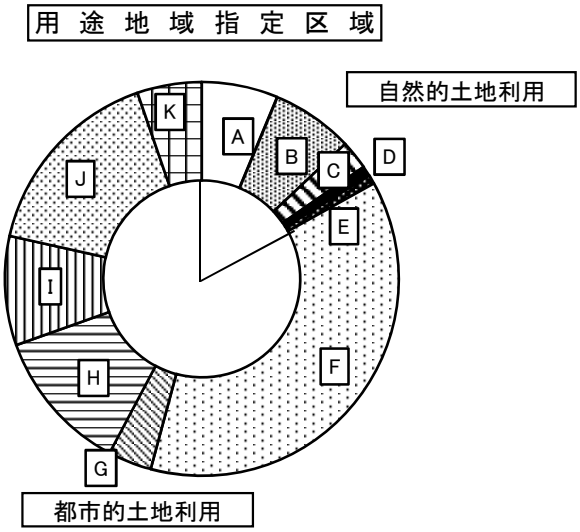
(単位:ha、%)



■土地利用別面積(用途地域指定区域)

利　用　区　分	用途地域指定区域	構成比
A－田	8.4	6.3
B－畑	9.0	6.7
C－山林	3.2	2.4
D－水面	1.1	0.8
E－その他自然地	1.0	0.7
F－住宅用地	49.9	37.2
G－商業用地	4.8	3.6
H－工業用地	15.8	11.8
I－公共・公益用地	12.0	9.0
J－道路用地	21.7	16.2
K－その他都市的土地利用	7.1	5.3
合　　計	134.0	100.0

(単位:ha、%)



注:構成比は、小数点第1位で四捨五入したため、合計と内容の計が一致しない場合がある。

C0304 宅地開発状況

都市計画区域における宅地開発の状況は、平成14年から平成30年まで15件であり、面積の合計は91,931.76㎡となっている。開発用途の内訳は住宅6件、商業1件、工業8件となっている。

表3－2 宅地開発状況

年次	都市計画区域											
	住宅		商業		工業		農林漁業		その他		合計	
	件数	面積(㎡)	件数	面積(㎡)	件数	面積(㎡)	件数	面積(㎡)	件数	面積(㎡)	件数	面積(㎡)
平成14年	1	5,203.49	－	－	－	－	－	－	－	－	1	5,203.49
平成15年	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成16年	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成17年	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成18年	－	－	－	－	3	22,678.84	－	－	－	－	3	22,678.84
平成19年	1	3,958.89	－	－	1	6,607.35	－	－	－	－	2	10,566.24
平成20年	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成21年	1	13,936.81	－	－	1	3,409.27	－	－	－	－	2	17,346.08
平成22年	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成23年	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成24年	－	－	－	－	1	9,845.02	－	－	－	－	1	9,845.02
平成25年	－	－	1	4,976.36	－	－	－	－	－	－	1	4,976.36
平成26年	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成27年	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成28年	1	5,417.30	－	－	1	3,169.00	－	－	－	－	2	8,586.30
平成29年	1	3,565.34	－	－	1	4,235.73	－	－	－	－	2	7,801.07
平成30年	1	4,928.36	－	－	－	－	－	－	－	－	1	4,928.36
合計	6	37,010.19	1	4,976.36	8	49,945.21	－	－	－	－	15	91,931.76

注:3,000㎡以上の開発　　資料:開発許可申請書

C0305 農地転用状況

都市計画区域における農地転用の状況は、平成25年から平成29年までの5年間で76件、面積80,173.4㎡であり、そのうち用途地域指定区域が20件、面積が15,232.0㎡、用途地域指定外区域が56件、面積が64,941.4㎡となっている。転用の目的別では、用途地域指定区域、用途地域指定外区域ともに住宅用地への転用件数が多くなっており、用途地域指定区域では17件、11,309.0㎡、用途地域指定外区域では22件、21,647.0㎡となっている。住宅用地以外の転用をみると、近年、その他（太陽光発電設備等）への転用が多い状況となっている。

表3－3 農地転用状況

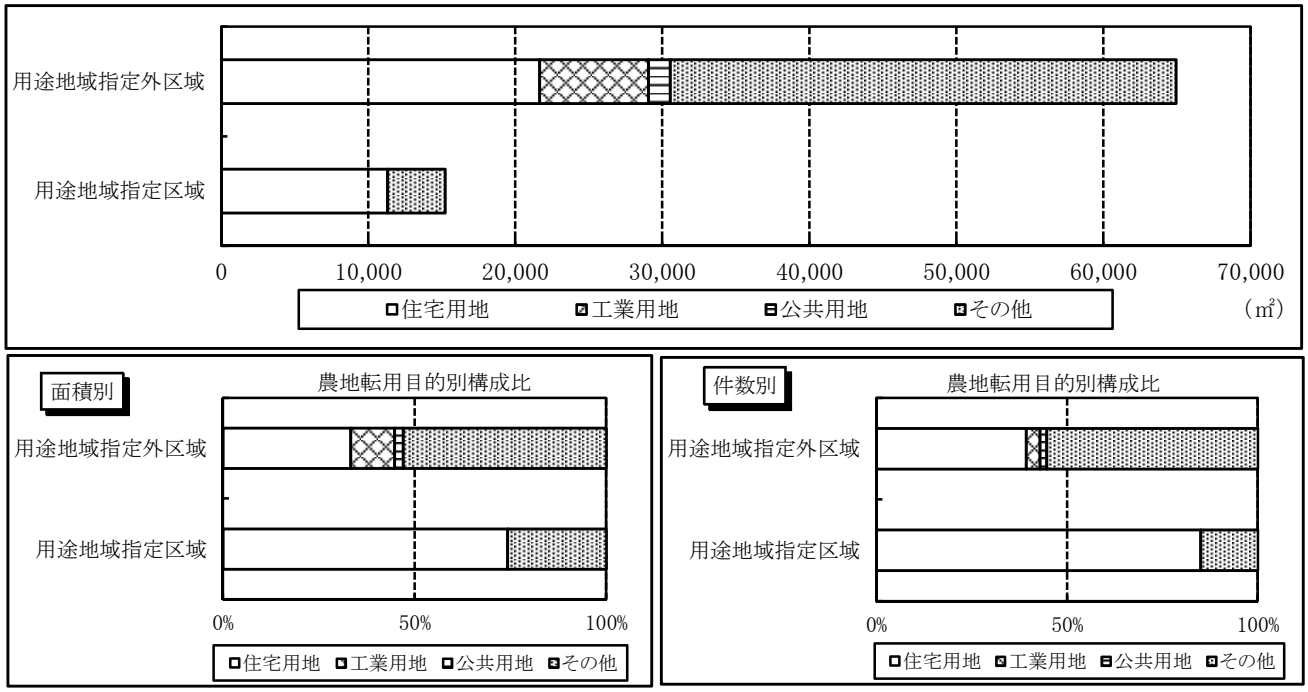
（単位：件、㎡）

		住宅用地		工業用地		公共用地		その他		合計		前年度の農地面積(ha)	転用率（％）
		件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積		
用途地域指定区域	H25	3	658.0	0	0.0	0	0.0	1	1,405.0	4	2,063.0	18.9	1.1
	H26	6	1,730.0	0	0.0	0	0.0	1	159.0	7	1,889.0	18.7	1.0
	H27	3	6,098.0	0	0.0	0	0.0	1	2,359.0	4	8,457.0	18.5	4.6
	H28	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	17.7	0.0
	H29	5	2,823.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	2,823.0	17.7	1.6
	合計	17	11,309.0	0	0.0	0	0.0	3	3,923.0	20	15,232.0		8.0
用途地域指定外区域	H25	3	1,629.0	0	0.0	0	0.0	7	4,635.0	10	6,264.0	488.7	0.1
	H26	4	1,844.0	0	0.0	0	0.0	10	18,970.9	14	20,814.9	488.1	0.4
	H27	7	4,764.0	1	3,169.0	1	1,477.0	5	7,109.0	14	16,519.0	486.0	0.3
	H28	5	8,001.0	1	4,234.0	0	0.0	5	3,247.9	11	15,482.9	484.3	0.3
	H29	3	5,409.0	0	0.0	0	0.0	4	451.6	7	5,860.6	482.8	0.1
	合計	22	21,647.0	2	7,403.0	1	1,477.0	31	34,414.4	56	64,941.4		1.3
都市計画区域	H25	6	2,287.0	0	0.0	0	0.0	8	6,040.0	14	8,327.0	507.6	0.2
	H26	10	3,574.0	0	0.0	0	0.0	11	19,129.9	21	22,703.9	506.8	0.4
	H27	10	10,862.0	1	3,169.0	1	1,477.0	6	9,468.0	18	24,976.0	504.5	0.5
	H28	5	8,001.0	1	4,234.0	0	0.0	5	3,247.9	11	15,482.9	502.0	0.3
	H29	8	8,232.0	0	0.0	0	0.0	4	451.6	12	8,683.6	500.5	0.2
	合計	39	32,956.0	2	7,403.0	1	1,477.0	34	38,337.4	76	80,173.4		1.6

（注）転用率＝過去1年間の農地転用面積／前年の農地面積×100
＝5年間の農地転用面積／5年前の農地面積×100

資料：農地転用受付簿

図3－2 農地転用状況（H25～H29）



C0307 新築動向

平成25年から平成29年にかけての都市計画区域における新築件数は171件で、敷地面積が84,861.05㎡、建築面積が18,197.76㎡、延べ床面積が26,861.17㎡である。用途別の件数の比率は、住宅が93.0%、商業、工業が2.3%となっており、住宅の占める割合が高い。用途地域指定区域の新築状況については、件数58件のうち住宅が54件(93.1%)を占めている。平均建ぺい率、容積率はそれぞれ24.6%、36.9%になっている。用途地域指定外区域においても、新築件数113件のうち住宅が105件(92.9%)を占めている。平均建ぺい率、容積率はそれぞれ20.2%、29.6%になっている。

新築件数を地区別にみると、用途地域指定区域内、用途地域指定外区域ともに町三区が最も多くなっている。また、用途地域指定外区域への新築は、全新築件数のうち66.1%を占めている。

表3－4－1 地区別新築状況(用途地域指定区域) (単位:㎡、%)

地区名	新築件数					敷地面積合計	平均敷地面積	建築面積合計	平均建ぺい率	延床面積合計	平均容積率
	合計	住宅	商業	工業	その他						
町一区	14	11	2	1	0	7,570.68	540.76	1,838.72	24.3	2,267.84	30.0
町二区	11	11	0	0	0	4,638.57	421.69	969.82	20.9	1,520.52	32.8
町三区	17	16	0	0	1	6,251.47	367.73	1,885.15	30.2	2,948.79	47.2
北割	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.0
南割	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.0
大久保	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.0
中越	7	7	0	0	0	2,459.30	351.33	460.54	18.7	899.10	36.6
つつじが丘	4	4	0	0	0	1,260.12	315.03	341.68	27.1	438.56	34.8
大原	5	5	0	0	0	1,626.51	325.30	368.07	22.6	704.51	43.3
用途地域指定区域	58	54	2	1	1	23,806.65	410.46	5,863.98	24.6	8,779.32	36.9

資料:固定資産土地・家屋データ(平成29年12月末)

図3－3－1 地区別新築状況(用途地域指定区域)

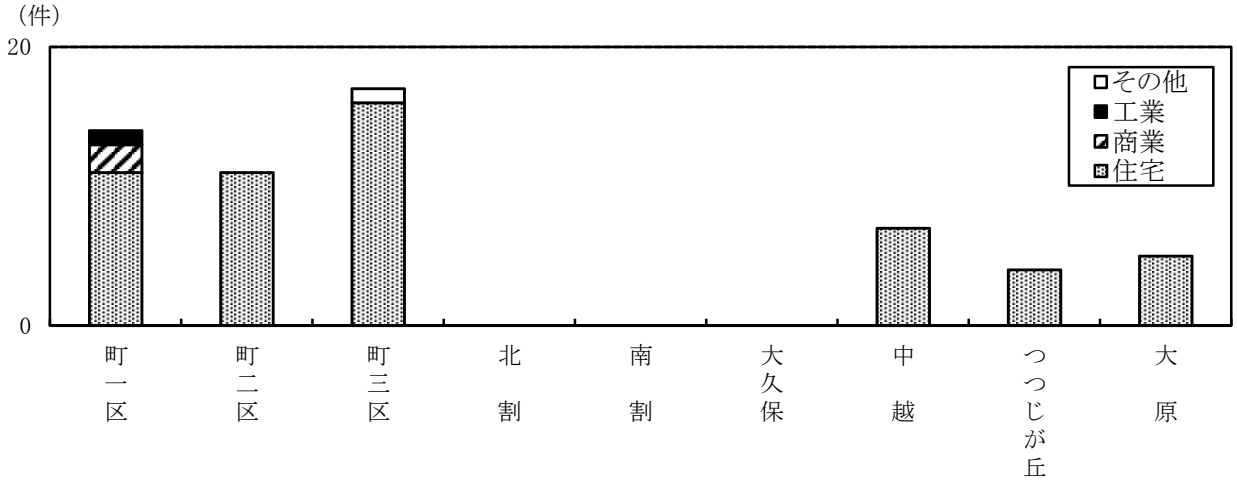
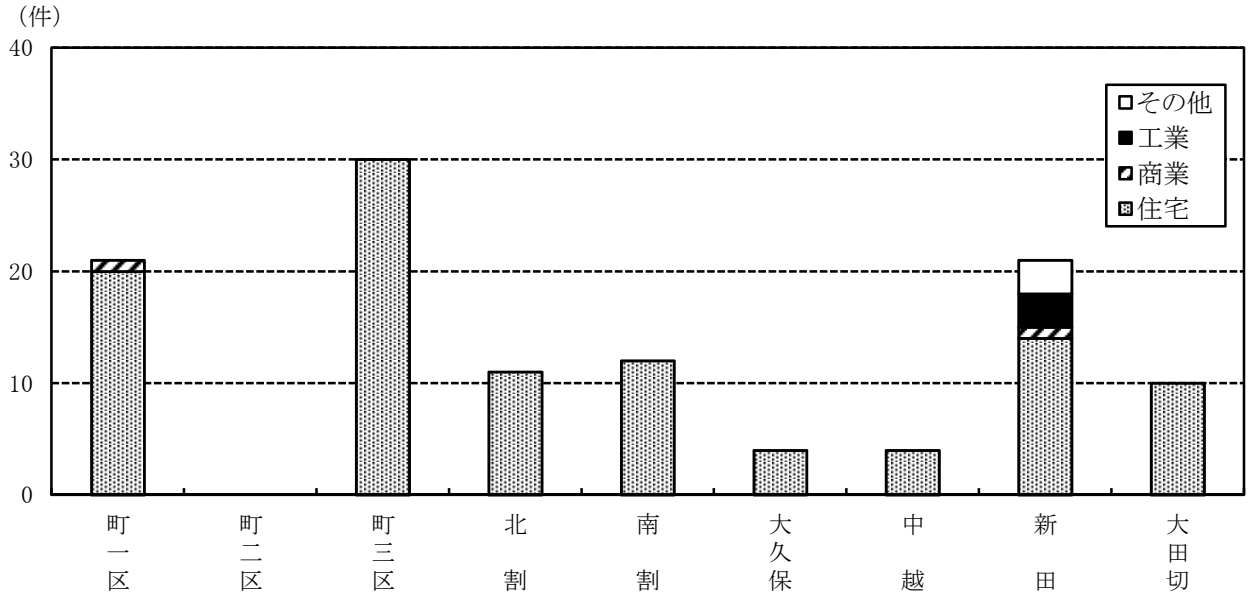


表3－4－2　地区別新築状況(用途地域指定外区域)　　(単位:㎡、%)

地区名	新築件数					敷地面積合計	平均敷地面積	建築面積合計	平均建ぺい率	延床面積合計	平均容積率
	合計	住宅	商業	工業	その他						
町一区	21	20	1	0	0	7,484.99	356.43	1,506.68	20.1	2,465.50	32.9
町二区	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.0
町三区	30	30	0	0	0	10,477.94	349.26	2,319.81	22.1	3,810.51	36.4
北割	11	11	0	0	0	5,746.34	522.39	1,060.74	18.5	1,570.44	27.3
南割	12	12	0	0	0	3,868.98	322.42	980.22	25.3	1,481.96	38.3
大久保	4	4	0	0	0	2,085.85	521.46	359.48	17.2	618.32	29.6
中越	4	4	0	0	0	4,394.35	1,098.59	347.79	7.9	570.78	13.0
新田	21	14	1	3	3	23,010.90	1,095.76	5,071.84	22.0	6,442.06	28.0
大田切	10	10	0	0	0	3,985.05	398.51	687.22	17.2	1,122.28	28.2
用途地域指定外区域	113	105	2	3	3	61,054.40	540.30	12,333.78	20.2	18,081.85	29.6
都市計画区域	171	159	4	4	4	84,861.05	496.26	18,197.76	21.4	26,861.17	31.7

資料:固定資産土地・家屋データ(平成29年12月末)

図3－3－2　地区別新築状況(用途地域指定外区域)



C0308 条例・協定

表3－5 都市計画に関する条例・要綱等

決定主体	条例・要綱等の名称	公布・決定年月日		概要・趣旨等
		当初	最終	
宮田村	宮田村都市計画審議会条例	S54.3.16	H24.12.19	都市計画審議会設置の事項
〃	駒ヶ根都市計画事業西原土地区画整理事業施行条例	S54.3.16	H20.3.12	西原土地区画整理事業に関する必要な事項
〃	宮田村公園条例	H3.6.19	H25.4.1	公園の設置及び管理に関する必要な事項
〃	宮田村営駐車場の設置及び管理に関する条例	H4.3.1	H23.12.15	宮田村営駐車場の設置及び管理について必要な事項
〃	屋外広告物違反処理要領	H6.12.22	H28.4.1	違反広告物に対する除却その他必要な措置に係る事項
〃	宮田村地籍調査成果データ利用実費徴収要綱	H10.3.12		頒布に要した経費を徴収することについて必要な事項
〃	宮田村景観計画策定委員会条例	H27.3.20	H27.12.21	宮田村景観計画策定委員会設置に関する必要な事項
〃	宮田村景観条例	H28.9.16	H29.4.1	景観計画の策定、行為の規制その他良好な景観の形成に関する施策の基本となる事項
長野県	長野県都市計画審議会条例	S44.3.31	H14.3.25	長野県都市計画審議会の組織及び運営に関する必要な事項
〃	都市計画法に基づく開発許可等の基準に関する条例	H16.3.29	H19.10.22	開発許可等の基準に関する必要な事項
〃	長野県景観条例	H4.3.19	H29.3.23	景観計画の策定、行為の規制、景観重要建造物等の指定等に関する必要な事項
〃	長野県景観育成住民協定認定要綱	H4.8.17	H18.3.13	長野県景観条例第32条に規定する景観育成住民協定の認定に関する必要な事項
〃	屋外広告物条例	H5.10.18	H29.3.23	屋外広告物の規制に関する必要な事項

資料：宮田村例規集、長野県法規集

表3－6 建築協定・緑化協定

協定の名称	決定年月日	期限	概要・趣旨等
うるおいとせせらぎの河原町通り住民協定	H9.6.30	締結後10年間（廃止についての申出書がなかった場合は、さらに10年延長）	河原町通りを緑と川とせせらぎが調和した、うるおいのある住環境ときれいな水環境を守り育て、21世紀の子供たちに手渡すことを目的とする。 道路、河川、公園：景観事業導入、環境美化／建築物：屋根形態、階数≦2、色相を例示／広告物：自己用のみ、色相を例示。

資料：建設課

表3－7 都市地域（用途地域指定区域・用途地域指定外区域）

用途地域指定外区域（ha）	用途地域指定区域（ha）													
	総面積	第一種低層住居専用地域	第二種低層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用地域	第一種住居地域	第二種住居地域	準住居地域	近隣商業地域	商業地域	準工業地域	工業地域	工業専用地域	その他
1,408	約134	約20	約9.0	約6.0	－	約64	－	－	約9.9	－	約12	約13	－	－
備考	用途地域決定年月日 昭和52年 2月 7日			最終用途地域決定年月日 平成27年7月2日				人口総数 8,821人（平成27年国勢調査）						

資料：建設課

４．　建　　物

C0401-2　建物構造別現況

用途地域指定区域における木造建物の棟数は1,912棟、延床面積は168,101.71㎡であり、全建物の棟数では76.1％、延床面積では52.8％を占めている。

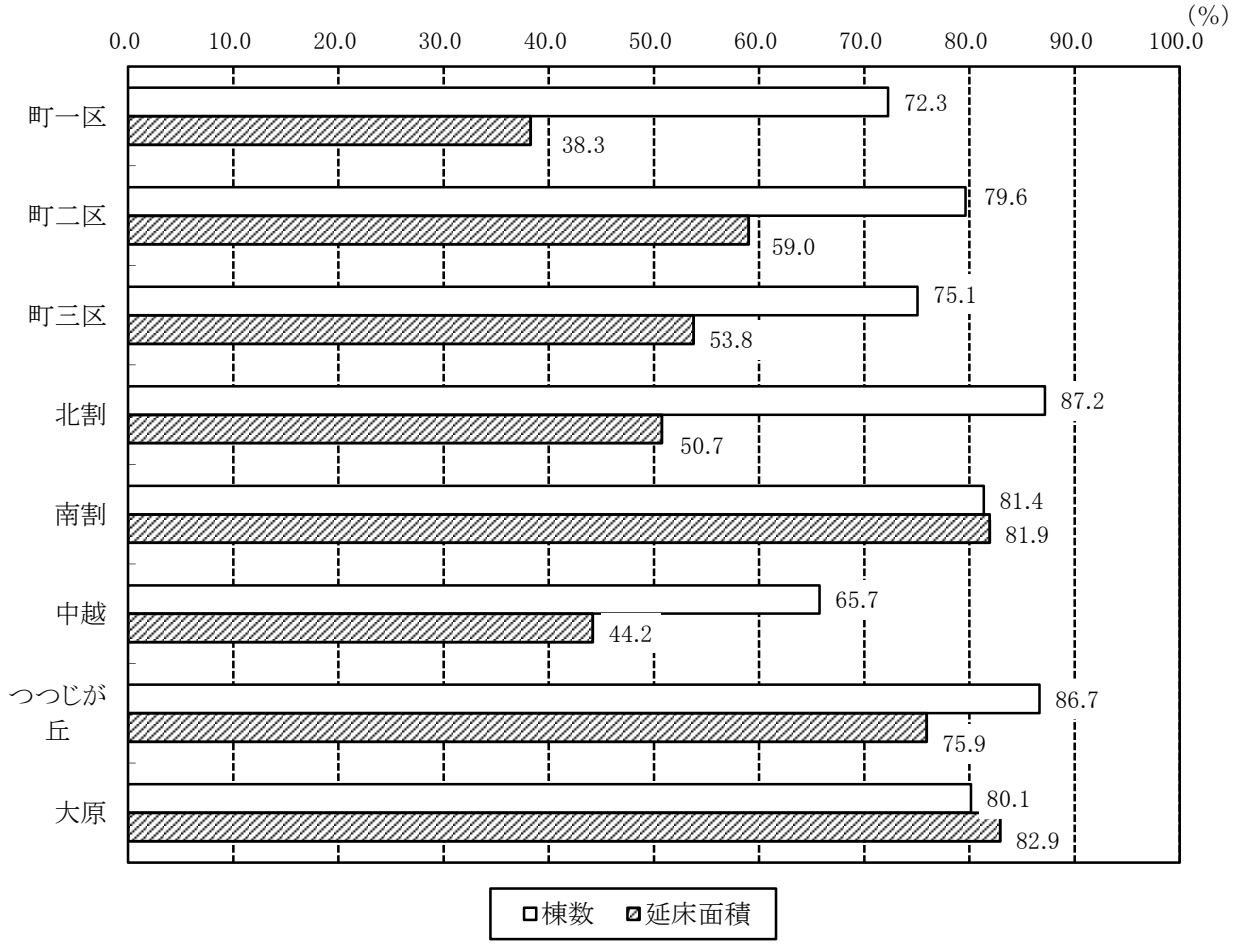
表4－1　地区別木造率現況

地区名	全建物棟数	全建物延床面積	木造建物			
			棟数	比率	延床面積	比率
	棟	㎡	棟	%	㎡	%
町一区	685	100,288.89	495	72.3	38,386.62	38.3
町二区	525	58,948.00	418	79.6	34,768.48	59.0
町三区	734	93,344.82	551	75.1	50,174.54	53.8
北割	39	5,392.43	34	87.2	2,736.55	50.7
南割	59	5,105.68	48	81.4	4,181.85	81.9
中越	108	19,095.18	71	65.7	8,436.23	44.2
つつじが丘	75	11,181.22	65	86.7	8,487.77	75.9
大原	287	25,135.05	230	80.1	20,838.67	82.9
用途地域指定区域	2,512	318,491.27	1,912	76.1	168,010.71	52.8

注. 大久保地区のデータは所有者が限定されるため、つつじが丘へ算入している。

資料：固定資産土地・家屋データ（平成29年12月末）

図4－1　地区別建物木造比率(用途地域指定区域)



C0401-3 地区別建ぺい率現況

用途地域指定区域における宅地面積は733,318.79㎡で、用途地域全面積(134ha)の54.7%を占めており、建築面積は225,498.3㎡で平均建ぺい率は30.8%である。

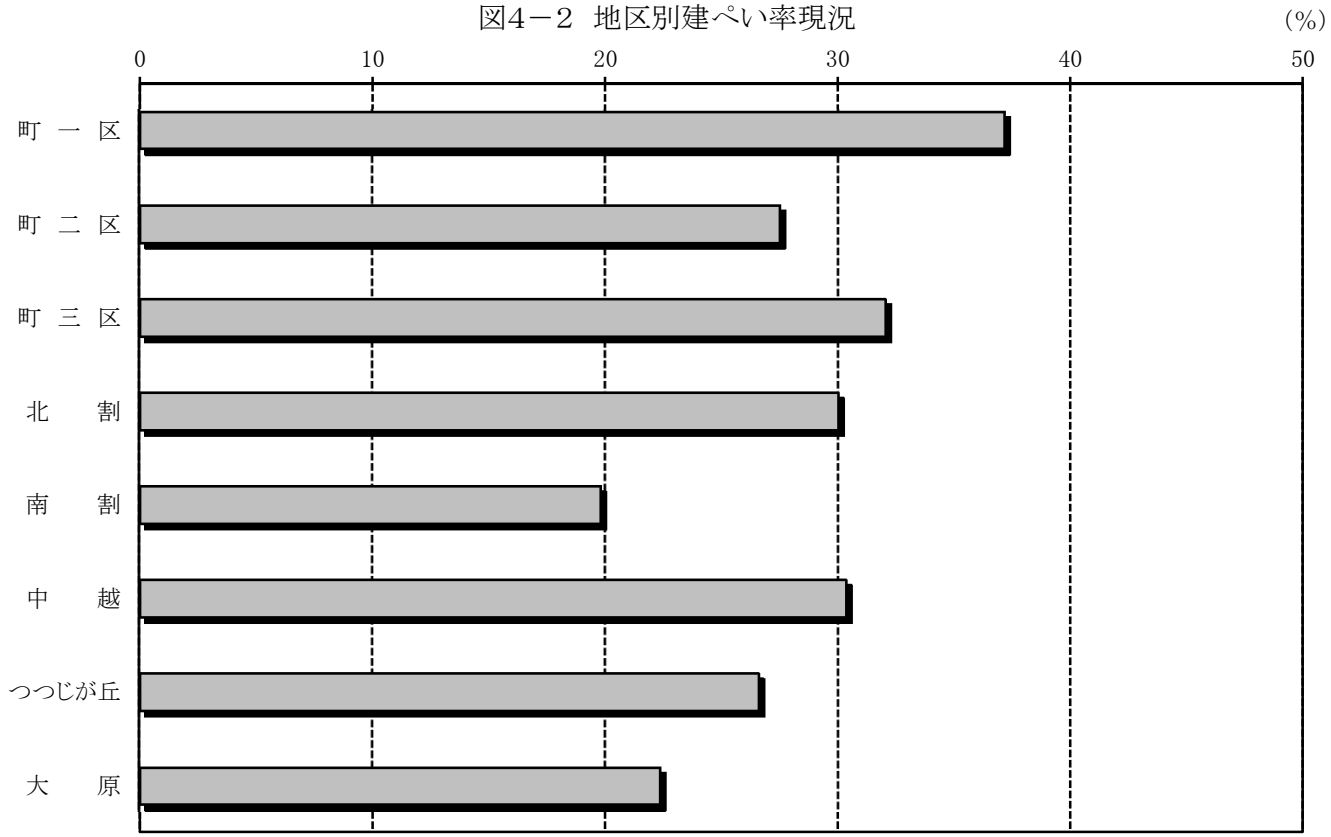
地区別の建ぺい率は、町一区が最も高く37.2%であり、南割が19.8%と最も低くなっている。

表4－2 地区別建ぺい率現況

地区名	ネット建ぺい率			前回建ペイ率	建ペイ率の増減	グロス建ぺい率		現況用途地域及び指定建ペイ率（注1）
	宅地面積合計(㎡)	建築面積合計(㎡)	建ペイ率(A)%	(B)%	(A)－(B)%	地区面積(ha)	建ペイ率(%)	
町一区	193,613.86	71,928.78	37.2	36.9	0.3	30.1	23.9	1低住(50) 1住(60) 近商(80) 工業(60)
町二区	139,438.36	38,339.57	27.5	25.7	1.8	25.7	14.9	1低住(50) 2低住(50) 1住(60) 近商(80) 準工(60) 工業(60)
町三区	207,680.28	66,526.67	32.0	27.7	4.3	41.3	16.1	2低住(50) 1中高住(60) 1住(60) 近商(80) 準工(60)
北割	14,861.18	4,460.12	30.0	29.8	0.2	3.4	13.1	1住(60) 工業(60)
南割	19,664.97	3,894.95	19.8	23.5	△ 3.7	5.4	7.2	2低住(50) 1住(60)
中越	47,484.60	14,409.92	30.3	33.2	△ 2.9	9.0	16.0	1低住(50) 工業(60)
つつじが丘	28,723.53	7,637.18	26.6	31.0	△ 4.4	7.8	9.8	1住(60) 工業(60)
大原	81,852.01	18,301.11	22.4	26.5	△ 4.1	11.3	16.2	1低住(50) 1住(60)
用途地域指定区域	733,318.79	225,498.30	30.8	30.1	0.7	134.0	16.8	

注. 大久保地区のデータは所有者が限定されるため、つつじが丘へ算入している。　資料:固定資産土地・家屋データ(平成29年12月末)

図4－2 地区別建ぺい率現況



C0401-4 地区別容積率現況

用途地域指定区域における延床面積は318,491.27㎡で平均容積率は43.4%である。

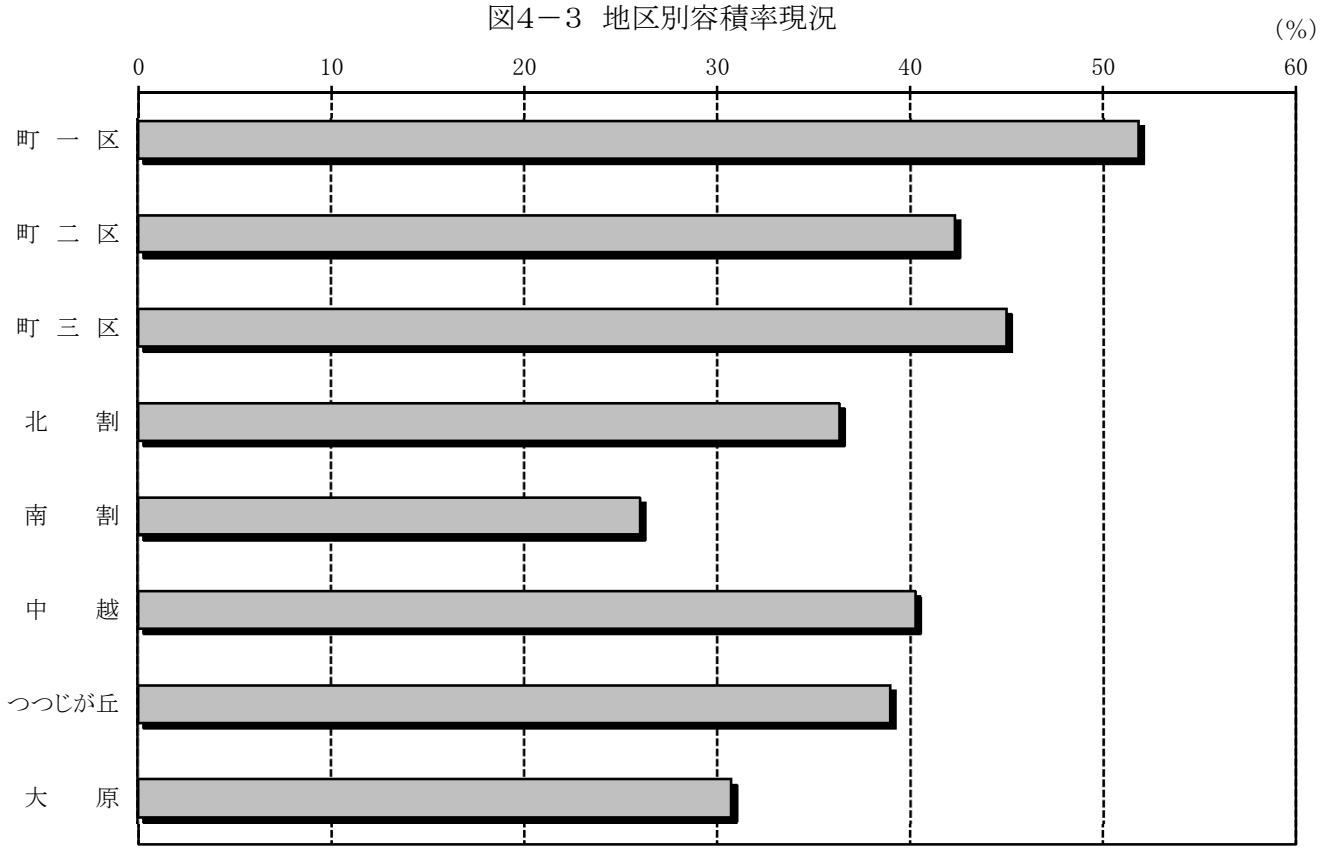
地区別の容積率は、旧来からの市街地である町一区で51.8%と最も高くなっている。また、比較的郊外にある地区が低い値を示しており南割が26.0%となっている。

表4－3 地区別容積率現況

地区名	ネット容積率			前回容積率	容積率の増減	グロス容積率		現況用途地域及び指定容積率（注1）
	宅地面積合計（㎡）	延べ床面積合計（㎡）	容積率（A）%	（B）%	（A）－（B）%	地区面積（ha）	容積率（%）	
町一区	193,613.86	100,288.89	51.8	51.1	0.7	30.1	33.3	1低住(80) 1住(200) 近商(200) 工業(200)
町二区	139,438.36	58,948.00	42.3	36.7	5.6	25.7	22.9	1低住(80) 2低住(80) 1住(200) 近商(200) 準工(200) 工業(200)
町三区	207,680.28	93,344.82	44.9	39.0	5.9	41.3	22.6	2低住(80) 1中高住(200) 1住(200) 近商(200) 準工(200)
北割	14,861.18	5,392.43	36.3	35.7	0.6	3.4	15.9	1住(200) 工業(200)
南割	19,664.97	5,105.68	26.0	32.0	△ 6.0	5.4	9.5	2低住(80) 1住(200)
中越	47,484.60	19,095.18	40.2	42.4	△ 2.1	9.0	21.2	1低住(80) 工業(200)
つつじが丘	28,723.53	11,181.22	38.9	43.1	△ 4.2	7.8	14.3	1住(200) 工業(200)
大原	81,852.01	25,135.05	30.7	34.7	△ 4.0	11.3	22.2	1低住(50) 1住(60)
用途地域指定区域	733,318.79	318,491.27	43.4	41.4	2.0	134.0	23.8	

注. 大久保地区のデータは所有者が限定されるため、つつじが丘へ算入している。　資料：固定資産土地・家屋データ（平成29年12月末）

図4－3 地区別容積率現況



C0401-5 地区別・用途別の建物延べ床面積現況

用途地域指定区域における全建物延床面積は318,491.27㎡であり、建物の用途別では住宅が175,016.81㎡で全体の55.0%を占めており、次いで専用工場・倉庫が81,266.94㎡(25.5%)、専用店舗・事務所が22,906.02㎡(7.2%)などとなっている。

地区別では、ほとんどの地区において住宅の占める割合が高くなっている。特につつじが丘(100.0%)、大原(98.3%)、南割(79.8%)が高い値となっている。住宅以外の占める割合が高いのは北割、中越町、町一区であり、専用工場・倉庫がそれぞれ48.8%、48.4%、47.4%を占めている。また、専用店舗・事務所の占める割合が高いのは、町二区の15.1%となっている。

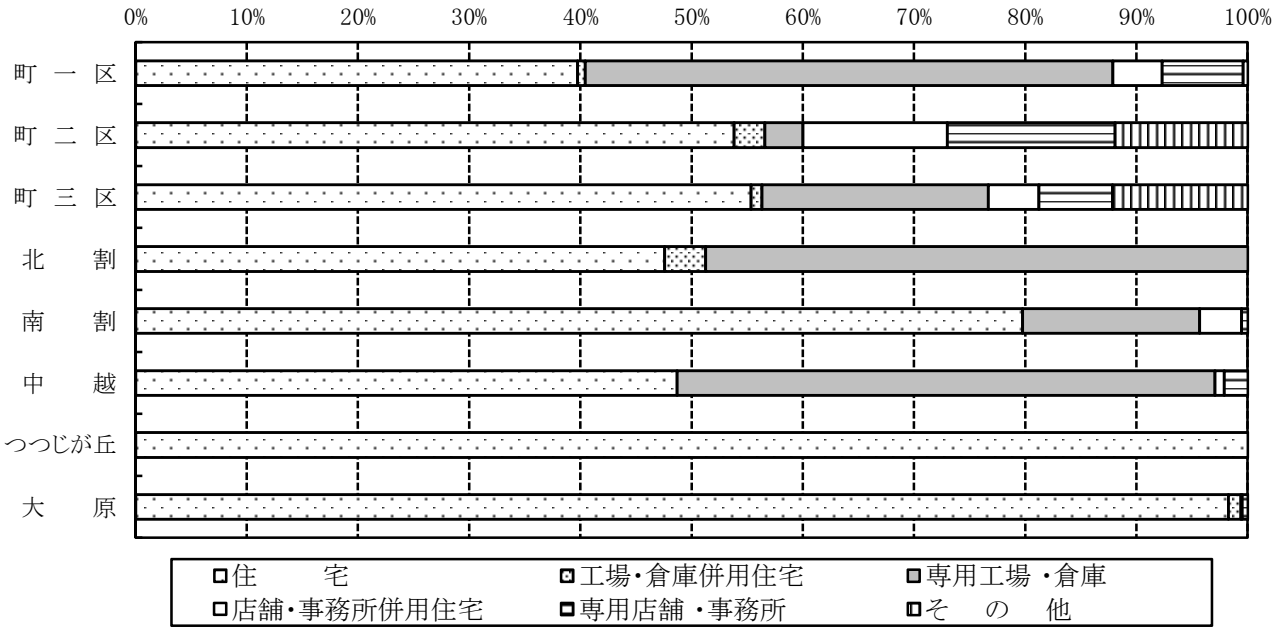
表4－4 地区別・用途別の建物延べ床面積現況

		住宅	工場・倉庫併用住宅	専用工場・倉庫	店舗・事務所併用住宅	専用店舗・事務所	その他	合計
町一区	面積(㎡)	39,840.82	714.27	47,560.15	4,447.74	7,296.41	429.50	100,288.89
	構成比(%)	39.7	0.7	47.4	4.4	7.3	0.4	100.0
町二区	面積(㎡)	31,718.41	1,639.94	2,007.23	7,665.66	8,879.51	7,037.25	58,948.00
	構成比(%)	53.8	2.8	3.4	13.0	15.1	11.9	100.0
町三区	面積(㎡)	51,645.84	925.55	18,991.79	4,262.34	6,170.03	11,349.27	93,344.82
	構成比(%)	55.3	1.0	20.3	4.6	6.6	12.2	100.0
北割	面積(㎡)	2,565.31	198.05	2,629.07	0.00	0.00	0.00	5,392.43
	構成比(%)	47.6	3.7	48.8	0.0	0.0	0.0	100.0
南割	面積(㎡)	4,071.91	0.00	813.15	191.43	29.19	0.00	5,105.68
	構成比(%)	79.8	0.0	15.9	3.7	0.6	0.0	100.0
中越	面積(㎡)	9,298.10	0.00	9,235.74	157.14	404.20	0.00	19,095.18
	構成比(%)	48.7	0.0	48.4	0.8	2.1	0.0	100.0
つつじが丘	面積(㎡)	11,181.22	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	11,181.22
	構成比(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
大原	面積(㎡)	24,695.20	283.36	29.81	0.00	126.68	0.00	25,135.05
	構成比(%)	98.3	1.1	0.1	0.0	0.5	0.0	100.0
用途地域指定区域	面積(㎡)	175,016.81	3,761.17	81,266.94	16,724.31	22,906.02	18,816.02	318,491.27
	構成比(%)	55.0	1.2	25.5	5.3	7.2	5.9	100.0

資料:固定資産土地・家屋データ(平成29年12月末)

注. 大久保地区のデータは所有者が限定されるため、つつじが丘へ算入している。

図4－4 地区別・用途別建物延べ床面積構成比



C0401-6 建物年齢別現況

用途地域指定区域における全建物数は2,512棟であり、建物を年齢別にみると30年以上の建物が1,827棟で72.7%、そのうち昭和56年以前の旧耐震基準の建物は1,664棟で66.2%をを占めている。その他の建物年齢は、どの階級においても10%未満である。

建物年齢を地区別にみると、昭和56年以前の旧耐震基準の建物の占める割合が高いのは、北割(82.1%)大原(76.3%)、町二区(72.2%)、である。

また、建物棟数では町三区が最も多く、用途地域指定区域内の29.2%を占めている。

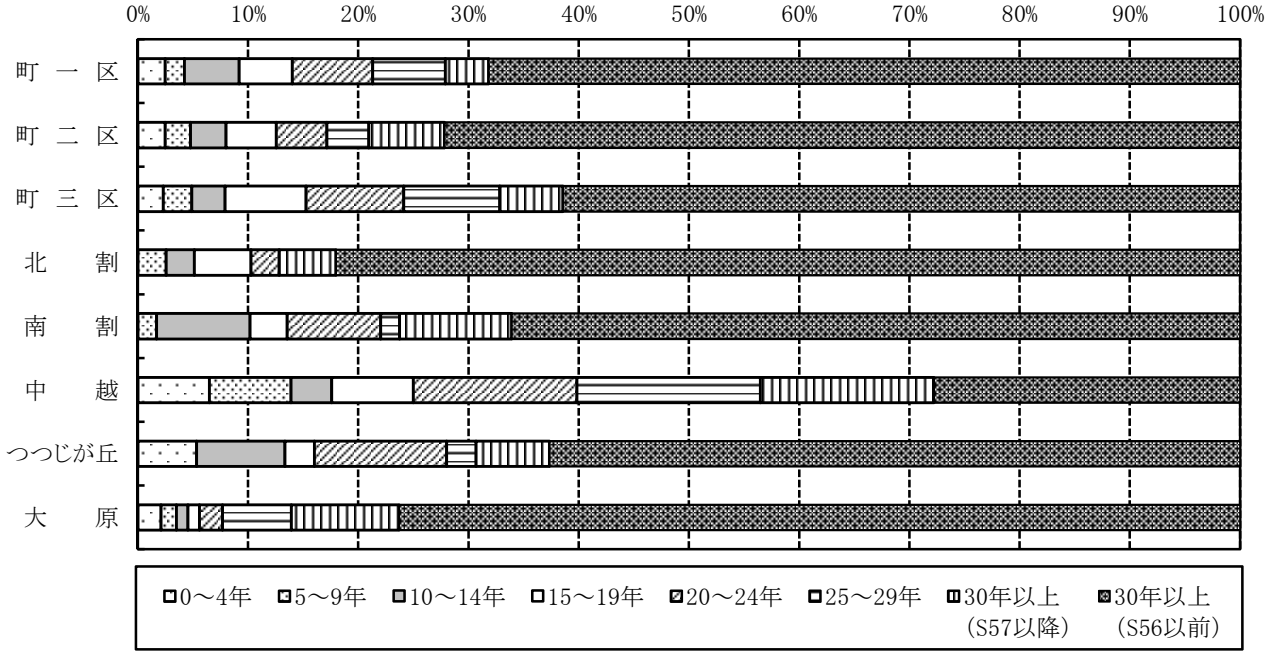
表4－5 地区別建物年齢別現況

地区名		0～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20～24年	25～29年	30年以上(S57以降)	30年以上(S56以前)	全建物棟数
町一区	棟数(棟)	17	12	34	33	50	45	27	467	685
	構成比(%)	2.5	1.8	5.0	4.8	7.3	6.6	3.9	68.2	100.0
町二区	棟数(棟)	13	12	17	24	24	20	36	379	525
	構成比(%)	2.5	2.3	3.2	4.6	4.6	3.8	6.9	72.2	100.0
町三区	棟数(棟)	17	19	22	54	65	64	42	451	734
	構成比(%)	2.3	2.6	3.0	7.4	8.9	8.7	5.7	61.4	100.0
北割	棟数(棟)	0	1	1	2	1	0	2	32	39
	構成比(%)	0.0	2.6	2.6	5.1	2.6	0.0	5.1	82.1	100.0
南割	棟数(棟)	0	1	5	2	5	1	6	39	59
	構成比(%)	0.0	1.7	8.5	3.4	8.5	1.7	10.2	66.1	100.0
中越	棟数(棟)	7	8	4	8	16	18	17	30	108
	構成比(%)	6.5	7.4	3.7	7.4	14.8	16.7	15.7	27.8	100.0
つつじが丘	棟数(棟)	4.0	0	6	2	9	2	5	47	75
	構成比(%)	5.3	0.0	8.0	2.7	12.0	2.7	6.7	62.7	100.0
大原	棟数(棟)	6	4	3	3	6	18	28	219	287
	構成比(%)	2.1	1.4	1.0	1.0	2.1	6.3	9.8	76.3	100.0
用途地域指定区域	棟数(棟)	64	57	92	128	176	168	163	1,664	2,512
	構成比(%)	2.5	2.3	3.7	5.1	7.0	6.7	6.5	66.2	100.0

資料:固定資産土地・家屋データ(平成29年12月末)

注. 大久保地区のデータは所有者が限定されるため、つつじが丘へ算入している。

図4－5 地区別建物年齢別現況構成比



C0402 大規模小売店舗等の立地状況

本村における大規模小売店舗立地法に基づく届出の状況は、大規模小売店舗が1店舗（廃業1店舗除く）で3,000㎡以下となっている。

表4－6 大規模小売店等の立地状況

店舗名称	開店日	業態	店舗面積（㎡）	核テナント
A・コープ宮田店	H18.10.10	生協・農協	1,614	上伊那農業協同組合

資料：産業労働部 創業・サービス産業振興室 大規模小売店舗一覧（平成30年3月31日現在）

5． 都市施設

C0501 都市施設の整備状況

本村の都市計画道路は8路線8,491mが都市計画決定されている。西原土地区画整理事業の施行に伴う道路整備等により改良済み延長は3,811m、整備率は44.8％となっている。未改良延長は4,680mあり、名古屋塩尻線（国道153号）全線、中央線の国道より東側の区間、中越北線の国道より西側の区間等が未整備となっている。

都市計画公園は2箇所が都市計画決定され、平成7年度までに全て開設されている。

西原土地区画整理事業は、第一工区15.2haが平成7年度、第二工区9.0haが平成20年度に完了している。

表5－1 都市施設のの整備状況

決定年月日	都市施設名称	都市計画決定事項	事業期間	備考
	都市計画道路	幅員(m) 延長(m)		延長(m)
S48.3.12	3・5・1 名古屋塩尻線	12～16 2,730		
S48.3.12	3・4・14 駅仲町線	12～16 710	S54～H6 H11～H12	改良済延長 280
S48.3.12	3・5・15 東線	12.0 1,550	S48～S50 S54～H6 S59～H2 H3～H10	改良済延長 1,550
S48.3.12	3・4・16 中央線	16 1,180	S49～H1	改良済延長 800
S48.3.12	3・5・18 中越北線	12 1,530	S54～H6 H11	改良済延長 690
S57.7.2	3・5・19 宮田栗林線	12 680	S59～S61 H2～H9	改良済延長 380
S54.3.5	8・6・1 西原一号線	8 48	S54～H6	改良済延長 48
S54.3.5	8・6・2 西原二号線	8 63	〃	改良済延長 63
		計 8,491		計 3,811
	駅前広場	面積 4,500㎡		
	公共下水道			
S62.7.1 S62.11.21	宮田村公共下水道	面積 245ha	S62～H31	
S62.7.1	公共下水道処理施設	位置の表示	〃	
	市街地開発事業			
S54.3.12	西原土地区画整理事業	（第一工区） 施行面積15.2ha （第二工区） 施行面積 9.0ha	S54～H7 H11～H20	完了 〃
	都市公園 2・2・8 ひまわり公園 2・2・9 どんぐり公園	面積 1,950㎡ 1,270㎡	 S54～H6 〃	 完了 〃

資料：建設課

6. 交 通

C0601 主要な幹線の断面交通量・混雑度・旅行速度

平成27年における12時間交通量の多い路線は、一般国道153号で10,000台以上と多く、一般県道では宮田沢渡線が3,409台となっている。

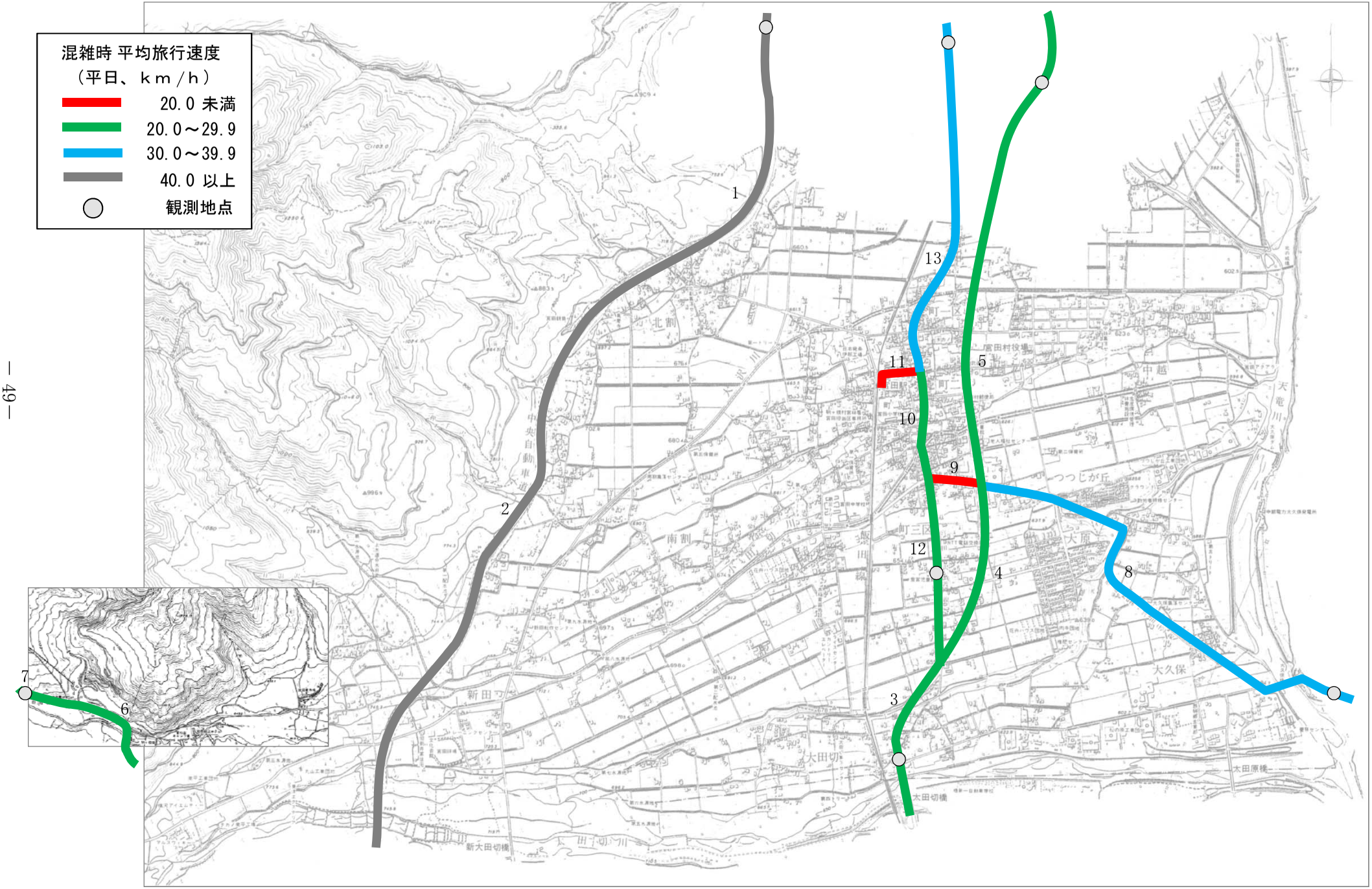
表6－1 主要道路断面交通量

路線名	観測地点名	平日12時間交通量	平日24時間交通量	大型車混入率	混雑度	混雑時平均旅行速度	分布図対象番号	備考（旅行速度調査区間）
		台	台	%		km/h		
中央自動車道西宮線	伊那インター線伊那IC～駒ケ根駒ケ岳公園線駒ヶ根IC	20,535	32,939	26.9	0.54	93.5	1	伊那市・宮田村境～宮田村・伊那市境
	伊那インター線伊那IC～駒ケ根駒ケ岳公園線駒ヶ根IC	20,535	32,939	26.9	0.54	91.3	2	伊那市・宮田村境～宮田村・駒ヶ根市境
一般国道 153号	上伊那郡宮田村5200（太田切橋北交差点）	15,201	20,369	9.1	1.43	21.3	3	駒ヶ根市・宮田村境～宮田沢渡線
	伊那市西春近赤木8851−1	12,699	17,017	10.9	1.59	27.2	4	宮田沢渡線～栗林宮田停車場線
						26.0	5	栗林宮田停車場線～宮田村・伊那市境
主要地方道駒ケ根駒ケ岳公園線	上伊那郡宮田村4752-4	277	374	56.3	0.94	*23.4*	6	駒ヶ根市・宮田村境～宮田村・駒ヶ根市境
					0.38	*23.4*	7	駒ヶ根市・宮田村境～
一般県道栗林宮田停車場線	駒ヶ根市東伊那6367	1,993	2,451	6.2	0.46	38.2	8	駒ヶ根市・宮田村境～一般国道153号
						15.8	9	一般国道153号～宮田沢渡線
						25.6	10	宮田沢渡線～宮田沢渡線
						17.0	11	宮田沢渡線～
一般県道 宮田沢渡線	上伊那郡宮田村4657	3,409	4,091	3.0	0.52	26.5	12	一般国道153号～栗林宮田停車場線
	伊那市西春近6419	1,538	1,846	1.8	0.40	30.0	13	栗林宮田停車場線～宮田村・伊那市境

注）斜体で示した旅行速度は、旅行速度が取得できず、異なる方向や時間帯で取得できた旅行速度または、平成22年の混雑時旅行速度で補った値です。

資料：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査

図6－1　混雑時平均旅行速度分布図（平成27年）



C0603 鉄道・路面電車等の状況

JR宮田駅は、市街地中心部に配置されている。平成21年の乗降人員は642人/日であり、主に通勤・通学等に利用されている。

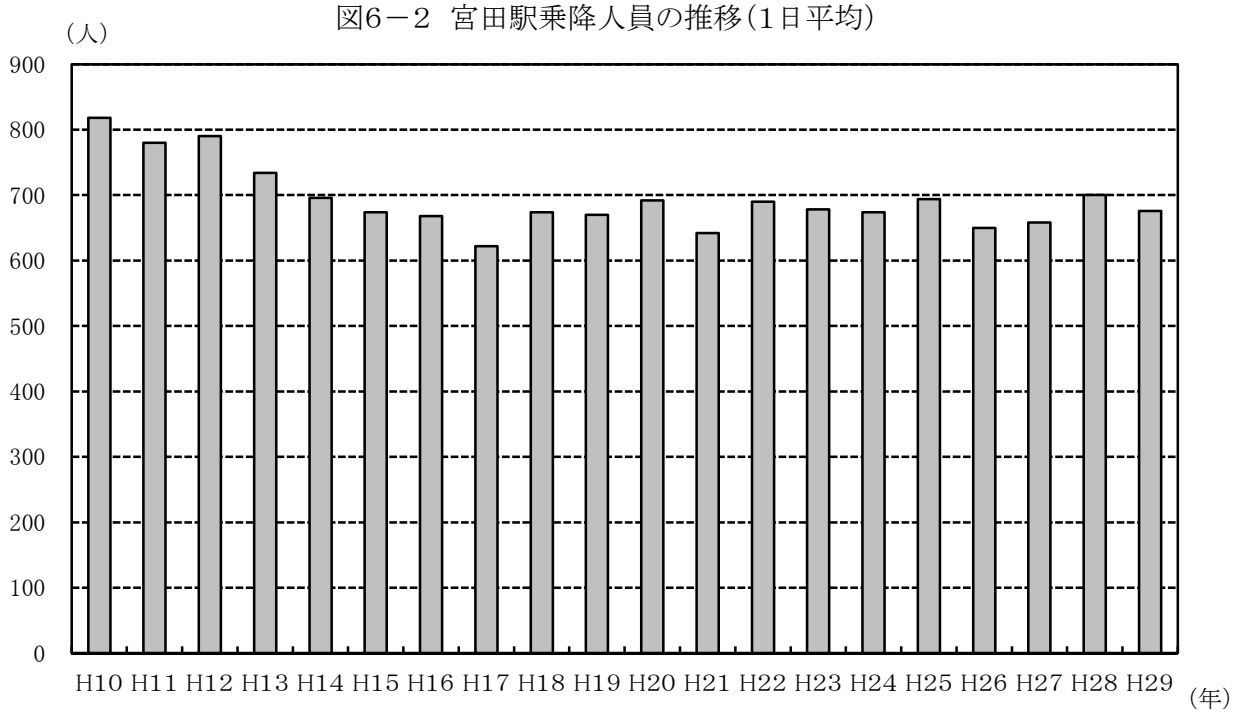
平成10年から平成29年までの乗降人員の推移をみると、平成14年以降、600～700人の間を推移している。

表6－2 主要駅乗降人員(1日平均) (単位:人)

年 次	JR 宮 田 駅	年 次	JR 宮 田 駅
平成10年	818	平成20年	692
平成11年	780	平成21年	642
平成12年	790	平成22年	690
平成13年	734	平成23年	678
平成14年	696	平成24年	674
平成15年	674	平成25年	694
平成16年	668	平成26年	650
平成17年	622	平成27年	658
平成18年	674	平成28年	700
平成19年	670	平成29年	676

資料:長野県統計書(各年12月現在)

図6－2 宮田駅乗降人員の推移(1日平均)



C0604 バスの状況

東京、横浜、名古屋、大阪等の主要都市へは、中央自動車道を利用する高速バスによって機能は充実している。

但し、近隣市町村を結ぶ路線バスは平成13年の国道路線の廃止により、現在は全く無く、村民の身近な交通手段はJR飯田線のみとなっている。

7． 地　価

C0701 地価の状況

平成27年における地価の状況は、県道沿いの近隣商業地域の3243-19番地が30,300円/㎡で最も高く、住居系用途地域では第1種住居地域の3538-3番地外が24,400円/㎡、6195-152番地が17,700円/㎡、第1種中高層住居専用地域の3455-4番地が17,100円/㎡となっている。

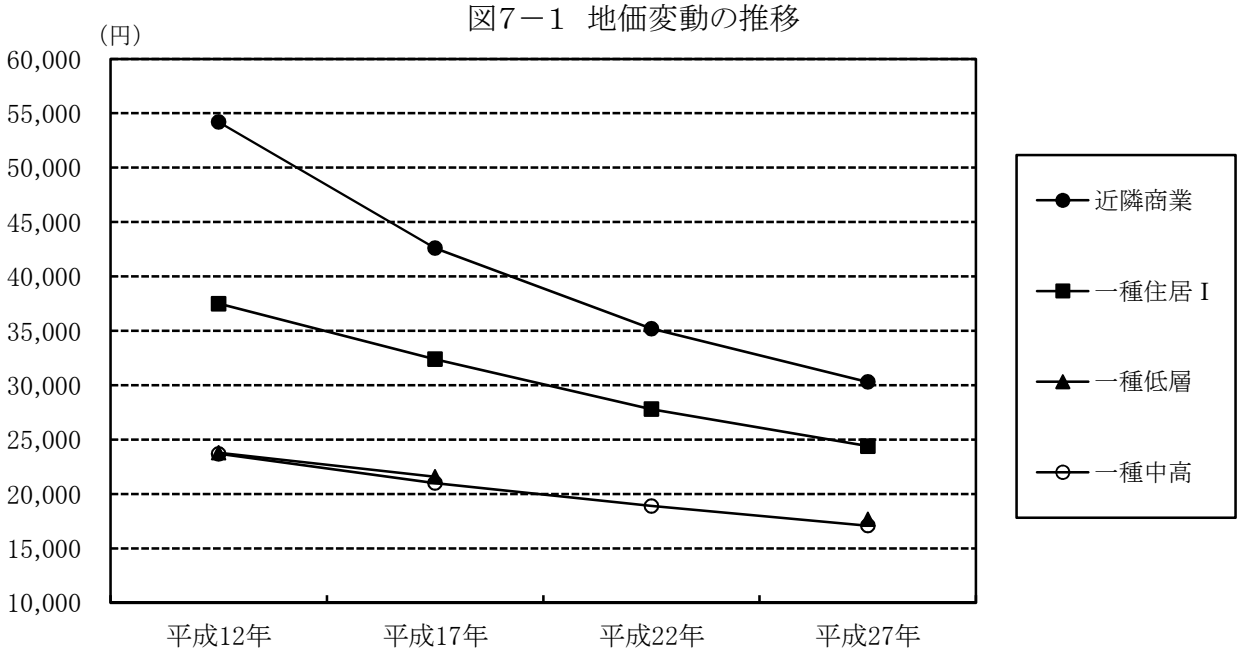
推移をみると、平成12年から平成27年にかけては、全ての調査地点において土地の価格が下落しているが、下落率は縮小の傾向にある。

表7－1 地価の推移

地番又は住居表示	年度	価格(円／㎡)	変化率(%)	土地利用の状況	調査種別
宮田村3538-3番地外	H12	37,500	－	一般住宅等が建ち並ぶ既成住宅地域	地価公示
〃	H17	32,400	△ 13.6	第1種住居地域(60/200)	
〃	H22	27,800	△ 14.2	建物用途:住宅	
〃	H27	24,400	△ 12.2		
宮田村3455-4番地	H12	23,700	－	一般住宅、農家住宅等が混在する住宅地域	地価公示
〃	H17	21,000	△ 11.4	第1種中高層住居専用地域(60/200)	
〃	H22	18,900	△ 10.0	建物用途:住宅	
〃	H27	17,100	△ 9.5		
宮田村6195-28番地	H12	23,800	－	中規模一般住宅が建ち並ぶ区画整然とした住宅地域	県地価調査
〃	H17	21,600	△ 9.2	第1種住居地域(60/200)	
〃	H22	－	－	建物用途:住宅	
宮田村6195-152番地	H27	17,700	－		
宮田村3243-4番地	H12	54,200	－	県道沿に低層店舗兼住宅等が建ち並ぶ商業地域	県地価調査
〃	H17	42,600	△ 21.4	近隣商業地域(80/200)	
宮田村3243-19番地	H22	35,200	△ 17.4	建物用途:店舗兼住宅	
〃	H27	30,300	△ 13.9		

資料:長野県地価調査(7/1現在)・地価公示(1/1現在)

図7－1 地価変動の推移



８．　自然的環境等

C0802　気象状況

過去10年間の平均気温は11.9℃、気温の極値は最高気温で35.9℃、最低気温で-16.6℃となっている。年間降水量は年により変動があるものの、10年間の平均は1,497㎜である。

表8－1　気象概況

年	気　温　(℃)			降 水 量　(㎜)		最　大 風速時 風　向	最　大 瞬　間 風速時 風　向
	平　均	最　高	最　低	総　量	日 最 大 降 水 量		
平成20年	11.5	34.6	△ 13.9	1,339.0	91.0	北西	南 南 西
平成21年	11.7	32.8	△ 13.6	1,635.5	66.0	南西	西
平成22年	12.0	35.0	△ 10.1	2,042.5	104.5	南	南 南 西
平成23年	11.5	34.0	△ 11.4	1,709.5	126.0	南	北
平成24年	11.4	34.9	△ 16.6	1,546.0	65.0	南南西	南 南 西
平成25年	11.8	35.9	△ 14.9	1,387.0	70.0	南	北　西
平成26年	11.5	35.2	△ 11.9	1,376.0	76.0	南西	西
平成27年	12.6	35.2	△ 11.1	1,269.0	60.5	南南西	南　西
平成28年	12.8	35.1	△ 13.1	1,553.5	105.0	南南西	南 南 東
平成29年	11.7	33.2	△ 10.4	1,116.0	62.5	南南西	南 南 西

注：気象概況については、過去10ヶ年のとりまとめを行う。
資料：エコーシティー・駒ケ岳・気象情報システム(観測地点：宮田村役場（風向きは北割））

図8－1　気象概況

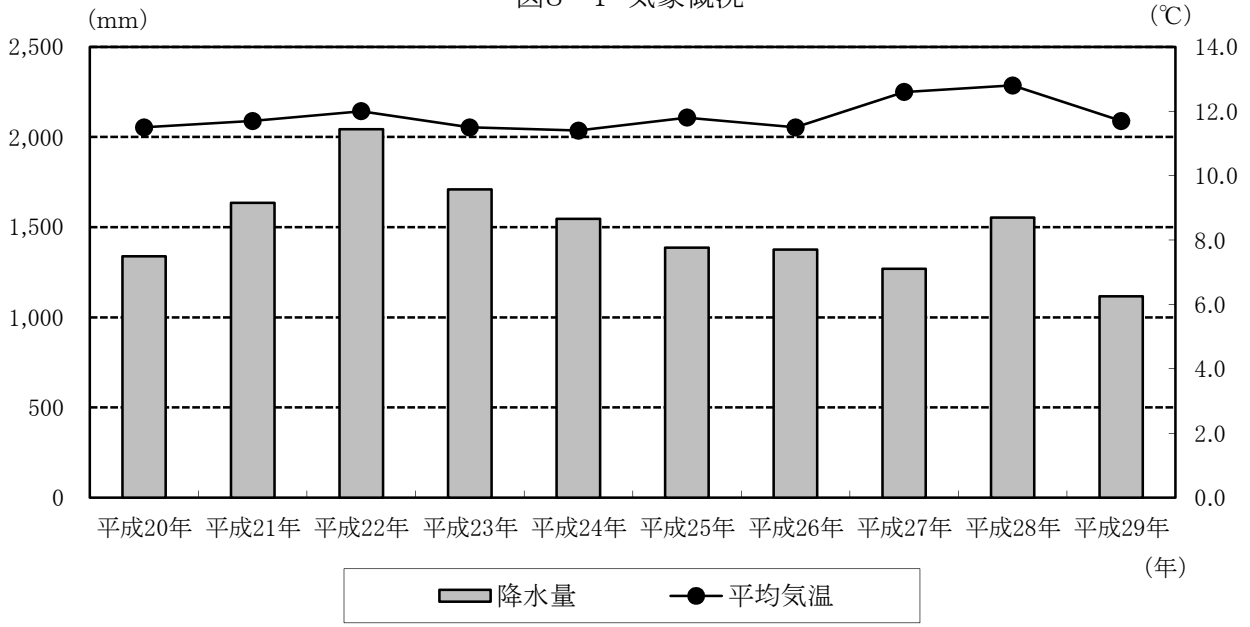
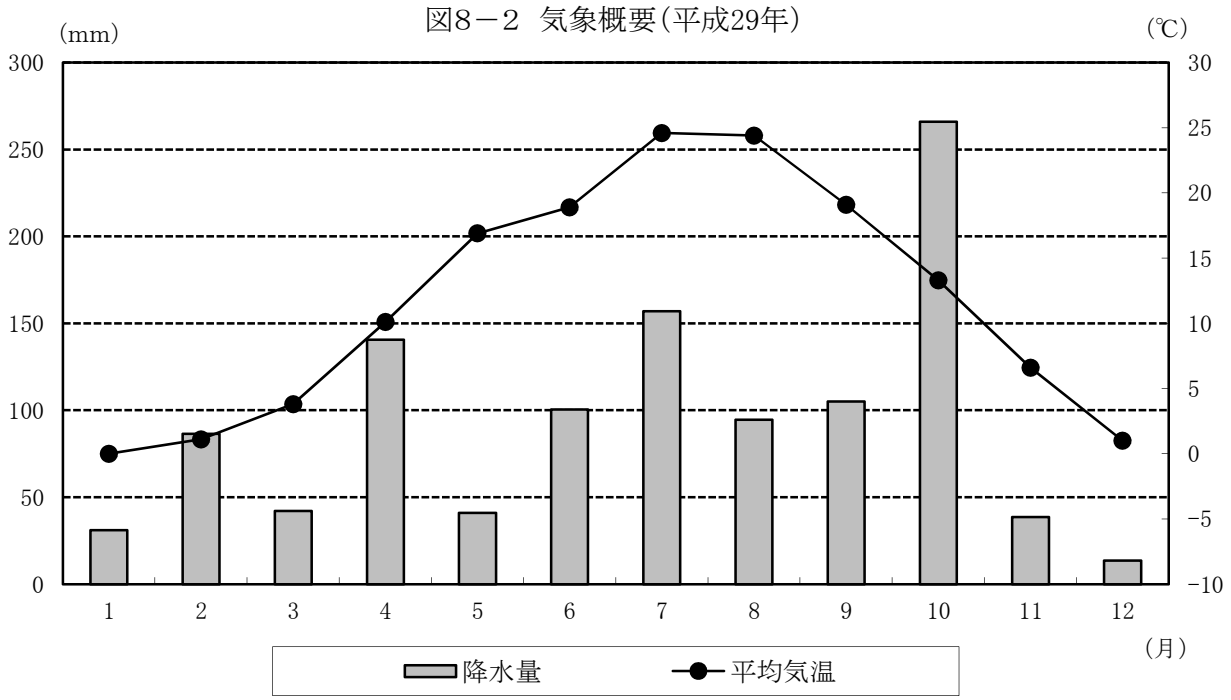


表8－2　気象概要（平成29年）

月	気　温　（℃）			降 水 量　（mm）		最　大 風速時 風　向	最　大 瞬　間 風速時 風　向
	平　均	最　高	最　低	総　量	日 最 大 降 水 量		
1	0.0	△ 10.4	12.1	31.0	13.0	南南東	南
2	1.1	△ 9.8	12.7	86.5	36.5	南	南
3	3.8	△ 4.9	16.1	42.0	15.5	南南東	南 南 西
4	10.1	△ 2.2	24.2	140.5	45.5	南	西
5	16.9	2.3	31.1	41.0	13.5	南南東	南 南 西
6	18.9	6.6	29.8	100.5	61.0	西南西	西 南 西
7	24.6	17.7	33.0	157.0	52.5	南南東	南
8	24.4	15.8	33.2	94.5	31.0	西	西
9	19.1	7.1	29.3	105.0	24.0	南南西	南
10	13.3	△ 0.7	28.2	266.0	62.5	北北東	北 北 東
11	6.6	△ 4.3	20.1	38.5	13.5	南南西	南 南 西
12	1.0	△ 7.9	13.8	13.5	11.5	南西	南 南 西

注：気象概要については、調査年次の1年前のとりまとめを行う。
資料：エコーシティー・駒ケ岳・気象情報システム(観測地点：宮田村役場（風向きは北割））

図8－2　気象概要（平成29年）



C0803 緑の状況

都市計画区域における現存緑地面積は1,099.7haであり、そのうち農地が45.4%、山林が48.6%となっており、この2種類で94.0%を占めている。公園・緑地、広場・運動場、墓園等の公共緑地は1.8%となっている。

用途地域指定区域における現存緑地面積は30.6haで、都市計画区域の全緑地面積の2.8%である。その内訳を見ると農地が全体の56.9%で大半を占めている。続いて、学校・企業厚生施設等が16.3%、山林が10.5%、公共緑地が10.5%などとなっている。

表8－3 現存緑地量の計量 (単位:ha)

区分		用途地域指定区域 人口集中地区(1)	用途地域指定区域 (1)を除く区域(2)	用途地域指定区域 小計 (1)+(2)=(3)	用途地域指定外区域 (4)	都市計画区域 (5)
公共緑地	公園、緑地	-	0.9	0.9	11.6	12.5
	広場、運動場	-	2.2	2.2	3.1	5.3
	墓園	-	0.1	0.1	1.9	2.0
	その他	-	—	—	—	—
その他の緑地	水面：河川、湖沼、水路	-	1.1	1.1	11.9	13.0
	水辺：海浜、河岸、湖畔	-	0.0	0.0	14.6	14.6
	山林、原野その他これらに類するもの	-	3.2	3.2	531.6	534.8
	農地、牧草地その他これらに類するもの	-	17.4	17.4	482.1	499.5
	社寺境内地、墓地その他これらに類するもの	-	0.6	0.6	5.3	5.9
	給排水その他処理施設等の公共公益施設付属緑地	-	0.1	0.1	2.5	2.6
	遊園地、施設公園、施設分区園その他これらに類する民営施設	-	0.0	0.0	0.0	0.0
	共同住宅・工場緑地その他これらに類する施設	-	0.0	0.0	0.0	0.0
	学校、企業厚生施設その他これらに類する施設	-	5.0	5.0	4.5	9.5
	林業・農業試験場その他これらに類する試験場、研究所等	-	0.0	0.0	0.0	0.0
合計		-	30.6	30.6	1,069.1	1,099.7

都市計画基本図計測値

9．　災害

C0901　災害の発生状況

本村おいては、過去10年間に大規模な災害は発生していないが、近年豪雨による災害が増えている。

C0902　防災拠点・避難場所

居住者、滞在者等の生命、身体の安全を確保するために、災害時の避難場所として、緊急避難場所・避難所が25か所指定されている。

表9－1　防災拠点・避難場所

名称	所在地	緊急避難場所	避難所	災害種別ごと適否				想定収容人数(人)	備考
				地震	洪水	土砂災害	大規模火災		
宮田村民会館	宮田村 7021	○	○	○	○	○	○	510	
宮田村老人福祉センター	宮田村 67674-1	○	○	○	○	○	○	250	
宮田村立宮田小学校	宮田村 3220	○	○	○	○	○	○	2,290	
宮田村立宮田中学校	宮田村 3474	○	○	○	○	○	○	1,490	
宮田村東保育園	宮田村 6745	○	○	○	○	○	○	640	
宮田村西保育園	宮田村 2820	○	○	○	○	○	○	300	
子育て支援センター　うめっこらんど	宮田村 3459-1	○	○	○	○	○	○	290	
中央グランド(中央公園)	宮田村 7516	○	－	○	○	－	○	－	
つつじが丘グランド	宮田村 6138-18	○	－	○	○	－	○	－	
宮田村総合公園ふれあい広場	宮田村 1926-9	○	－	○	○	－	○	－	
宮田村農業者トレーニングセンター	宮田村 1926-10	○	○	○	○	●	○	510	
宮田村文化会館	宮田村 1926-10	○	○	○	○	●	○	280	
宮田村デイサービスセンター	宮田村 6838-1	○	○	○	○	○	○	270	
町1地区高齢者支え合い拠点施設	宮田村 139-14	○	○	○	○	○	○	50	町1区公民館
町2地区高齢者支え合い拠点施設	宮田村 3261-7	○	○	○	○	○	○	50	町2区公民館
町3地区高齢者支え合い拠点施設	宮田村 3587-2	○	○	○	○	○	○	80	町3区公民館
駒ヶ原地区高齢者支え合い拠点施設	宮田村 4657	○	○	○	○	○	○	50	里宮会館
北割地区高齢者支え合い拠点施設	宮田村 664-1	○	○	○	○	●	○	110	北割集落センター
南割地区高齢者支え合い拠点施設	宮田村 2846	○	○	○	○	○	○	110	南割集落センター
新田地区高齢者支え合い拠点施設	宮田村 1632-3	○	○	○	○	●	○	80	新田地区転作促進研修センター
大田切地区高齢者支え合い拠点施設	宮田村 5074	○	○	○	○	○	○	100	大田切集落センター
大久保地区高齢者支え合い拠点施設	宮田村 5610-1	○	○	○	○	○	○	90	大久保集落センター
中越地区高齢者支え合い拠点施設	宮田村 7674	○	○	○	○	○	○	70	中越集落センター
つつじが丘地区高齢者支え合い拠点施設	宮田村 6122-2	○	○	○	○	●	○	70	宮田村勤労者研修センター
大原地区高齢者支え合い拠点施設	宮田村 6195-188	○	○	○	○	○	○	80	大原公民館

※災害種別ごと適否の凡例「○」:適　「●」:不適　「－」:対象外施設　　資料:宮田村地域防災計画

表9－2　消防水利の状況

計	消火栓(基)			防火水槽(㎥)			その他水利(基)		
	小計	公設	私設	小計	20以上40未満	40以上	河川溝等	プール	池等
85	20	20	0	63	54	9	0	2	0

資料:宮田村地域防災計画